

第四十四回 帝國議會 貴族院議事速記録第三號

大正十年一月二十四日(月曜日)

午前十時五分開議

議事日程 第三號 大正十年一月二十四日

午前十時開議

第一 麻生太吉君、中村圓一郎君請暇ノ件

第二 陸軍軍法會議法案(政府提出)

第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四 朝鮮軍軍法會議ニ關スル法律案(政府提出)

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第六 臺灣軍軍法會議ニ關スル法律案(政府提出)

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第八 關東軍軍法會議ニ關スル法律案(政府提出)

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十 海軍軍法會議法案(政府提出)

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十二 陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法廢止法律案

(政府提出)

第十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十四 刑事交渉法案(政府提出)

第十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十六 陸軍法務官及海軍法務官ノ恩給及遺族扶助ニ關

スル法律案(政府提出)

第十七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十八 巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案

(政府提出)

第十九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十 明治三十五年法律第二十九號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十二 明治四十四年法律第六十一號中改正法律案

(政府提出)

第一讀會

第二十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十四 大正九年勅令第四百八十五號(承諾ヲ求ムル件)

會 議

第二十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔小林書記官朗讀〕

去ル二十一日内閣總理大臣ヨリ左ノ通政府委員仰付ケラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

内務省所管事務政府委員

内務技監 原 田 貞 介 君

内務省參事官 山 縣 治 郎 君

内務書記官 田 子 一 民 君

一昨二十二日常任委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

資格審査委員會

委員長 公爵近衛 文 麿 君 副委員長 岡 野 敬 次 郎 君

懲罰委員會

委員長 侯爵德川 圀 順 君 副委員長 松 室 致 君

請願委員會

委員長 侯爵蜂須賀 正 韶 君 副委員長 男爵阪井 重 季 君

決算委員會

委員長 侯爵細川 護 立 君 副委員長 男爵西村 精 一 君

同日請願委員會ニ於テ決定シタル分科、分科擔當委員及主査ノ氏名左ノ如シ

第一分科(大藏省、農商務省)

主査子爵立花 種 忠 君 子爵渡邊 千 冬 君 男爵德川 厚 君

男爵小畑 大太郎君

岡本 榮吉君

高橋 琢也君
伊丹 彌太郎君

大谷 嘉兵衛君
西川 甚五郎君

第二分科(外務省、内務省、文部省)

主査子爵清岡 長言君

侯爵蜂須賀 正韶君

男爵阪井 重季君

男爵安藤 直雄君

田所 美治君

野々村久次郎君

佐藤友右衛門君

田中 源太郎君

藤本 閑作君

第三分科(内閣、司法省、逓信省)

伯爵勸修寺 經雄君

子爵吉田 清風君

男爵山根 武亮君

男爵本田 親濟君

澤柳 政太郎君

山田 斂君

中村圓一郎君

勝田 銀次郎君

富永 猿雄君

第四分科(陸軍省、海軍省、鐵道省)

主査子爵今城 定政君

子爵白川 資長君

子爵西尾 忠方君

男爵野田 龜喜君

男爵辻 太郎君

倉知 鐵吉君

川上 親晴君

八木 久兵衛君

秋山 源兵衛君

兼務

男爵德川 厚君

同日決算委員會ニ於テ決定シタル分科及分科擔當委員ノ氏名左ノ如シ

第一分科(歳入、大藏省、鐵道省)

子爵本多 忠鋒君

子爵大浦 兼一君

福原 鏐二郎君

男爵毛利 五郎君

男爵矢吹 省三君

山田 純精君

犬上 慶五郎君

二階堂三郎左衛門君

矢口長右衛門君

第二分科(外務省、内務省、司法省)

侯爵細川 護立君

伯爵中川 久任君

子爵東坊城 德長君

子爵秋月 種英君

男爵若王子 文健君

西久保 弘道君

平尾 喜三郎君

高橋 隆一君

成清 信愛君

兼務

男爵毛利 五郎君

第三分科(陸軍省、海軍省)

男爵木越 安綱君

子爵高倉 永則君

子爵柳生 俊久君

男爵西村 精一君

男爵太秦 供康君

男爵眞田 幸世君

安立 綱之君

石谷 傳四郎君

近岡 理三郎君

第四分科(文部省、農商省、逓信省)

子爵片桐 貞央君

北條 時敬君

男爵北大路 實信君

男爵二條 正麿君

大村 彦太郎君

石橋 謹二君

星島 謹一郎君

三木 與吉郎君

中山 嘉兵衛君

兼務

矢口長右衛門君

同日請願委員會副委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願文書表第一回報告書

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、一昨日ニ引續キマシテ質疑ヲ許シマス、仲小路廉君

○仲小路廉君 議長閣下ニ此際一言申上ゲテ置キマス、本日ハ多數有力ナ方方ヨリノ質問モゴザイマス、成ベク質疑ノ時間ヲ節約イタシマスル爲メ、質問應答共ニ簡潔ニ要領ヲ得ルコトヲ主ト致シタイト存ジマス、就キマシテハ此席ヨリ質問ヲ致スコトヲ御許シテ願ヒタウゴザイマス、其事ヲ議長ニ第一御願ヒ致シマス

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス

○仲小路廉君 是ヨリ内閣總理大臣ニ申上ゲマスガ、一昨日私ノ質問ニ對シテ御答辯ヲ得タノデアリマス、御答辯ノ趣旨ハ詳シク了承イタシタノデアリマス、此際特ニ總理大臣ニ希望ヲ致シマスルガ、私共ガ質問ヲ致シマスルノハ、唯徒ニ口舌ヲ弄シタイトハ存ジマセスノデアリマス、成ベク其ノ實質ノ伴ハムコトヲ希望スルノデアリマス、又徒ニ世間ノ感興ヲ惹ク意味デハゴザイマセス、隨テ總理大臣モ一國ノ宰相トシテ議員ノ質問ニ對シマシテハ、唯其場ヲ切抜ケルト云フコトノミデハナクシテ、議員ト共ニ憂ヲ共ニシテ國事ヲ議スルト云フ御考ヲ以テ御答辯アラムコトヲ希望イタス次第デアリマス、今日ハ成ベク要點ニ對シマシテ簡潔ニ申シマス、東洋ノ狀勢ニ付マシテ憂フベキコトハ多クアルノデゴザイマス、就中最モ憂フベキハ西比利亞ノ狀況デハナイカト存ジマス、西比利亞ニ對シテ我國出兵以來ノ狀勢デゴザイマス、私ハ今日既往ノ事柄ヲ彼レ是レ申スノデハゴザイマセス、直ニ現在及ビ將來ニ對シテ如何ナル處置ヲ執ラレルノガ至當デアルカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、實ニ西比利亞出兵以來我が帝國ノ態度ハ何レノ點ニ一

定ノ方針ガアッタノカ、屢、其態度ニ變化ヲ來シテハ居ラナカッタカ、ソレニハ種々四圍ノ事情モゴザイマス、其ノ變化ニ依テ又變化ヲ來スノモ、是ハ已ムヲ得マセヌノデアリマス、併ナガラ通ジテ其ノ根柢トナルベキ一定ノ方針ガアツテ然ルベキデハナイカト存ジマス、此方針ヲ承ルニ付テ先ヅ第一ニ伺ヒタイノハ、西比利亞ノ過激化ヲ致シマス……其產出、今一ツ簡明ニ申シマスレバ、其ノ地方延イテ其ノ四隣ガ赤化スルト云フコトハ是ハ已ムヲ得ズト御認メニナルノデアリマス、又其儘ニシテ置ク譯ニハ往カヌト御考ヘニナリマス、其點ヲ先ヅ御伺ヒ致シタイ

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 仲小路君ノ御質問ニ簡單ニ御答イタシマス、西比利亞出兵ノ目的ハ仲小路君飽クマデ御承知ノ筈デアリマス、主タル目的ハ「チエック、スローバツク」ノ救援ヲ目的ト致シタノデアリマス、其ノ救援ノ目的既ニ達シマシタガ故ニ撤兵ノ方針ヲ執ツタト云フノガ大體ノ趣意デアリマス、西比利亞地方ガ赤化スルトセザルトハ、希望ヲ申シマスレバ赤化セザルコトヲ望ムノデアリマス、併シ他國ノ領土デアリマス、他國ノ領土ヲ赤化セザルヤウニ希望イタスコトハ、萬々我國ノ爲ニ希望スル次第デアリマスケレドモ、サリトテ此ノ領土内ノ赤化ヲ防止スルガタメニ何カノ行動ヲ執ルト云フコトハ、即チ其國ニ對スル大ナル干渉ト相成ルノデアリマスルカラ、ソレ等ニ付テハ自衛的已ムヲ得ザル場合ハ何カノ處置ヲ執ラナケレバナラスコトハ申スマデモナイノデアリマスケレドモ、赤化スルト云フノヲ以テ之ヲドウスルト云フコトハ出來ナイノガ國際上當リ前ノ原則カト考ヘマス、故ニ赤化ヲ希望シナイト云フコトト、之ニ對スル處置ヲ執ルト云フコトトハ別問題デアリマスカラ、政府ニ於テハ今日此趣意ニ依テ西比利亞ノ赤化ハ希望イタシマセヌガ、徒ニ是ガ爲ニ出兵デモスルト云フヤウナコトハ致サヌノデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○仲小路廉君 唯今ノ御答辯ハ拜承イタシマシタ、一昨日ノ總理大臣ノ御答辯中ニハ、露國政府ガ過激派ノ爲ニ蹂躪セラレテ顛覆セラレタコトヲ遺憾トスル、又過日外務大臣ノ御説明中ニモ、即チ本月ノ二十五日デゴザイマス齊多ニ於テ極東共和政府……政府ニナルカモ知レヌ、之ニ付テハ今多數温和派……其ノ過激派ナルモノノ集マリデアルカラ、此處ニ帝國トシテ望ヲ置クト云フヤウナ御趣意デアッタト存ジマス、又是マデ西比利亞駐在ノ我が軍司令官

ニ於テ其ノ駐屯地方ニ於テハ共產化、過激化サセナイト云フコトヲ宣言セラレテ居ッタコトノヤウニ聞イテ居ル、此コトニ付マシテ私ハ疑ヒヲ起シマス、唯今總理大臣ノ御答辯及ビ一昨日ノ總理ノ御答辯ノ趣旨ニ依リマスルト、他國ノ領土内ニ於ケルコトニハ手ノ著ケヤウガナイト斯ウ仰セニナル、左様ナモノデゴザイマセウカ、總理ハ他國ノ領土内ニ於テハ如何ナルコトガアツテモ手ノ著ケヤウガナイト云フ御考デゴザイマセウカ、私ハ此點ヲ甚ダ疑フ、共產主義、過激主義……赤化スルコトガ是人道正義ノ上ニ於テ世界的ニ不都合ナモノデアリトスレバ、此點ニ於テ獨リ我國ノミナラズ、各國共ニ力ヲ致シテ宜シイ譯デアリマス、若シ又ソレガ至當ナリトスレバ至當ナリトシテノ方法……人類ノ幸福ノ爲過激化、共產黨化シテ居ル此コトガ不當ニ財產ノ橫奪、生命ニ危害ヲ與ヘル、斯ル行動ガ行ハレテ居ルト致シマシタナラバ、各國共同ノ力ニ依テ斯ル暴虐ノ行ハレヌ處置ヲ執ルノハ當然ノコトデアル、況ンヤ斯ルコトガ我が附近ニ、東洋ノ天地ニ瀰蔓ヲスルノヲ、東洋ノ平和ヲ期スル爲ニ戰爭マデ致シタ其國ガ、他國ノ領土デアアルカラ手ガ著ケラレナイトシテ、何等ノ措置ヲ御執リニナラス積リデアリマセウカ、之ヲ伺ヒタイ

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 仲小路君ノ再度ノ御質問ニ御答致シマスガ、露西亞ヲ赤化イタシテ居ルト云フ譯ヲ以テ、列國力ヲ協セテ之ヲ掃蕩シサウナモノデアルト云フヤウナル御見解デアリマシタガ、ソレハ一ノ御見解ニ過ギナイデアリマセウ、今日何レノ國モ露西亞ノ赤化ヲ防グガ爲ニ露西亞ニ對シテ出兵デモ致シテ居ルト云フ狀況デハナイノデアリマス、我國ニ於テハ此ノ内部ニ於ケル……露西亞ノ内部ニ於ケル所ノモノヲ、露西亞國民ノ考ヲ赤化セザルヤウニドウスルト云フコトハ出來得ル筈デモナイノデアリマスガ、併シ此ノ過激主義ノ我國ニ宣傳セラレ侵入スルト云フコトハ、自衛上飽迄防ガナケレバナラスノデアリマス、故ニ西比利亞ノ方面ヨリハ撤兵イタシタケレドモ、浦鹽竝ニ其ノ附近ニ兵ヲ駐メテ置クト云フコトハ、當時聲明イタシテ居ル其趣意ニ於テ明カナルコトト思フ、自衛的ニ我が領土内ニ影響ヲ及ボスコトハ防ガナケレバナリマセヌガ、他國ノ赤化スルトセザルト如何ヤウニカ手ヲ著ケルト云フコトハ、議論ニ於テモ餘程困難ナルコトト考ヘマスルシ、事情ニ於テモ亦困難ナルコトデアリマス、政府ハ露西亞ノ赤化ヲ防グガ爲ニ相當ナル手段ヲ執ラナケレバナラスモノトハ考ヘテ居リマセヌガ、此ノ過激主義ガ我國ニ

傳染スルガ爲ニ、自衛上飽迄防止セザルヲ得スト考ヘマシテ、西比利亞ノ方面ヨリハ撤兵イタシタケレドモ、浦鹽方面ニ兵ヲ駐メテ置ク次第デゴザイマス

○仲小路廉君 更ニ伺ヒマスガ、總理大臣ハ他ノ國ニ行ハレテ居ル事柄ニ付テハ是ハ何トモ致シ方ガナイト、斯ウ云フ矢張り御趣意ノヤウデアリマス、私ハ斯様ニ考ヘル、近來ノ趨勢殊ニ平和條約後、世界ノ國ハ從前ノ如ク何モカモ自分ノ國ハ自分ノ關係限リ、他國ニハ如何ナルコトガ行ハレテモ之ニハ何等關係ヲ持タナイ、銘々ノ國ガ自儘勝手ノ處置ハ世界的ニ許サレヌト云フ趨勢ニハナッテ居ラスカト思フノデアアル、所謂世界ヲ通ジテ人道正義ニ反スル點ニ付テハ協同ノ力ニヨッテ之ヲ防グ、是レガ近來ノ思想デハナイカト思フノデアリマス、ガ暫ク措キマシテ、尙ホ露國內西比利亞地方内ニアルコトデアルカラ、致シ方ナイト仰セニナリマシタガ、其ノ地方内ニ於テモ我が多クノ居留民、是等ノ投シタル各種ノ商工業、種々ナ點ハ全ク是レガ他ヨリ種々ノ侵害ヲ受ケテモ致シ方ガナイト云フベキデゴザイマセウカ、又更ニ一步ヲ進メテ西比利亞方面ノ關係ハ單リ西比利亞地方ニ止マラズシテ、直接我國ニ關係ヲ有ッテ居ル、西比利亞ノ直接關係ハ東清鐵道デアリマス、其ノ東清鐵道ノ關係ハ我が南滿鐵道ニ直接ノ關係ヲ有ッテ居ル、延イテ及ボス關係ハ密接ナ關係デゴザイマス、況ヤ浦鹽ヲ掛ケテ南北二重國籍民ト稱スル我が朝鮮民、是等ガ皆相延イテ分ツベカラザル關係ガ出來テ居ル、此ノ關係ガ浦鹽ヨリ及ンデ、終リニ琿春間島ニ至ル、其ノ一點ハ延イテ朝鮮ノ動搖ニ關係スル、故ニ西比利亞ノ問題ハ人事デアリマセヌ、他國ノコトデアリマセヌ、直接我が帝國脚下一ニ關係スル問題デアリマス、カルガ故ニ此點ニ付テ帝國ノ處置トシテ執ルベキ一定ノ態度方針、ソレニ依テ我々國民ハ之ニ隨伴ヲ致シタイト考ヘルノデアリマス、之ニ對シテ政府ニ一定ノ御方針ガアッテ然ルベキダト思フ、此點ヲ更ニ伺ヒマス

○國務大臣(原敬君) 唯今ノ御質問デゴザイマスルガ、ソレハ少シク事實ノ御調査ヲ願ヒタイ、唯今東清沿線等ニ付テノ段々御尋ガアリマシタガ、浦鹽ヨリ哈爾濱ニ至ルマデ、即チ東清鐵道沿線ニハ我兵ヲ置イテアルノデアリマス、之ニ依テ朝鮮方面ニ過激主義ノ宣傳其他ノコトヲ示威的ニ防イデ居ルノデアリマス、唯今御心配ノ點ハ政府ハ實行ヲ致シテ居ル、西比利亞一般方面ニ於キマシテ赤化スルコトハ好ミマセヌケレドモ、是亦他國ノ領土内トテ意ノ如クナラスノデアリマスルシ、又左様ナル場合ニ内政干渉ヲ致シテ敵國ニ

出兵デモ致スト云フコトハ、是ハ別ナ問題デ俄ニ出來ル問題デハナイノデアリマス、故ニ政府ハ先刻モ申シマシタ通り、最初ノ出兵ノ目的ハ「チエック、スロトバック」ノ救援デアリマスカラ、其主タル目的ヲ達シマシタ以上ハ西比利亞ヲ撤兵致シテ唯今御心配ニナッタル、浦鹽哈爾濱方面ノ沿線ニハ相當兵ヲ出シテ防止イタシテ居リマス、此ノ事實ヲ御承知下サレバ宜シイノデアリマス

○仲小路廉君 不肖ナガラ私ハ現在行ハレテ居ル狀況ハ承知イタシテ居リマス、其事ニ國民皆危懼ヲ懷キ方向ニ迷ウテ居ルノデアリマス、即チ西比利亞ノ出兵後ノ處置ハ屢々變化スルニ依テ、出兵ノ效果ガ空シクナルノミナラズ其事ニ危懼ヲ懷ク、即チ其危懼ヲ散ジ國民ノ向フ所ヲ知ラシメテ、一定ノ方途方策ガアッテ然ルベキデナイカト存ジマス、唯今御答ニ依リマシテ私ノ間ハムト欲スル所ノ要點ハ、少シモ其要ヲ……全ク無方針デアアル、且ツ既往現在將來ニ處シテモ何等定マル所ガナイカノ如ク承ルノハ甚ダ遺憾デアリマス、併ナガラ其點ハ姑ク措キマシテ更ニ伺ヒマス、對支那問題、支那ニ對シテ日支親善、是ハ申スマデモナイ、日支親善ハ必要デゴザイマス、併ナガラ何人モ言フ如ク日支親善ハ目的デハナイ、是ハ一ツノ手段、道行、之ニ依テ此ノ目的ヲ達シナケレバナラスノデヤナイカト思フ、目的ハ何デアルカ日支相提携シ共同シテ東洋ノ平和ヲ確保スルコトガ目的デアアル、東洋ノ發達進歩ヲ圖ルコトガ目的デアアル、此ノ目的ヲ達スル爲ニ何等カノ御方針ガゴザイマスルカ、私ハ現内閣以來日支親善日支親善ノミハ唱ヘラレマスルガ、其ノ日支親善ニ依テ達スベキ目的ハ何レニアルカラ了解シナイ、殊ニ遺憾ナルコトハ、日支親善日支親善ヲ口ニスル其下ニ日貨排斥ヲ受ケ、排日思想ノ彌漫ヲ來タス、甚シキニ至テハ戰爭開始ノ目的、東洋平和ガ依テ擾亂サレムトシテ已ムヲ得ズシテ執ツタ其處置、青島問題スラモ今以テ解決ガ付カヌ、今日マデ日本支那ノ間ニ於テ既往皆日支親善ヲ説ク、唯此ノ目的ヲ達セムガ爲ニ各種ノ協定モ出來タ、種々ナ友人モアッタ、然ニ何人ノ作用デアリマスカ如何ニ誤ラレタル考デアリマスカハ存ジマセヌガ、對獨講和條約開始以後ヨリシテ日支ノ間ハ甚ダ疎マシクナッテ居ル、誠ニ遺憾千萬、獨リ日支ノ親善ヲ保ツコトガ出來ナイノミナラズ、之ニ水ガ差サレテ來ル、折角公明正大ノ考ヲ以テ東洋平和ノ爲ニ説付ケテ各種ノ協定、有ラユル事柄ヲ定メタモノヲ、何等カノ特別ノ意味デアルカノ如クニ世界ニ吹聴セラレテ、折角出來テ居ッタ其ノ基礎マデ之ガ動搖ヲシ、遂ニソレ等ノコトモ全ク此用ヲ爲サヌト云フ點ニ至テハ遺憾

デハゴザイマセヌカ、改メテ申ス、支那ニ對シテ現政府ハ如何ナル事ヲ目的トシ、如何ナル方途ヲ執ラレテ居ルカ、之ヲ承リタイ

○國務大臣(原敬君)

西比利亞方面ノコトニ付テ既ニ御答イタシマシタケレドモ、唯今又如何ニモ政府ガ無方針ノヤウニ御話デアリマスルガ、ソレハ御批評トシテドチラデモ差支ハアリマセヌケレドモ、政府トシテハ一言申シテ置カケレバナラス、西比利亞ニ出兵イタシタ目的ハ「チエツク、スローバック」ノ救濟ニアツタ、現内閣ニ於キマシテ、之ヲ撤兵イタシ唯今申シタ如ク浦鹽竝ニ其附近、東清沿線哈爾濱ニ至ルマデノ間ニ多少ノ兵ヲ駐メマシタ時ニ、明カニ聲明イタシテ置イタノデアリマス、其ノ趣旨ハ此兩聲明ヲ篇ト御覽下サレバ趣旨ヲ一貫シテ居ル、我國ノ方針ハ動搖イタシテ居リマセヌノデゴザイマス、是ダケハ御諒承ヲ得テ置キタイ、日支關係デアリマス、日支關係ハ唯今仲小路君ノ言ハレタ如ク、排日等ノ言動ガ支那國內ニアルノハ甚ダ遺憾デアリマス、政府ニ於キマシテハ日支ノ間親交ヲ重ネルヤウニ致シタイコトヲ希望シテ居ルノデアリマス、故ニ政府ハ支那ノ反感ヲ醸スベキ、若クハ支那ガ特ニ日本ヲ排斥セザルヲ得スト云フヤウナル事柄ハ何モ致シテ居リマセヌ、努メテ日支ノ親善ヲ圖ツテ居ルノデアリマス、之ガ爲ニハ南北ノ統一ヲ列國ト共ニ忠告イタシタコトモ一度ナラズデアリマス、又支那ノ財政窮乏等ニ對シマシテ、列國ト、若クハ單獨ニ、相當ナル援助ヲ致シタコトモアツタノデアリマス、其他又兩國ノ間ノ甚ダ面倒ナル問題トナルガ如ク人ノ想像スル山東、濟南、青島ニ付マシテ、講和會議ノ決定ニ基キマシテ、是モ速ニ支那國ニ還付ヲ致シテ兩國ノ間ノ問題ヲ解決イタシタイト考ヘテ居ルコトデアリマス、然ニ如何ニセム支那國ハ之ニ應ジマセヌ、今日未ダ解決ヲ見ルニ至ラヌノデアリマス、左様ナ次第デアリマシテ、支那國ノ内治ニ於テ干涉ハ致シマセヌガ、併シ日支ノ間ニ成ベク親善ヲ保ツガ爲ニハ種々ナル方法ヲ執リ、又支那國ニ對シテ相當ノ援助モ客マヌノデアリマス、屢、申上ゲマス如ク、此ノ我國ノ誠意ガ支那國ニ徹底イタシマシタナラバ、初メテ兩國ノ間ニ親善ノ目的ヲ達スルコトデアラウト考ヘルノデアリマス、兎ニ角左様ナ次第デアリマスカラ、支那國ハ今日尙ホ國民ノ間ニ排日思想アリト致シマシテモ、是ハ政府ノ排日ヲ挑發スベキコトヲ致シタガ爲ト云フコトデハナイト云フコト、其ノ事實ヲ茲ニ御諒承ヲ願ハナケレバナラス、故ニ支那國ニ對シテハ飽迄モ親善ヲ圖リ、

東洋ノ平和ノ爲ニ紛擾ノ生ゼザルヤウニ努メテ居ルノデアリマス、是ガ即チ帝國ノ方針ト御認メニナツテ宜シカラウト存ジマス

○仲小路廉君

唯今總理大臣ヨリノ御答ガアリマシタ、其ノ御答ノ全部ヲ考ヘマス、依然トシテ單ニ日支親善ノミヲ説カレテ居ルノデアリマス、前キニモ申ス如ク日支親善ハ目的デハナイ、他ニ大ナル目的ガアルト思フ其ノ目的ハ一ニ東洋ノ平和ト東洋ノ發達進步デアリマス、然ニ日支親善日支親善ト口ニサレテ居リナガラ、日々ニソレニ相反スル、況ヤ青島ノ如キ、我ハ多クノ勞苦ヲシタ上ニ、尙ホ其モノヲ還付スルト云フ斯様ナル好意ノ、ソレスラモ何處カラ水ヲ差スノカドウカハ存ジマセヌガ、斯ルコトマデモ滯滯スルノハ實ニ遺憾ナコトデアアル、日支親善ヲ期セムトセラル、其ノ半面ニハ、常ニ不親善……不親善ノコトガ出來ル、是ハ我々實ニ心カラ憂フルノデアリマス、決シテ單ニ政府ヲ攻撃スルトカ何ト云フコトデハゴザイマセヌ、政府ニ於テモ能ク此ノ意味ヲ察セラレマシテ吾人ト共ニ、國民ト共ニ、憂ヲ共ニスルト云フ御考ニナツテ然ルベキコトデアラウト思フノデアリマス、尙ホ此點ニ付テハ種々承リタイノデアリマスガ餘リ時間モ切迫シテ居リマスカラ、姑ク是等ノ問題ヲ差措キマシテ、次ニ一昨日質問ヲ致シマシタ内政問題、此ノ問題ハ外交問題ト連絡ガナイカノヤウナ御言葉デアリマス、固ヨリ連絡ガナイノデアリマス、私ハ國ノ政治トシテ外ニ向ッテハ我が國威ヲ伸ブルコトヲ望ミ、内ニ於テハ政治ノ正シイコトヲ望ムノデアリマス、政治ガ正シクナイ結果ハ民心ガ不安ヲ感ジ、動搖ヲ來シ、延イテ社會風教各種ノ點ニ影響ヲ及ボスノデアリマス、是ガ即チ施政ノ根本トシテ内政ニ付テハ政治ノ正シカラムコトヲ望ム趣旨デアリマス、私ハ現政府ガ四大政綱ヲ掲ゲラレ、或ハ國防ニ、産業ニ、教育ニ、交通ニ、各種ノ點ニ御努力ニナルノハ深ク喜ブノデゴザイマス、是ガ他ノ點ニ利用セラレハセヌカ、黨勢擴張等ノ爲ニ國家ノ行政權ガ濫用セラレ安用セラレルヤウナコトガアリハスマイカト云フヤウナ點ニ疑ヲ生ジタノデアリマス、更ニ申シマスレバ政黨政府ト唱ヘラレテ居ル今日、或ハ政黨ノ總裁タル原總理大臣トシテハ政黨政治デアアル以上ハ、斯様ナコトハ止ムヲ得スト云フ御考デアアルカト疑ッタノデアリマス、然ニ一昨日ノ答辯ノ其ノ要點ニ付テ、要スルニ仲小路君ノ御心配ハ餘リニ黨ニ熱中イタシテ國家ノ利害ヲ顧ミナイヤウナ行動ガアツテハイクマイト云フ御心配デアアルト解釋イタシマスルカラ極メテ御同感デアリマス、尙ホ政友會創立者タリシ故伊藤公ノ趣

旨ヲ遵奉シテ、何處マデモ黨員ヲ戒飭シ、政黨政治ノ改善ヲ圖ラムコトニ努力ヲ致ス積リデアルト云フ御答辯ガアリマシタ、其點ハ私ハ甚ダ喜ブ所デゴザイマス、古來政治ニ於ケル梟雄ハ時々圖々シイコトヲ致シマシテ、甚ダ不條理ナコトモ鐵面皮ニ申スコトゴザイマス、流石ニ原總理大臣ハ私ガ茲ニ抄讀ヲ致シマシタヤウナ御趣意ノ答辯ヲ得マシタコトヲ私ハ甚ダ喜ビマス、即チ此ノ御答辯ノ御趣意ハ黨弊ノ恐ルベキコト、伊藤公ノ趣旨ヲ遵奉スルコト、此御趣意ヨリ申サレ、國家ノ行政權ヲ濫用シテ黨ヲ擴張其他ノコトニ之ヲ利用スルコトハ宜シクナイト御認メニナル、言ヒ換ヘレバ國政ヲ紊亂スル非行デアルト御認メニナル、果シテソレデゴザイマス、茲ニ原總理大臣ニ伺ッテ置キマス、過日申シマシタ、或ハ鐵道ノ敷設、河川、道路、港灣ノ改修或ハ水力電氣ノ統一、是等ノコトヲ本トシテ黨勢擴張ヲ圖リ、強ヒテ入黨ヲ慫慂シタル事實ガアリマシタナラバ、原總理大臣ハ如何ナサレマスカ、其點ヲ先ヅ御伺ヒ致シマス

○國務大臣(原敬君) 其ノ黨勢擴張云々ニ付テハ一日既ニ御答シタノデ盡キテ居ルト考ヘマスケレドモ、重ネテノ御尋デアリマス、其時ノ答辯ニモ申シマシタ通り、政府ノ局ニ在ル者ガ鐵道若クハ其他ノモノヲ利用イタシマシテ、依テ黨勢ヲ擴張シテ居ルト云フヤウナコトハナカラウト私ハ考ヘテ居リマス、若シ誰カ政府ノ局ニ當ッテ居ル者ガ左様ナルコトヲ致シタト云フナラバ、ソレハ聖旨ニ反スル行動デアリマスカラ、相當ニ戒飭等モ致シマセウ、兎角世間ニハ左様ナコトガ多イノデアリマス、現ニ近ク仲小路君ノ御郷里ニモ入黨者ガアリマシタ、ソレハ政府ノ當局者ガ勸メタノデハアリマセヌ、地方ノ人ガ互ニ入會シタラドウカト云フヤウナコトモアリマセウ、又入會シテ一ツ政府ニヤッテ貫ハウヂヤナイカト云フ希望者モ地方ニハ往々アルノデアリマス、ソレ等ノコトガ集ッテ入黨者ガ多クナッタリスルノデアリマス、之ヲ悉ク政府ガ何カヲ利用シテ黨勢擴張ヲ致シテ居ルモノナリト云フ御認メハ、事實ニ反スルノデアリマス、能ク反對スル人ナドハ左様ニ申シマスケレドモ、又地方ナドデモ多數ノ黨員ノ間デアリマスカラ、彼レ是レ申シテ居ル者モアリマセウガ、併シソレハ入會ヲ勸メル者バカリアルヤウナ御話デアリマスカ、入會スル者自身ガ政黨ニ這入ッテ、何カスルノガ宜シイト云フノデ這入ッテ參リマス、サウ云フ事實ハ實際ニ於テ各地方ニアアルノデアリマス、ソレヲ何カ政府ガ特ニ何カソレヲ利用シテ黨員デモ増加スルヤウニ圖ッタト云フ御認メ

ハ我々ノ意思ニ全ク反スルノデアリマス、左様ナコトハ政府ノ方デ決シテ致シテ居ラス

○仲小路廉君 唯今總理大臣ハ政府ニハサウ云フコトハナイ、但シ地方地方ニ於テハ地方ノ黨員等ガ左様ノコトヲ致ス者ガアルカモ知レヌ、又黨員外ノ者モ左様ナコトニ誘ハレルヤウナコトガアルカモ知レヌ、此點デアリマス、地方ノ黨員、其ノ地方黨員ナル者ガ是ガ兎角ニ虎ノ威ヲ借ル狐デ、時ノ政府ノ事柄ハ地方黨員等ノ自由ニ成ルカノ如キコトヲ考ヘ、又得テ左様ノコトヲ申スノデアリマス、我黨ノ政府、我々黨員ノ働キニ依テ如何ナルコトモ出來、鐵道ノ敷設、河川ノ修築、學校ノ建設ハ我々ノ働キニ依テソレヲ拵ヘル、入黨ヲセヨ、斯ウナル、是ガ實狀デヤ、是ハ殆ド天下公知ノ事實デハナイカト思フ、斯様ノ事實デゴザイマスカラ、ソレヲ一黨ノ總裁、黨員ヲ統率サレル總裁、ノミナラズ一面ニ於テ國家ノ宰相、總理大臣トシテ、斯ルコトガ已ムヲ得ストシテ打捨テ置キニナリマス、打捨テ置カレルノミナラズ暗々裡ニ之ヲ認メテ居ラレル、認メテ居ラレルノミナラズ、更ニ進シテ黨勢擴張、黨勢擴張トシテ之ヲ推獎サレテ居ラヌカト存ズル、此點ハ政治上誠ニムツカシイコトデ、御同情モ致シマス、嘗テ伊藤公モ政治ハ實ニ困難ナモノダ、多ク黨員ヲ引カムトスレバ、自然ニサウ云フコトガ出來テ來ル、己レ獨リヲ完ウセムトスレバ、常ニ黨員カラ見離サレル、伊藤公モ嘗テ演說サレタ、自分ハ場合ニ依テハ諸君カラ見離サレテモ、自分ハ自分トシテ國家ニ盡スベキ外ニ途ハナイ、政治家ノ苦心ハ實ニ其處ニアルト存ズル、私ハ原總理大臣ノ御苦心ハ察シマス、併ナガラ依テ生ズル此ノ弊害ヲ如何ニスルカ、更ニ進ンデ申シマス、總理大臣ハ我々首メ當局者ニハ決シテソレハナイト仰セラレル、アッタラ如何ニスルカト申スノデアリマス、此點ヲ確メテ置キタイ、鐵道省ノ諸官ニ、殊ニ地方長官等ニ於テ黨ノ爲ニ忠勤ヲ勵ムト云フコトヲ公然稱ヘテ居ル者ガゴザイマス、或者ハ誠ニ心ナイコト、自分ハ政友會知事デアアル、何派ノ知事デアルト云フ、殆ド公然ノ事實デアアル、サモソレヲ以テ一黨ニ忠勤ヲ擢デルヤウナコトヲ公言シテ居ル、斯ル國家ノ行政、殊ニ事務官トシテ至當ナコトデアリマスカ、總理大臣ハ斯様ナ者ハナイト思召デアリマスカ、惟フニ總理大臣モ是ハ無イトハ言ッテ居ラナイ、一昨日ノ演說中ニ斯ウ云フコトヲ言ッテ居ラレル、「ソレカラ鐵道港灣是等ニ付テ役人ガ黨勢擴張ノタメニ色々申シテ居ルト言フ御話デアリマスカ、是ハ唯今申シマシタ如ク、決シテ政府

ノ當局者ガ、入黨デモスレバ之ヲヤツテヤラウト言フヤウナコトヲ申スコトハ
ナイノデアリマス、若シ實際アリマシタト致シマスレバ監督上相當ナル取計
ヒヲ致シマセウ、斯様ニ仰セニナツテ居リマス、ナケレバソレデ宜シイ、若シ
モアリト御覽ニナリマシタナラバ、之ニ付テハ如何ナル御處置ヲ御取リニナ
ル積リデアリマス、ソレヲ伺ヒマス

○國務大臣(原敬君) 政府ノ方針ニ付テ御尋デアリマシタカラ、政府ハ決シ
テ左様ナル方針ハ執ツテ居ラズ、斯様ナル政府ノ局ニ當ル者ガ、鐵道港灣其他
ヲ利用シテ黨勢擴張ナドハ圖ツテ居ラヌト斯様ニ申シタノデアリマス、多數役
人中ニ左様ナ者ガアリマシタナラバ、其ノ事實ニ依テ相當ナル戒飭ヲ致サウ
ト云フコトヲ申シタノデアリマス、此上ドウ云フコトヲ御答イタシタラ宜シ
イノデアリマス、カ知リマセヌケレドモ、其ノ事柄ガアリマシタナラバ相當ナ
ルソレニ應ジテ戒飭ヲ致サウト云フヨリ外ニナイ、併シ能ク御考ヘテ願ハナ
ケレバナラヌノハ、或内閣ガ或政黨ヲ與黨ト致シテ居リマスル時ニハ、其ノ
與黨ノ人々ガ我々ノ黨派ニ這入レバ斯ウ云フコトガ出來ルカラ、斯フ云フコ
トヲシテヤラウト云フコトヲ言フタト云フヤウナ風説ガ屢、起ルノデアリマ
ス、ソコデ今日ハ政友會ガ政府ヲ後援スル與黨デアアルカラ、政友會ノ者ガ左
様ニ申シテ居ルト云フヤウナコトガ屢、新聞紙等ニモ散見イタシテ居ルノデ
アリマス、併シ是ハ一昨日モ申シタ如ク、ソナラ政黨ヲ後援ニ有タナイト
キノ政府ハドウデアッタカト云フト、矢張り下ニハ、ドノ黨派ト云ハズ政黨ヲ
脱シテ來レバ斯ウ云フヤウナコトヲ言フタト云フヤウナ風説
ガ屢、傳ハルノデアリマス、是ハ多數ノ人ノ間ニハサウ云フコトモ申ス者モ絶
對ニ無イトハ保證ハ出來マス、併シ是ハ政黨ヲ後援ニ致シテ居ル何レノ
政府デモ、政府デソレヲ方針ト致シテ居ルノデモナケレバ、政府ノ本意デモ
アリマス、又政府黨ノ……與黨ヲ有タナイ所ノ政府ト雖モ、政黨ヲ去レ
バ斯ヤウナ事ヲシテヤルト言フタト云フ風説モアッタヤウデアリマスガ、ソレ
モ其ノ時ノ政府ノ方針デモ本意デモアリマス、併シ左様ナルコトハ往々
各地ニハ風説ノ起ルコトデアアル、而シテ其ノ風説ノ何レニアルニ拘ラズ、然
ラバ之レニ依テ如何ナル案ガ出テ來ルカト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、
其ノ風説ニ裏書シテ果シテ黨勢擴張ニ利用シタカノ如キ案件ガ生ジマシタナ
ラバ、ソレハ相當ナル處置ハ議會ノ關係ハ議會デセラルルノデアリマスガ、
政府ハ政府ノ相當ナル處置ヲ執ツタノデアリマス、決シテソレガ爲メ方針ヲ枉

ゲテ其ノ主義ニ反スルト云フコトハ、如何ナル政府ト雖モ努メテ致サヌノデ
アリマス、現内閣モ唯今仲小路君ノ言ハレル様ナコトハ屢、承ツテ居ルノデア
リマス、我々ハ決シテ左様ナコトヲ本意ト致サナイ、政權ヲ利用シテ黨勢ヲ擴
張スルナドト云フコトハ毛頭考ヘテ居ラヌノデアリマス、併シ時ノ政府ニハ
兎角サウ云フコトヲ言ハレルモノデアリマス、又其ノ政府ヲ利用シテ其ノ政
府ノ力ニ依テ何カ企テムトスル地方デハ、他ヨリ誘フ者ナシト雖モ其ノ地方
ノ人々ハサウ云フ考モ起ルノデアリマス、故ニ私ハ屢、他ハ致シ方ハアリマセ
ヌガ、黨員ニ對シテハ其邊ノコトハ屢、訓示イタシテ居ルノデアリマス、黨員
ノ一舉一動ガ大ナル關係ヲ生ズルモノデアアルカラ、政府與黨デアアルナドト云
フコトヲ濫用イタシテ、勝手ナル言動ヲ爲シテハ相成ラヌト云フコトヲ屢、訓
示イタシテ居ルノデアリマス、之ニ依テ以テ政府ノ目的ハ御諒解ヲ得サウナ
モノト考ヘルノデアリマス、殊ニ私ハ政府ノ局ニ當リ、一方ニ黨員ヲ指導シ
テ居ルノデアリマス、尙ホ更ラ其邊ニ注意イタシテ戒飭ヲ常ニ加ヘテ居
ルノデアリマス、ソレニ依テ政府ノ意思ハ明瞭ニ御諒解ヲ得サウナモノト考
ヘテ居ルノデアリマス

○仲小路廉君 御答辯ノ趣意ハ能ク御諒解イタシマシタ、唯御言葉ノ中ニ時
斯ウ云フコトヲ承ハル、斯ヤウナコトハ獨リ政友會ノミデナイ、他ノ黨派
ニモソナナ人ガアル、或ハ黨派以外ノ者ハ又黨員ヲ脱シテ來イ云々ト言フタヤ
ウナコトモアルナドト云フコトハ……實ハ私ハ斯ヤウナコトハ申シタクハナ
イ、何故カト申セバ其ノ御趣意カラ申セバ他人ガ非行ヲスレバ我モ非行ヲス
ル、彼ガ惡事ヲ爲セバ自分モ惡事ヲ爲ス、サウ云フモノデハナイ、私ハ總理
大臣ニ左様ナコトヲ申スノデハナイ、總理大臣トシテ成ベク一國ノ行政ヲ完
クスル……總テノ官吏モ政黨ニ依テ執務ノ出來ルヤウニ致スノガ當然ダト
存ズルノデアリマス、蓋シ總理大臣ノ御趣意モソコニアッタカト存ジマス、是
ヨリ後ハ更ニ事實ノ點ニ付マシテ或時機ニ御伺ヒ致スコトガアラウト存ジ
マス、ガ唯此際ニ是非總理大臣ノ御考ヲ承リタイノデアリマス、南滿洲鐵道
會社デアリマス、南滿洲鐵道會社ヲ始ト致シマシテ政府ニ關係ノ有ル種々ノ
事業、是等ニ從事イタシテ居リマスル者ガ、名コソ會社デゴザイマス、若シ
モ、實ハ國家ノ經營トシテ重要ナ事ニ從事イタシテ居ルノデアリマス、若シ
モ是等ノ從事員ニ非行ガゴザイマシタナラバ、是レハ政府ノ諸官吏ト同様ノ
モノダト私共ハ存ジマス、總理大臣ノ御考ハ如何デゴザイマセウカ、是

ハ他日ニ必要モゴザイマスカラ此際承テ置キタイト存ジマス

○國務大臣(原敬君) 仲小路君ノ唯今ノ御質問ノ最初ニ、他人ガヤツテ居レバ宜シイト云フヤウナ意味デハナイカト云フヤウナ御話デアリマシタガ、ソレハ左様ナコトデアリマセヌ、何レノ政府モ——何レノ政府モデス、政黨ノ後援ヲ有ツテ居ル政府モ、有ツテ居ラヌ政府モ兎角政權ヲ利用シテ斯ヤウナ事ヲスルト云フ噂ノ立ツモノデアリマス、是ハドノ政府モ甚ダ迷惑ニ思フ事柄デアアルノデアリマスルガ、ソレヲ以テ直チニ左様ナ事アリト斷定スルノハ少シ誤ッテ居リハシナイカト思フノデアリマス、故ニ世間ニハ色々ナ評判ガアルモノデアリマスルケレドモ、往々事實ニモ相違イタスノデアリマス、現内閣モ亦左様ナ評判ヲ受ケテ居ル譯デアリマスルガ、決シテ政權ヲ利用イタシテ黨勢ヲ擴張スルナドト云フコトヲ致シテ居ラヌ、斯ヤウニ申シタノデアリマスカラ、重ネテ其ノ趣意ヲ明カニ致シテ置キマス、ソレカラ南滿鐵道其他ノコトデアリマスガ、是ハ御承知ノ通り會社ノ定款又法律勅令等ノアリマスルモノハ、ソレト其ノ規定ニ依テ政府ハ相當ナル監督ヲ致シテ居ルノデアリマス、其ノ以外ニハ別段ナコトハナイノデアリマス、其ノ規定ニ基イテ……何レノ點ノ御尋デアアルカ存ジマセヌガ、南滿鐵道ナラ南滿鐵道ノ定款ナリ法律勅令ノ定ムル所ニ依テ政府ハ監督ヲ致シテ居ルノデアリマス、左様ニ御承知ヲ願ヒマス

○仲小路廉君 數回種々ノ點ニ互リマシテ質疑ヲ致シマシタノデゴザイマスガ、又長ク時間ヲ費シマシタコトハ甚ダ恐縮イタシマス、唯今總理大臣ノ御答辯ノ要旨ハ自分共能ク了解イタシマシタ、更ニ是ヨリモウ少シ事實上ノ如何ニ付テ質問ヲ致スベキ點モアル、ソレハ更ニ他日適當ナ時ニ譲リマス、先ヅ今日ハ私ノ質疑ハ之ヲ以テ終了ト致シマス

○議長(公卿徳川家達君) 子爵加藤高明君

〔子爵加藤高明君演壇ニ登ル〕

○子爵加藤高明君 諸君、私ハ國家内外ノ情勢ヲ察シマシテ、其ノ前途ニ對シテ深憂ニ堪ヘヌモノガ澤山ゴザイマスル、例ヘテ申シマスレバ、外交ノ方面ニ付テハ其ノ方針ガ動モスレバ統一セザルコトガアルヤウニアリマス、又外ニ對シテ我ガ權利ヲ主張スル上ニ於テ、動モスレバ徹底ヲ缺クノ憾モアルト思フノデアアル、他國ト常ニ友愛ナル關係ヲ保チ、又何カ交渉ノコトガ起ツタニ際シテモ、對手方ノ立場ヲモ考ヘテ出來ルダケ互譲ノ態度ヲ執ツテ、雙方ニ

満足ナル結果ヲ得ルコトヲ努メルコトハ申ス迄モアリマセヌガ、苟モ我國ノ威嚴ニ關係イタシ、我國ノ道理アル權利ヲ主張スル點ニ於テハ、必シモ對手國トノ圓滿ナルコトノミヲ欲シテイカヌ場合モアリマシテ、正々堂々ト我ガ意ヲ主張スル必要ナルコトモアルコトハ申ス迄モアリマセヌ、是等ノ點ニ付テ現内閣ノ爲サレルコトハ、往々徹底ヲ缺ク憾ガアルヤウニ思フノデアリマス、又内政ノ方面ニ關シテ一二ノ例ヲ擧ゲマスレバ、今日我ガ經濟社會ハ不幸ニシテ疲弊困憊ヲ極メテ居ル狀況デアリマスルガ、此恢復ヲ圖ルガ爲ニハ種々ノ方策モアリマセウガ、主トシテ外國ニ對スル貿易ヲ盛ニシ、即チ我ガ物品ノ輸出ヲ成ルタケ澤山ニ致シテ行クト云フコトガ、一番著シイ效果ノアルモノデハナイカト思フノデアリマスガ、政府ニ於テモ、此點ニ於テハ定メテ御異論ハナカラウト思フ、政府ノ諸公モ機會アル毎ニサウ云フコトヲ仰ッシヤツテ居ルヤウデアリマスシ、又日本銀行ノ總裁ナドモ、頻ニ近來此コトヲ唱ヘラレテ居ル、ソレハ彼一個ノ說ニ非ズシテ、政府ノ旨ヲ受ケテ居ルノデアラウカト推測ノ出來ルノデアリマス、然ニ此ノ外國貿易ヲ盛ニスルト云フコト、現政府ガ執ツテ居ラル、方針ト往々齟齬矛盾スルコトガアリハシナイカ、外國貿易ヲ盛ニスル、殊ニ輸出貿易ヲ盛ニスルニハ申ス迄モナク良貨廉賣主義ニ出ヅル外ハナカラウト思フ、品物ヲ良クシテ成ルベク之ヲ廉ク賣ル、世界各國大競争ノ場合ニ於テハ、尙更ラ必要デアリマスガ、然ニ政府ノ方針ハ我々ノ察シ得ル限りニ於テハ、成ルタケ物ノ値ヲ下ゲタクナイト云フヤウナコトヲ考ヘテ居ラレルノカ居ラレヌノカ存ジマセヌガ、往々サウ云フ意思ガアルカト思ハレルヤウナ形跡ガ見エルノデアリマス、果シテ然ラバ是ガ外國貿易ヲ盛ニスルト云フ目的ニハ副ハヌモノデアルト思フノデアリマス、ソレカラ又財政計畫ニ付テ見マシテモ、此頃組立テラレタル財政計畫ハ大ニ患ヲ後日ニ貽スモノデハナカラウカト思フ、即チ一時限りノ剩餘金ヲ以テ歲入ノ不足ヲ補ヒ帳尻ヲ合せ、又ソレデモ足ラヌ時ニ於テハ公債ヲ大ニ募ルト云フヤウナ策ヲ執ラル、ヤウナ有様デアリマシテ、後日は爲ニ我ガ財政ハ大ニ患ヲ受ケルコトハアリハシナイカト云フ心配ヲ致ス、思想問題ト云フコトニ付テハ、總理大臣其他ノ内閣ノ諸公モ常ニ是ハ憂慮シテ居ラル、有様デアリマシテ、機會ノアル毎ニ其ノ意味ノ言明モアリマスルガ、之ニ對シテ何等ノ施設ヲ爲サレタカ、又爲サレムトスルノカ、遺憾ナガラ私ハ其ノ徵候ヲ認メナイノデアリマス、ソレカラ又大戰後世界ノ各國ノ有様ヲ見マスレバ、國

力ノ恢復ヲ圖ラムガ爲ニ政事ヲ爲ス上ニ於テ、大ニ緊張ノ態度ヲ示シテ銳意種々ナコトヲ畫策シ盡力シテ居ルヤウニ見エマスルガ、我國ニ於テハ頗ル弛緩ノ狀ガアルヤウニ見エルノデ、成程行政ノ機關ハ近年大分殖エマシタ、種種ノ役所モ出來、種々ノ委員會ハ一兩毎ニ殖エルヤウナ有様デアアル、從テ行政ノ費用モ莫大ニ増加シ來タノデアリマスガ、此ノ行政機關ノ膨大、經費ノ増加ヨリシテ如何ナル成績ヲ得タルカ、即チ成績ハ殆ド之ニ伴ハナイト云フ憾ヲ私ハ持ッ者デアアル、ソレカラ又一體ニ國家ノ綱紀ト云フモノガ近來廢弛ノ狀ガアリハシナイカ、其事ハ頗ル大問題デアアルノミナラズ廣汎ナコトデアリマシテ、一々例ヲ舉ゲテ申上ゲルニハ時間ガ澤山掛カリマスガ、何トナク國家ノ綱紀ガ荒廢シタト云フコトガ我、人トモニ感ズル所デアリマシテ、現ニ内閣總理大臣モ新年ノ辭トシテ新聞紙ヲ經テ世間ニ與ヘラレタル辭ノ内ニ、近年我が國人ニハ義勇奉公ノ念ヲ缺クヤウナ形跡ガアルト云フヤウナ意味……言葉ハ其通りデアッタカドウカ存ジマセヌガ、詰リサウ云フ意味ノ言葉ガアツタ、總理大臣モ亦之ヲ感ゼラレテ居ルヤウデアリマスガ、官廳ノコトト云ヒ、地方自治團體ノ役所ノコトト云ヒ、其他一般ノ綱紀ニ於テ甚ダ弛ンデ居リハシナイカ、斯ウ云フ悞ヲ持チ疑フ懷クノデアリマスガ、是等ノ諸點ニ付テ精シク自分ノ感ズル所及ビ不審ト致ス所ヲ申述ベテ、政府ノ所見ヲ質シタイノデアリマスルガ、唯今申述ベタ中ノ或ルモノハ殊ニ第一ニ申上ゲタ外交ノ方針ニ統一ガナイト云フコトノ如キハ、事頗ル幾微ニ互ルコトデアリマシテ、政府當局ノ御方ハ精シク説明セヌデモ是ダケデ御分リニナルト思ヒマス、ソレ以上説明スルコトハ私ハ甚ダ不便ト致シマス、政府ニ於テモ之ニ御答辯ナサルコトハ必定御不便デアラウト推察致スノデアリマス、ソレデアリマスカラ精シキ點ニ付テ質問致スコトハ詢ニヤリ惡クイカラ差控ヘマス、其他ノ問題モ何レモ國家ノ爲ニ頗ル重大ナル事柄デアアル、又中ニハ極メテ複雑ナル事柄モアリマシテ、私ヨリ御尋ヲ致スニハ精シク自分ノ考モ申述ベテ政府ヨリモ之ニ相當スル成ベク詳細ナル御答ヲ得タイノデアリマスルガ、今列ベマシタ數箇ノ問題、其ノ各、ニ付テモ私ノ希望スルガ如キ問答ヲ致スコトニハナカノ時間ガ掛ル、況ヤ之ヲ悉ク致スニハ、連モ二時間ヤ三時間デハムヅカシイ、或ハ數日掛カルカモ知レマセヌ、貴族院ノ貴重ナル時間ヲ私一人デ獨占スルコトノ出來ヌコトハ申スマデモナイ、諸君ニ甚ダ相濟ミマセヌ、然ニ幸ナルカナ、私ヨリ先ニ質問サレタ仲小路君ノ如キアリ、又是ヨリ澤山ナ

ル同僚諸君ガ種々ノ點ニ付テ政府ニ御質問ナサレルト云フ通告モシテアル趣デアアルカラ、必ズヤ諸君ノ質問ノ際ニハ私ノ唯今申上ゲタヤウナ考ニ付テモ御尋アルコトト思ヒマス、其ノ質問應答等ヲ承テ居レバ自ラ事理モ鮮明ニナリ、私ノ不審ト致ス所ガ明カニナル場合モアラウト思ヒマスカラ、ノミナラズ又必要ガアリトスレバ次イデ再ビ機會ヲ得テ私ノ不審ヲ質スコトト致シマシテ、是等ノ問題ニ付テ政府ヘ質問シタクハアリマスガ、私ハ今日差控ヘマスルガ、唯ダ對外關係ニ付テ一事如何ニモ大切ノコトト思フコトガアル、而シテ其ノ事柄ガ既ニ過去タ事柄デハナイノデ今日尙ホ行ハレテ居リ、將來續イテ行ハレルト云フ事柄デアリマスルカラ、此ノ事柄ニ付テハ精シク政府ノ所見ヲ御尋ネ致シテ重大ナル時局ニ處スルノ途ヲ國民ト共ニ考ヘタイト思フノデアリマス、ソレハ何カト申セバ西比利亞問題デアリマス、殊ニ西比利亞ヨリ今居ル兵ヲドウスルカト云フ斯ウ云フ要點デアリマス、西比利亞撤兵ノコトニ付テ御尋スルニ當リマシテハ、先ヅ以テ當初出兵ノ由來ヨリ説クト云フコトガ至當ノ順序デアリ、又私ノ不審ノアル所ヲ政府ノ諸公ニ明カニスルニ付テ必要ト思ヒマスルカラ、能ク政府ノ方モ固ヨリ御承知デアリ我ガ同僚諸公モ御承知ノコトデアリマスガ、議論ノ順序トシテ大略申述ベルコトヲ御許シテ得タイノデアリマス、抑、西比利亞出兵ト云フ事柄ハ、大正七年ノ初夏ノ候ニ始メテ世間ニ傳ハリマシタ、其ノ當時私ハ其ノ事柄ノ事實アルコトデアルヤ否ヤモ存ジマセズ、又アリトスレバ如何ナル理由ニ依テ我兵ガ派遣セラハ、ト云フコトモ審カニ致シマセヌガ、妄リニ出兵等ノコトガアレバ、或ハ列國ヨリ猜疑ヲ招キ、露國民ヨリ反感ヲ買フト云フヤウナ結果ヲ生ジテ、大ナル不利益ヲ我ニ被ルコトガアリハシナイカト云フ大體ノ心配ヲ致シテ居タノデアリマスガ、此際ニ米國政府ヨリ我が政府ニ向テ西比利亞ニ於テ一ノ目的ヲ達スル爲ニ共同出兵ノコトノ申込ガアツタ趣デアリマス、ソコデ私ハ今日歐羅巴ノ諸國並ニ米國ト共ニ、共同ノ敵ニ當ッテ戰爭ヲシテ居ル所デアアルカラ、共同策戰ノ目的ヲ達スルガ爲メニ必要トアレバ、自國ノ不便利ハ顧ミズシテ、尠クモ或度合迄ハ、與國ノ提議ニ應ジテ、是ト協調ヲ保ツト云フコトガ必要ナ事デアルト云フコトヲ信ジマシタ、サウ云フ理由デアレバ已ムヲ得ヌ、即チ米國ノ提議ニ應ゼラレテ出兵ヲナサレタラ宜カラウ、但シ之ニ付テハ能ク聯合與國ト協調ヲ致シ、出兵ノ方法人數等ノコトニ付テモ其ノ協調ノ範圍ヲ出デザルコトヲ條件ト致シテ、至極其事ハ結構デアラウト云フコト

ヲ自分デ考ヘテ居ッタ折柄、今日ノ總理大臣原君ハ臨時外交調查會員トシテ偶、此事ニ付テ自分ノ考ヘテ居ルコト同一ノ意見ヲ持ッテ居ラレル、而シテ或ル議論ヲシテ居ラレル、デ私ハ之ヲ承ッテ……傳聞シテ大ニ喜シダノデア、何卒原君ハ此ノ主張ヲ固持セラレムコトヲ希望スル、デ或ハ餘計ナコトデアツカカ存ジマセヌガ、若シ原君ガ此ノ主張ヲ貫徹スルコトニ忠實デアレバ、別ニ御頼ミヲ受ケタ譯デモナイシ且ツ微力デアリマスガ、必要ニ應ジテハ自分ハ原君ノ立場ヲ援護シタイト云フコトマデ決意致シタノデアリマス、其間ノ消息ハ唯今ノ内閣諸公中有力ナル御方、一二ノ御方ハ詳シク御承知ニナッテ居ル筈デアリマス、私ハ決シテ想像ヤ何カラ申スノデハナイ、原君トハ直接御目ニ掛ラナンダノデアリマスガ、現ニ今日ノ内閣員中ノ有力ナル御方、一人ナラズ二人モ詳シク御承知ノ筈デアアルノデアリマス、デ私ハ原君ガ其ノ主張ヲ貫徹セラレムコトヲ期待シテ居ッタノデアリマスガ、後ニ事實トナッテ實現シタ所ヲ見マスルト、豈圖ランヤ其ノ期待ハ裏切ラレタノデアアル、日本カラハドレ程ノ兵ガ出タカト申スト七萬五千ト云フ大兵ガ出タ、是ハ私ハ甚ダ遺憾ト致シタコトデアリ、又原君モ或ハ遺憾トセラレタコトデナカラウカト思ッタノデアリマス、即チ前刻申上ゲマシタ如クニ、西比利亞ニ出兵ヲ致ストシテモ、關係ノ諸國ト能ク協調ヲ保チ、其ノ協調ヲ爲シタ所ノ範圍ヲ出デテ出兵シテハナラヌ、若シ之ヲ爲セバ徒ラニ列國ノ猜疑ヲ招キ、又露國民ノ怨恨ヲ買フニ至ッテ、不利ヲ蒙ルモノハ我國獨リデアアル、寔ニ重大ナル結果ヲ生ズルコトノ虞アルニ鑑ミテ、此間ノ行動ハ頗ル慎重ニシナケレバナラヌト、當時モ思ヒ今モ尚ホ思ッテ居ル次第デアリマス、抑、出兵ト申スコトハ申ス迄モナク國家ノ大事デアリマシテ、古人ノ所謂死生ノ地存亡ノ途デアリマシテ、理義名分極メテ明白ナル場合デアラネバ決シテ爲スベキモノデナイ、況ヤ濫リニ爲スベキモノデナイノデアアル、帝國ノ威嚴ヲ維持シ若クハ重大ナル帝國ノ利益ヲ擁護スル爲ニ、寔ニ已ムヲ得ザル場合ニ於テノミ實行スベキ事柄デアリマシテ、是ハ濫リニスベカラザルコトハ申ス迄モナイコトデアリマスガ、況ヤ彼ノ時ノ如クニ列國トノ協調ヲ必要トスル場合ニ於テハ、絶對ニ其ノ協調ノ趣意ニ基イテ必要ナル最少ノ限度ヲ超エナイヤウニ致サスケレバナラヌ次第ト私ハ考ヘル、然ニ政府ハ是ニ反シタル爲ニ出兵ノ當初ヨリ列國ノ疑ヲ招キ、露國民ノ反感ヲ買ヒ、其ノ怨恨ノ的トナツタノハ遺憾千萬ナコトデアリマシテ、爾來今日ニ至ルマデ二年有半デアリマス、尙ホ今日モ兵

ヲ駐メ、更ニ將來モ之ヲ續ケテ行カウト云フ場合デアアル、從ッテ私ハ決シテ辯ヲ好ム次第デアアリマセヌガ、如何ニモ國家ノ爲ニ默過スルコト能ハザルヨリ此事ニ言及スルニ至ッタ次第デアリマスガ、大正七年ノ十月原君ガ内閣ヲ組織サレルニ當ッテハ、出兵當初ノ即チ前内閣ノ聲明モアリマスルシ……聲明ノ次第モアリマスルシ、又原君ノ御素志デモアリマスルカラ、「チエック、スロバツク」ノ援助ト云フ目的ヲ達シタル上ハ、即チ其ノ目的ヲ達シタト云フコトハ、大正八年ノ一月ノ議會ニ於テ原總理大臣ヨリ言明サレタ通りデアリマス、其ノ目的ガ達セラレタ上ハ、必ズヤ其爲ニ出シタル所ノ我兵ハ、直チニ撤退セラル、デアラウ、先ヅソレガ至當デアアル、原君ハ元來其ノ意志デアラセラレタデアラウト私ハ推察スル理由ヲ有ッテ居リマシタ故、尙ホ更右ノ如ク考ヘタ次第デアリマスガ、豈圖ランヤ政府ハ全部ノ撤兵ヲ爲サズ、僅カニ一部ノ減兵ヲ爲シタノミデアリマシテ、其他ハ極東露領秩序維持ト云フ名義ノ下ニ、尙ホ二萬五千ト云フ大兵ヲ駐屯セシメタデアリマス、抑、帝國ハ如何ナル理由ニ基キ、又如何ナル權限ニ依テ露國ノ秩序維持ノ爲ニ、帝國ノ負擔ニ於テ我が國防軍ヲ大ニ動かサナケレバナラヌト云フ必要ガアリマスルカ、私ハ其ノ理由ヲ全ク解シ得ナイノデアアツテ、其後大正八年ノ末頃ニ至リマシテ、西比利亞ノ各地未ダ安定ヲセヌト云フ理由ノ下ニ更ニ若干ノ増員ガ行ハレタンデアリマス、此ノ前後ニ本院及ビ衆議院ニ於テ總理大臣竝ニ其他ノ諸公ヨリ……政府諸公ヨリ此問題ニ付テノ質疑ニ對シテ答辯セラレタル趣旨ヲ綜合イタシマスルニ、或ハ不逞鮮人ノ取締ノ爲メノ必要ヨリ出デタモノダト云フコトヲ言ハレタ場合モアル、又ハ過激思想傳播防遏ノ爲ニ兵ヲ駐メル必要ガアルト云フコトヲ言ハレタ場合モアル、又既ニ一旦目的ヲ達シタガ、「チエック、スロバツク」ヲ再ビ救援スル必要ガアルト云フヤウナコトヲ言ハレタ場合モアル、要スルニ駐兵、兵ヲ駐メル目的ガ浮動轉々、頗ル捕捉シ難イ、少シモ捉マヘルコトガ出來ヌ、何ダカ分ラナイ、ト云フコトノ感ジヲ私ハ抱キマシタ、蓋シ私一人デナカラウト思フ、世人ノ多クハ此疑ヲ抱イタラウト思フ、又以テ駐兵ノ理義ガ根本的ニ公明デナイト云フコトヲ證スルニ足ルコトト思フノデアアル、大正九年ニナリマシテ、即チ昨年ニナリマシテ、米國ハ其出シテ居ッタ所ノ兵ヲ撤退致シマシタ、元ト我國ハ米國ノ提議ニ應ジテ兵ヲ出シタ次第デアリマスカラ、提議者タル米國ガ兵ヲ引クニ至ッタ場合ニ於テハ、我ハ協調ノ精神ヲ重ンズル上カラ言ッテモ、又當初兵ヲ出スニハ西比利亞ニ於テ難儀ヲ

シテ居ル所ノ「チエック、スローバック」救援ノ爲デアル、此ノ目的ヲ達シタ以上ハ速ニ兵ヲ引クト言フコトヲ宣言セラレテ居ル、其ノ趣旨ニ對シテモ速ニ撤兵ヲサレテ然ルベキ場合デアッタノデアル、初メ「チエック、スローバック」ノ救援ノ目的ヲ達シタ時ニ兵ヲ引イテ宜シカッタノデアリマスガ、其ノ機會ヲ逸シタカラ此ノ米軍ガ撤退シタ時こそ、既ニ多少遅レタルノ憾ミハアリマスガ、又一ノ好機會タルヲ失ハナカッタノデアリマセウガ、政府ハ此ノ處置ニ出デズ、又復過誤ニ陥ッタノデアル、更ニ目的ヲ接壤地方政情ノ安定、居留民生命財産ノ安固、交通自由ノ保障、斯ウ云フコトニ變ヘテ來タノデアリマス、而シテ此ノ場合ニ於テハ米國ガ兵ヲ引クノミナラズ英國モ佛國モ伊國モ皆若干ヅ、兵ヲ出シテアッタノヲ悉ク引イタニ拘ラズ、是等ト全ク離レテ日本獨リガ駐兵スルコトニナッタノデアリマス、此ノ政府ノ唱ヘラレタ三ツノ理由ニ於テ、第一接壤地方ノ政情ノ安定、是ハ何ノコトデアリマスカ、過激思想、過激主義ヲ信ズル者、奉ズル者ガ西比利亞地方ニ居ルカラ、從テ政情ガ不安定デアル、其ノ安定ヲシナイ間ニ我兵ヲ引クトハ出來スト云フヤウナ意味ト定メテ答辯サレデアリマセウガ、現ニ今朝ノ問答ニ於テモ、原總理大臣ノ仲小路君ノ質問ニ對シテ答ヘラレタノヲ承ツテモ、過激主義過激思想ト云フモノ、蔓々テ來ルノハ如何ニモ厭ハシイコトデアル、甚ダ好シカラザルコトデアルガ、如何セム他國ノ領土ニ在ルコトデアラドウシヤウモナイ、希望ハアルガ實行ノ手段ニ困ルト云フ話、至極御同感デアル、私モ其通りニ思フ、然ニ政情ノ安定其ノ地方ニ於ケル政情ノ安定ヲ圖ル爲メ兵ヲ置クト仰シヤル、軍隊ヲ駐屯セシメタ所ガ如何シテ政情ノ安定ガ圖レマスカ、武力ヲ以テ己ノ欲スル所ヲ彼ニ強フルト云フコトヲスルカ、若クハ其他ノ意味ニ於テ兵力ヲ以テ干涉スレバイヤ知ラズ、ソレヲ爲サズンバ、兵ヲ駐屯セシムルト云フコトト政情ノ安定ト云フコトトノ間ニ何等ノ關係ガ無イヤウニ私ハ思フ、今朝モ申サレタ如ク、過去ニ於テモ政府ハ屢帝國ガ出兵ヲ致シタ趣旨竝ニ尙ホ駐兵セシムル趣旨ハ、決シテ内政ニ干涉セムトスルモノデナイト云フコトヲ數次繰返シ聲明シテ居ラレルノデアル、ソレカラ又現ニ齊多及ビ「ハバロフスク」……ナカ／＼言フガムヅカシイ名デアリマスガ、諸君ニハ御分リニナツテ居ルノデアラウ、其ノ地方ヨリ我ガ軍隊ノ撤退スル前後ノ事情ヲ見マシテモ、我ガ皇軍ガ駐屯スルコトト政情ノ安定ト云フコトニ何等關係ガアッタヤウニハ見えヌノデアリマス、ダカラ我兵ガ「ハバロフスク」カラ引イタ所ガ……我兵ガ

居ッタカラ政情ガ安定シタトモ思ハレヌ、引イタラドウナツタカ能ク分リマセヌケレドモ、前後ノ間ニ蓋シ餘リ變リハナイダラウト思フ、從テ我ガ國境ニ接スル所ノ地方ニ於ケル政情安定スル爲ニ兵ヲ置クト云フ理由ハ、私ハ其真ノ意味ヲ解スルニ苦シム者デアル、又第二ノ理由トシテ居留民ノ生命財産ノ安固ヲ圖ル即チ之ヲ保護スル、是ハ固ヨリ必要ナ事デアリマス、我ガ居留民シカモ勇敢ナル我ガ居留民ガ多少ノ危險ヲ冒シテ遠ク海外ニ出テ事業ヲ發展シテ居ル、之ヲ保護スルコト云フコトハ固ヨリ當然ノ政府ノ責任デアリ、又國民ノ務トシテ致サヌケレバナラヌコトハ言フマデモアリマセヌ、然レドモ之ニ付テハ、是レガ爲メニ拂フ所ノ國民ノ血液ト巨額ノ國資、其國ノ資本、國家ノ犠牲ト比較衡量イタシテ、其ノ利害得失ヲ定メナケレバナラヌ次第デアルト思ヒマス、少數ノ居留民、而モ危險ノ地ヲ去ラシメムトセバ、危險ノ迫リ來ラザル前ニ去リ得ルモノデアルト云フコトヲ記憶シテ置カヌケレバナラヌ、此ノ少數ノ居留民ヲ保護スルガ爲ニ、大軍ヲ駐屯セシメ、巨額ノ國費ヲ費スト云フコトハ、私ノ前申上ゲタ比較衡量ノ點カラ申セバ多ク論議スルノ必要ハナイト私ハ信ズルノデアリマス、ソレカラ第三ノ理由トシテ、政府ノ聲明サレタコロノ交通自由ノ保障ト云フコトハ、何ノ意味ガアルカ私ハ能ク分ラヌ、要スルニ主要ナル理由デハナイヤウデアリマス、若シ此ノ文字ノ意味ガ我軍ガ西比利亞各地ニ駐屯イタシ又居留民ガ少數ナガラモ西比利亞ノ諸方ニ散在シテ居ルガ爲ニ、此ノ軍隊ト此ノ居留民ト交通ヲ保ツ爲ニ軍ヲ駐メルコトガ必要デアルト云フ意味デアルトスレバ、軍ヲ引キ又必要ニ應ジテ其ノ居留民ノ引揚ヲ成就シタナラバ、其ノ必要ハ無クナル、要スルニ此點ハ餘リ主要ナル理由トシテ政府ガ言ハレタモノデナイカモ知レマセヌガ、私ハ此ノ意味ガ分ラヌ、右申ス如ク甚ダ理由ガ無イ、甚ダ根據ノ無イ駐兵ヲ續ケテ居ル間ニ、國民ヲ聳動シタ例ノ尼港ノ悲慘事ガ起ッタノデアル、寔ニ悲シムベキコトガ起ッタノデアリマス、根據ノ無キ駐兵ヲ敢テシ力ヲ計ラズシテ又萬一ノ事變ニ備ヘル所ノ準備ヲ爲サズシテ、我ガ軍民ヲ危險ノ地ニ曝シタ、寔ニ悲シムベキコトデアリマス、理由ノ無キ駐兵ニ伴フ自然ノ出來事デアルトモ言ヒ得ルノデアリマス、之ニ付テハ其責ノ當路ニ存スルコトハ固ヨリ喋々ヲ要シナイ次第デアリマス、現ニ國務大臣ハ、此ノ事件ノ爲ニ議員ノ質問ノアツタ時ニ於テ、臣節ヲ全ウスルト云フコトヲ言ハレタ、寔ニ私ハ此ノ言明ニ敬服シタノデアリマス、斯ノ如キ言明ヲ爲サルコトハ實ニ當

然ノコトデアルト、斯様ニ考ヘタノデアリマスガ、然ニ今日ニ至ルマデ此ノ言明ニ付テ如何ナルコトガ行ハレタカ、普通ノ人ノ解釋シタ所ノ意味ハ皆同一デアッタト思ヒマスガ、此ノ宣言ガ實行サレタ形跡ガナイト云フコトハ誠ニ怪シムニ堪ヘタリト私ハ申サバルヲ得ナイノデアリマス、ソレカラ昨年五月十一日帝國政府ハ浦鹽派遣軍司令官ヲシテ一ツノ聲明ヲ爲サシメタノデアル、其ノ聲明ニハ政府ノ命令ニ依ルト云フ文字ハ見エタカ見エヌカ知リマセヌガ、斯ノ如キコトハ決シテ司令官ノ專斷デハナカラウカラ、政府ノ旨ヲ受ケテシタコトト是ハ考ヘネバナラヌガ、其ノ一節ヲ讀ムコトヲ御許シテ願ヒタイ、其中ニ「接壤近邇ノ關係ヲ有スル地方ニ於テ人道ヲ無視シ世界ノ平和ヲ攪亂スベキ企圖ヲ有スル政治團體ノ實現スルハ之ガ影響直接滿鮮地方ニ波及スルヲ以テ、之ヲ默視スル能ハズ」之ヲ默視スル能ハズ……如何ナルコトラスルノデアリマスカ、兵力ヲ以テ斯ノ如キモノ、成立ヲ妨ゲルノデアリマスカ、若シ成立シタ以上ニハ之ヲ滅ボスト云フ趣旨デアリマスカ、仲小路君ノ今朝ノ御質問ニ對シテ原君……原總理大臣ハ、内政ニ干渉ハシナイ、ドウモ甚ダ好マシカラヌコトデアルガ已ムヲ得ヌト云フ御答辯デアリマシタガ、其點ハ私ガ甚ダ御同感デアルト云フコトハ先程申上ゲマシタガ、此ノ司令官ノ聲明ハ如何、斯ノ如キ政府ノ成立スルコトハ默視スルコト能ハズト云フノデアルト、何カシヤウト云フノデアルカ、政府ノ聲明ノ中ニモ亦司令官ノ屢雨ノ如ク下シタ聲明ノ中ニモ、前後矛盾スルコトハ蓋シ此事ダケデハナイノデアリマス、書類ヲ見マスルト澤山ニマダ外ニモ例ガアリマスルガ、之ガ爲ニ帝國ノ信用ヲ傷ケルコトハ實ニ大イナルモノガアルト思フ、私ハ甚ダ遺憾千萬ニ存スル次第デアリマス、大正九年七月三日「チヲク、スローバック」ノ軍隊ガ撤退シタト云フコトヲ理由ト致シ、又當初ノ聲明ヲ實行スルモノナリト云フテ、事實、後貝加爾方面ノ撤兵ヲ決行致シタノデアリマス、是ハ至極結構ナコトト考ヘマス、餘程遅レタト思ヒマスガ、ソレデモマダ結構ノコトデアアル、併ナガラ若シ帝國政府累次ノ聲明ニ忠實ナルモノト致シマスレバ、「チヲク、スローバック」ノ軍ガ浦鹽方面ヲ撤退シテシマッタ時ニ於テ、即チ是ヨリ前ニ於テ——或ハ其後カモ知レマセヌガ、チヲク時日ヲ能ク覺エマセヌガ、「チヲク、スローバック」ガ殘ラズ撤退シタ時ニ於テ、我軍モ亦全部ヲ撤退シテ始メテ當初ノ聲明ニ忠實ナルモノデアリマセヌカ、然ニ又更ニ朝鮮ニ對スル脅威、惡化セムトスル傾向アリ、居留民保護ノ爲必要ナリ、斯ウ云フ理由ガ更

ニ又考ヘ出サレテ、浦鹽方面ノ駐兵ヲ續行スルコトト相成タノデアアル、此事ニ對シテハ、確カ一昨日外務大臣モ同ジヤウナコトヲ御述ベニナッタヤウニ、私ニハ聞取レタノデアリマス、此ノ朝鮮ニ對スル脅威ト云フハ、ドウ云フコトデアリマセウカ、何ヲ云フノデアリマセウカ、能ク用ヒル言葉デアリマスガ、此ノ言葉ノ意味ヲ明カニスルコトガ私ハ必要ダト思フ、若シ過激主義、過激思想ガ朝鮮ニ傳播セラレ、從ツテ危險ガアルト云フコトナラバ、軍隊ノ力ヲ以テ主義ノ傳播ノ思想ノ輸入ヲ止メ得ルコトガ出來ルヤ否ヤ、私ハ到底是ハ爲シ能ハヌコトデアルト思フ、加之獨リ浦鹽方面ノ口ヨリニ此ノ思想ガ日本ノ勢力範圍ニ來ルト云フコトモナイノデアリマシテ、此ノ方面ニ兵ヲ駐メテ置キサヘスレバ思想ノ傳播ハ防ギ得ル、朝鮮ニ過激思想ノ來ルトヲ防ギ得ルト云フコトハ、ドウモ論理ヲ爲サヌヤウニ思フ、之ニ反シテ近來朝鮮國境……朝鮮國境ト云フト語弊ガアリマスガ、朝鮮方面ニ於ケル我が國境……假ニ朝鮮國境ト云ヒマスガ、朝鮮國境ヲ騷ガス不逞鮮人ナルモノト、露國ノ過激主義者トノ間ニ何等カノ關係ガアツテ、其ノ不逞鮮人ガ朝鮮ニ對シテ不穩ノ行動ヲ爲ス、之ヲ防グト云フ意味デアリマスナラバ、從ツテ間島方面ヲ主ト致シ、大體國境ニ土地ハ、間島方面デアリマセヌカ、從ツテ間島方面ヲ主ト致シ、大體國境ニ於テ之ヲ防遏スルコトガ勞少ナクシテ功多イノデアリマスマイカ、又時ニ依リ必要ガアツテ、國境ノ外ニ我兵ヲ出スト云フヤウナコトガアリト致シマシテ、事ガ終レバ直ニ撤兵スルコソ當然デアアル、即チ現ニ間島ニ於テ爲シタ所ノ出兵モ一段落ガ著イタト云フ廉デ以テ殆ド全部撤兵サレタト云フコトハ、政府ノ屢此頃聲明シタ所デアリマセヌカ、アノ地方ニ他日事ガ起ラヌト云フ保障ヲ得ラレタト云フ譯デモ何デモナカラウト思フ、唯、一時安定シタト云フダケデアアル、將來同ジヤウナ事ガ起リハセヌカト云フコトヲ心配シタナラバ、隨分心配ヲシナケレバナラヌト私ハ推察イタス、然ニ一旦出兵ヲ爲スニ至ッタ直接ノ目的ヲ達セラレタカラ兵ヲ引クト云フコトハ、是ハ至極結構ト思ヒマスガ、浦鹽方面ノ撤兵ニ對シテモ亦同ジ論法ガ當嵌リハセヌカト私ハ考ヘル、ソレカラ駐兵ノ第二ノ理由ト致シテ、居留民保護ノ爲ニ浦鹽方面ニ尙ホ兵ヲ駐ムル必要ガアルト云フコトガゴザイマス、現ニ政府ハ齊多ヨリ其軍ヲ撤退スル時ニ當ツテ、齊多及ビ其ノ近傍ニアリシ所ノ我日本人ニ對シテ引揚テ德惠シタデアリマセヌカ、事實、命令デナイカモ知レマセヌカラ、德惠ト云ッタ方ガ宜イカモ知レマセヌ、茲ニ於テ居留民ハ殘ラズ引揚ゲタヤウデアリマス、

新聞紙上に見タゲアルカラ、或ハ間違ガアルカモ知レマセスガ、事實サ
ウノヤウデアル、何故ニ齊多方面ニ於ケル我が居留人民ニ引揚ヲ政府ハ從
シタカト申スト、前段ニ私ノ申述ベタ其保護ヲ所ノ利害ト……保護ヲ要
スル所ノ利害ノ程度ト、之ヲ保護スル爲ニ必要ナル所ノ犠牲ト、兩者較ベ合
タ結果、寧ロ引揚ゲテ命ジタ方ガ宜シイト云フコトデアッタラウト、私ハ推察
イタシマス、浦鹽ニ對シテ亦同ジデアリマスマイカ、今日露國トノ通商貿
易ハ一向行ハレテ居ラヌダラウト思フ、到底其ノ貿易ハ……浦鹽ヲ經由スル
貿易ハ、戰爭前ノ狀態ニ復シテ居ルコトモ何モ無イト思フノデアリマス、從
テ目下浦鹽ニ在ル我が人民、七八千ト云フコトモ承リマスガ、近來ノ統計ハ
私ハ存ジマセス戰爭ノ始マル前ニハソレ程居ナカッタデアリマス、近來多少
殖エテ居ルカト思ヒマスガ、六千カ七千カ八千カ、數千人ノ居留民ガ居ルヤ
ウデアリマス、是等ノ人民ノ多クハ何ヲシテ居ルデアラウカ、私ハ統計ヲ持
タズ又自ラ之ヲ見タ譯デアリマセスガ、私ノ推察スル所ニ依レバ、我が軍
隊ガ彼ノ地方ニ駐屯シテ居ルガ爲ニ、其ノ用務ヲ辨ジ之ニ物品ヲ供給スル
カ、即チ軍隊關係ノ爲ニ居ル者ガ大半デハナカラウカト思フノデアアル、果
シテ然ラバ軍隊ノ引揚ゲノ上ハ危險ナシトスレバ、彼等ハ其地ニ居留スルガ宜
シ、又危險アリトスレバ引揚ゲルガ宜シ、引揚ゲルガ爲ニハ必ズ幾多ノ損
害モ受ケマセウケレドモ、從來他ニ先ダテ異域ニ出デ、我國ノ勢力ヲ圖リ産
業ノ結果トシテ成ル所ノ物品ヲ販賣スル等、何レモ國ノ爲ニ盡シタ人デアリ
マシテ、彼等ガ損害ヲ受ケルコトハ如何ニモ氣ノ毒千萬ナコトデアリマスガ、
前屢申シマシタ如クニ其ノ保護スル所ノ利益ノ程度ト、之ヲ保護スルタメ必
要トスル犠牲ノ程度ト較ベテ事ヲ決メルヨリ外仕方無イト思ヒマス、大正
九年九月二十日「ハバロフスク」撤退ヲ聲明イタシマシテ、又撤兵モ實行イ
タシマシテ、今日ニ於テハ浦鹽ヲ中心ト致ス小地域ニ約二箇師團ノ大兵ヲ尙
駐メテ居ル、更ニ其ノ駐兵ヲ繼續スル爲ニ來年度全年度分ノ豫算マデ請求セ
ラル、ト云フコトデアリマス、此ノ様子デ參リマシタナラバ當ニ來年度ノミ
ナラズ、イツマデ之ヲ續ケナケレバナラヌカ、又此上ニ幾多ノ犠牲ヲ拂ハナ
ケレバナラヌカ、實ニ國家前途ノ爲ニ心配ニ堪ヘナイ次第デアリマス、今日
ニ至ルマデ數千ノ國家ノ干城、良民等ヲ異域ノ鬼ト致シ、又四億餘圓ノ國帑ヲ
費シ、而シテ唯列國ノ猜疑、露國民ノ反感怨恨ヲ齎シタ外、直接間接ニ帝國ノ
不信不利ヲ招キタルコトハ數少カラズ、從テ西比利亞ニ關シテ執ラレタ所ノ

措置ハ、我國外交史ノ上ニ於テ稀ニ見ル所ノ遺憾ナコトデアラウト云フコト
ヲ申上ゲテモ、決シテ適當ノコトデナイト私ハ申シタイノデアリマス、茲ニ念
ノ爲ニ一言イタシタイノハ私一個ノコトデアリマスガ、決シテ過激主義トカ
過激思想ト云フコトヲ喜ブモノデナイト、喜バナイ者デアアルノミナラズ、是等
ハ絕對ニ排斥スルモノデアリマス、從テ露國特ニ我國ガ接壤ノ地方ニハ是等
ノ主義ヤ思想ヲ……主義ヲ帶ビタリ思想ヲ懷ク所ノ政府若クハ政治團體ガ成
立ツコトハ最モ之ヲ厭フ者デアアル、ガ併ナガラ西比利亞ノ如キハ相當文明ヲ
有スル露國人ガ主人公トシテ居住シテ居ルノデアリマス、然ル以上ハ我國ハ
我國ノ存立ヲ脅カサルガ如キ非常ナル出來事ノ無キ限り、又或ル事柄ガ起
リ或ル場合ニ於テ好意的ノ勸告ヲ爲スト云フコトノ處置ヲ執ルコトノ外、大
體上露國ノ事ハ露國人ヲシテ處理セシムルト云フコトヲ原則トスルコトガ然
ルベシト思フノデアリマス、強力ヲ以テ或政體ヲ彼等ニ強請シ其ノ目的ヲ遂
ゲルガ如キハ、到底成功ノ望ナシト私ハ思フノデアアル、現ニ近ク本月二十五
日齊多ニ於テ憲法會議ナルモノガ開カレルト云フコトデアアル、是ハ東部西比
利亞ニ出來テ居ッタ所ノ各政治ノ團體ガ聯合シテ、此ノ會議ヲ開イテ憲法ヲ定
メルト云フコトデアリマス、ドンナモノガ出來マセウカ、此ノ會議ニ加ハラム
トスル或ル政治團體ノ中ニハ、現ニ明カニ「レニン」ノ主張スル所ノ露國ノ勞
農政府ト有機的ニ結合スルト斯ウ云フコトヲ言ッテ居リ、外交ニ關シテハ其ノ
指揮ニ服スルト云フコトヲ言明イタシテ居ルモノガアリマス、又ソレ等政治
團體ガ是マデ時々自己ノ政體ニ關係イタシ聲明イタシテ居ルコトト實質トノ
間ニハ、往々齟齬ガアルヤウデアリマシタ、要スルニ彼等ノ言フコト、彼等
ノ聲明ハ一向當テニナラヌト云フノガ唯今ノ所デハ當レリト思フノデアリマ
スガ、此ノ會議ノ結果ハ聯合政團ガ成立スルト致シテモ、我國ノ希望ノ如キ
政體ガ出來テ、而モ其ノ政體ガ永ク繼續スルト云フコトノ保證ハ到底得ラレ
ナイコトデアアルト思ヒマス、從テ斯ノ如キコトヲ、齊多ノ會議デ何カ我國ニ
反對シナイ我國ノ希望ニ副フヤウナ政府ガ出來ルデアラウト云フヤウナコト
ヲ空賴ミニシテ、多少タリトモ駐兵ヲスルコトハ最モ不可ナリト私ハ思フノ
デアリマス、或ル一部ノ人ノ主張……主張ト申シマシテ宜イカ、或ハ希望ト
申シテ宜イカ……ノ如キ貝加爾湖以東全部ヲ統一支配スル所ノ聯合政團ノ成
立ヲ助クルガ爲ニ、非常ニ大ナル我が國防軍ノ派遣ヲ爲シ之ヲ駐屯セシメ、
又莫大ナル國費ヲ支出シテ願ミナイ、ソレダケ大ナル犠牲ヲ拂ッテ露西亞ノ貝

加爾湖以東ニ於テ我國ノ希望ニ近イヤウナ考ヲ持ッタ政府ノ樹立ヲ助ケタイ、斯ウ云フ人モアルカモ知レマセヌガ、其ノ希望ノ如クニ參リマシタナラバ或ハ一時ハ政體ヲ、如何ナル政體ヲ採用シナケレバナラヌト云フ指圖モシ、又政策ハ如何ナル政策ヲ執ラナケレバナラヌト云フ指圖致スコトモ出來ルカモ知レヌト云フコトハ、假ニ想像シ得ルコトデアリマス、併ナガラ斯カル危險ナル政策ヲ執テ、我國ヲシテ大ナル犠牲ヲ拂ハシムルコトハ、蓋シ我ガ國民中、政府ハ申迄モナク、國民中ニモ眞面目ニ斯ノ如キコトヲ論ズル者ハナカラウト思フノデアリマス、ソレヲシナケレバ一向徹底シナイ……論旨ハ是ハ至極徹底スルト思フノデアリマス、斯ノ如ク論ジマスレバ今日尙ホ兵ヲ駐メ將來モ之ヲ駐メルト云フコトノ理由ハ、如何ナル理由デアルカ、甚ダ之ヲ解スルニ苦シムノデアリマス、萬ガ一ニモ取ルニ足ラザル事情ニ拘泥シタリ、又行掛リニ捉ハレタリ、又或ハ出兵ヲシタガ、何等目的ヲ遂ゲズ、何ノ爲ニ、出兵ハ長クシテ置イタガ、土産モ持タズシテ歸ッテハ面目ナイ、歸ル人ハソレデ宜イカモ知レマセヌガ、歸シタ人ハ面目ナイと思ヒ、極メテ姑息ナル、極メテ非愛國ナル、何ト申シマスカ體面ト申シマスカ、面目論ニ拘束サレルコトハ萬々アリマスマイガ、斯ノ如キコトノ爲ニ駐兵ノ大事ヲ續行シテ居ルト云フコトハ實ニ國家ノ爲ニ由々敷コトデアラウト思フ、要スルニ駐兵ト云フコトハ之ヲ内ニシテ考ヘマスレバ 陛下ノ忠勇ナル軍隊ヲ是マデ惡イ氣候デ極メテ不便ナル、不自由ナル土地ニ置イテ非常ナ犠牲ヲ拂ハシメテ、其上ニ尙ホ此以後モ引續イテ此負擔ヲナシ犠牲ヲ拂ハシムルコトハ、御互誠ニ忍ビヌ所デアリマスマイカ、ソレカラ其ノ駐兵ヲナス爲ニ軍費ニ對シテ財政ニ累ヒヲ大イニスル、此爲ニ莫大ナル費用ガ要ルノデアアル、昨年ハ海陸駐兵ニ一億圓内外ノ金ガ要タト云フコトデアリマス、本年ハドウナッテ居リマスカ、之ニ近イモノガ定メテ豫算ニ計上サレルコトと思ヒマスガ、財政上ニ累ヒヲ來タシ、從テ又財政上ノ缺陷ヲ補フガ爲ニ公債ヲ募集スルコトガ起リマセウカラ、經濟社會ニ大イナル影響ヲ及ボスコトハ是等ハ尙ホ忍ブベシトスルモ……我々ハ決シテ忍ブコトハ出來マセヌ、其上マタ大イナル事柄ハ軍紀ヲ弛廢セシメ、軍紀ヲ弛クシ、思想ヲ惡化セシムルコトノ虞ガアルト私ハ思フノデアリマス、我ガ軍隊ハ實ニ忠勇ナルモノデアリマシテ、上ノ命ズル所ハ躊躇ナク之ニ從ヒ、死生ノ巷ニ往來シテ少シモ厭ハヌ、實ニ美質特質ヲ備ヘテ居ルト云フコトハ諸君ト共ニ我々ノ誇リトスル所デアリマス

ガ、併ナガラ此度ノ出兵及ビ駐兵ハ果シテ國家ノ防禦ノ爲ニ必要デアルト云フコトガ彼等ニ分ッテ居リマスカ、軍隊ニ分ッテ居リマスカ、將校ニ分ッテ居リマスカ、私ハ政府ニ分ッテ居リマセウカト申上ゲタイ、斯ノ如ク明瞭ヲ缺ク曖昧模糊ト云フ言葉ヲ用ヒテモ不都合ノナイホドノ仕事ノ爲ニ、我ガ忠勇ナル軍隊、而モ國家ヲ守ルコトニ於テ極メテ熱心デアリマスガ、己一身カラ云ヘバ極メテ不便ナコトデアアル、兵役ニ就テ居ルト云フコトハ……是ハ申迄モアリマセヌガ、併ナガラ 陛下ヲ守リ奉リ、國家ヲ防禦スル爲ニ一身ノ不便不利ヲ捨テ、進デ國家ノ干城ノ任ニ當ルト云フ、此忠勇ナル心、此忠愛ナル心、之ニ餘リ多クヲ期待シテ、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ之ヲ濫用スルト云フヤウナコトハ是ハ政府トシテ爲スベキコトデナク、國民トシテナスベキコトデナイト私ハ確信スル者デアリマス、又之ヲ外ニシマシテハ先刻モ段々申上ゲタ如ク、出兵及ビ駐兵ニ對スル我ガ聲明ガ屢、變ルガ爲ニ、又聲明ト實行ト相伴ハヌト云フ形跡ガアル爲ニ、外國ヨリハ我ニ對シテ大イニ不審ヲ抱イテ居ルコトハアリハシナイカ、從テ大イナル疑惑ヲ懷イテ居ル者ガアリハシナカト云フコトヲ私ハ悞レルノデアアル、又露國人民ノ一部ノ人ハ我ガ駐兵ヲ便利トシタ人モアルカモ知レマセヌガ、大部分ハ是ハ餘計ナコトトシ、之ヲ不當ノ干涉トシ、我ヲ疑ヒ、我ヲ恨ンデ居ルト云フコトハ確ニアルト思フノデアリマス、ソレ等ノ重大ナル結果ニ鑑ミテ政府ハ從來ノ政策ヲ斷然茲ニ改メテ撤兵ヲサレル、撤兵ヲ決行セラレルコトヲ私ハ希望スルモノデアリマスガ、政府ノ御意思ハ如何、從來ノ行掛リヲ一掃シテ速ニ撤兵ヲ斷行スルノ御意思ハアリマセヌカ、是ガ私ノ今日伺ハムトスル要點デアリマス、私ハ決シテ辯ヲ好ムモノデアリマセヌガ、國家ノ爲ニ深憂禁ズル能ハザルモノガアリマシテ、赤誠ヲ披瀝シテ申上ゲタ積リデアリマス、總理大臣ヨリ御答辯アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 休憩イタシマシテ、午後一時三十分ヨリ開會イタシマス

午後零時十八分休憩

午後一時三十三分開議

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ報告ヲ致サセマス

〔瀨古書記官朗讀〕

本日請願委員分科會ニ於テ當選シタル主査ノ氏名左ノ如シ

第三分科

主査子爵吉田 清風君

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ午前ニ引續イテ會議ヲ開キマス、内閣總理大臣

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 午前ニ於テ加藤君ノ御質問ガアリマシタ、之ニ御答ヲ致サウト思ヒマスガ、隨分長イ御演說デアリマシタノデ、成ベク御答ヲスル積リデアリマスケレドモ、或ハ脱漏ナキヲ保セヌノデアリマス、左様ナル場合ニハ御注意ニ依テ更ニ御答ヲ致スコトニ致シタイノデアリマス、第一ノ御質問ハ御質問ノ順序トシテ掲ゲラレタルニ過ギヌノデアリマス、シタノデアリマス、要スルニ西比利亞出兵ノ最初ノ目的ニ關シテノ御質問デ、是ハ申上ルマデモナク、前内閣當時ノコトデアリマス、而シテ其出兵ヲ致シマシタ目的ハ當時宣言書ヲ前内閣ニ於テ發表シテ居リマスカラ、之ニ依テ其趣意ハ明カナノデアリマス、其趣意ハ「チエック、スローバアック」ノ救援デアリマス、是ガ西比利亞ヲ經由シテ歸國セムトスル、當リマシテ、如何ニモ困難ニ陥ッタノデ、之ヲ救済シヤウト云フ米國ノ提議ガ本デアリマス、此米國ノ提議ニ應ジテ出兵ヲスルト云フコトニ相成ッタノデアリマス、尤モ此出兵ノ最初ニ於テ米國ヨリ申シ來リタル兵數ト、後協定致シタ所ノ兵數トハ相違ガアリマス、併シ兎ニ角兩國ノ協定ニ依テ浦鹽方面ニ出兵ヲ致シタノデアリマス、他ノ西比利亞地方即チ各線路ニ對スル所ノ出兵ハ、最初ノ目的ヲ貫徹スルガ爲ニ其兵數ニ不足ヲ感ジテ出兵致シタト推定スルノデアリマス、其兵數ガ最初ニ協定シタ所ノ兵數ニ比スレバ餘程多イ數ニナツテ居ルノデアリマスガ、併シ是ハ鐵道通路ヲ完全ニスル爲ニ必要ナル兵ヲ出シタモノト考ヘルノデアリマス、兎ニ角斯様ナル次第デ西比利亞ニ出兵ト云フコトガ出來タノデアリマス、ソレガ段々時ヲ經テ或ハ「チエック」ガ東ニ向ツテ歸ラムトシタルコトモアリ、西ニ通路ヲ求メテ歸國セムトシタ變動モアリマシタ、而シテ是モ目的ヲ達セズ、矢張り最初ノ考ノ如クニ西比利亞ノ線路ニ依テ浦鹽ヨリ乘船スルコトニ相成リマシタカラ、其間ノ鐵道ヲ守備スル所ノ兵ノ行動ニ多少ノ變化モ生ジテ居リマスケレドモ、目的ニハ何等變動ハナイノデ、而シテ「チエック、スローバアック」ノ救援ノ目的ハ達シタガ故ニ、西比利亞ノ方面ヨリ撤兵スルコトニ立

至ッタノデアリマスガ、是ハ現内閣ノ處置デアリマス、議會其他ニ於テモ度々聲明イタシタ最初ノ出兵目的ハ「チエック、スローバアック」ノ救援ニアルノデアリマスカラ、其目的ヲ達シタル以上ニハ撤兵スルノガ當然ノコトト考ヘテ撤兵スルニ立至ッタノデアリマス、併ナガラ此間ニモ多少世間ノ言フ所ト實際ト相違シタルコトガアル、當時世間デハ「チエック、スローバアック」ノ救援ノ目的ヲ達シタルト稱シタ場合ニ、實際ニ「チエック」ガ歸國イタサズシテ途中ニ多數居ッタ事態ガアルノデアリマス、鐵道ノ輸送力ト云フモノハ極メテ不完全ナルモノデ、故ニ「チエック」ガ此汽車ニ乘リマシタ所ガ、直チニ目的ノ地ニ達スルコトガ出來ズシテ途中ニ長イ間、汽車中ニ生活シテ居ッタト云フコトガ非常ニ多イノデアリマシテ、當時「チエック、スローバアック」ノ救援ノ目的ヲ達シテ最早其救援ノ必要ナシト世間デ申シタ時ニ、實際ハ多數ノ「チエック」ガ鐵道生活ヲ致シテ居ルト云フ場合ガアルノデアリマス、兎ニ角ニ左様ナル狀態モアリマシタガ、結局浦鹽ヨリ乘船シテ歸國スルヤウニ相成リマシタノデ、帝國政府ニ於テハ撤兵ヲ斷行スルコトニ立至ッタノデアリマス、其撤兵ヲ斷行スルニ際シマシテ、政府ノ聲明スル所ハ明カデアリマスケレドモ、丁度加藤君ノ御質問モアリマシタカラ、其ノ聲明書ヲ此處ニ持參イタシタノデアリマス、大正九年三月三十一日ニ發表イタシタル聲明書ハ御承知ノコトデゴザイマセウガ、「チエック、スローバアック」ノ救援ヲ目的トシテ出兵シタノデアアルガ故ニ、同軍ノ引揚ゲヲ完了シタル上ニハ撤兵ヲスルノガ當然ノコトデアアルカラ、當時ノ宣言通り撤兵ヲスルト申シテ居ルノデアリマス、併ナガラ同時ニ帝國ノ西比利亞ニ對スル地理上ノ關係ハ他ノ諸國ト趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、極東西比利亞ノ政情ハ直チニ鮮滿地方ノ情況ニ波及スルノデアリマスルガ故ニ、他國トハ同様ニハ處置サレヌ、斯ウ云フ趣意デアリマス、又西比利亞地方ニハ多數ノ居留民ガ居ル、此ノ生命財產ヲ安全ニ致サナケレバナラス、是レ亦俄ニ他國同様撤兵ノ出來ヌ理由ノ一ツデアリマス、故ニ露國ニ對シテ何等政治上ノ野心ガアルノデハナイガ、我ガ接壤地方ノ政治ノ安定致シテ其安心ヲ得タル時デナケレバ全部ノ撤兵ハ出來ヌノデアルト云フコトヲ聲明イタシテ、浦鹽並ニ東清沿線ニ多少ノ兵ヲ殘スコトニ至ッタノデアリマス、是ガ此聲明ニ明カナル通りニ多少ノ出兵ハ「チエック、スローバアック」ノ救援其目的ガ達シタルガ故ニ撤兵ヲスル、併ナガラ鮮滿地方ノ狀態ヲ考ヘテ、

我が接壤ノ地デアアルガ故ニ駐メテ置カザルヲ得ヌト云フコトガ、即チ自衛的ノ處置ニ相成ツタノデアリマス、其自衛的ニ浦鹽其他ノ地方ニ多少ノ兵ヲ駐ムルト云フコトハ眞ニ已ムヲ得ヌ處置デアリマス、其理由ハ先刻加藤君モ引用セラレタ通り、露國ノ政情ガ安定イタシマセスカラ動モスレバ過激思想ノ我が領土内ニ侵入セムトスル虞モアル、又露國ノ狀態ガアノ通りニアリマスルガ故ニ、浦鹽方面ニ居ル所ノ居留民ノ生命財産ヲ安固ニスルコトガ出來ヌノデアリマス、其レ是レノ事情ニ基イテ初メテ多少ノ兵ヲ彼處ニ駐メルト云フコトニ相成ツタノデ、眞ニ已ムヲ得ヌ處置デアリマス、併ナガラ今日ノ事態ニ於テ此ノ地方ニ兵ヲ駐メルト云フコトハ恐ラク國民ノ異議ナイ所デアラウト存ズルノデアリマス、又昨年七月「ニコライエフスク」問題ニ付テ、北樺太竝ニ「ニコライエフスク」方面ニ出兵イタシテ、必要ナル地點ヲ占領スルコト云フコトヲ聲明イタシタ折ニモ、浦鹽、後貝加爾方面等ニ關シテハ「チエック、スローバアック」既ニ退去イタシタ今日ニ於テハ、帝國政府ハ累次ノ聲明通り此地方ヨリ撤兵ハスルガ、併ナガラ浦鹽方面ハ朝鮮ニ對スル脅威ノ除去セラレヌノミナラズ、却ッテ惡化セムトスルノ傾向モ見ユルニ依テ、此處ニ兵ヲ駐ムル云々ト云フコトモ當時聲明シテ居ルノデアリマス、是モ恐ラク國民ノ異議ナイ所ト考ヘルノミナラズ、此趣意ハ列國ニモ通牒イタシテ其了解ヲ求メ置イタ次第デアリマス、斯様ナル次第最初ノ出兵、後ニ浦鹽方面ニ兵ヲ駐メルト云フコトノ趣意ハ明瞭ナリト考ヘルノデアアル、即チ浦鹽竝ニ其附近ニ多少ノ兵ヲ駐メ置クハ、全ク我國ノ自衛的已ムヲ得ヌ處置デアルト云フ次第デアリマス之ニ付キ加藤君ハ其聲明中ニ政情ノ安定云々ト云フコトモアルガ、誠ニ了解シ惡イ言葉デアアル、色々御説デアリマシタガ、西比利亞方面ガ政情ノ安定シナイコトハ何人モ認ムル所デアアル其政情ガ安定イタサヌガ爲ニ甚ダ我國ニ於テハ危險ヲ感ゼザルヲ得ナイノデアリマス、此安定セザルコトノ政情ヲ我國ノ力ヲ以テ安定セシムルト云フ意味デハナイノデアリマス、其地方ノ政情ノ安定イタサヌガ爲ニ間接直接ニ我國ニ影響ヲ及ボスノデアアルガ故ニ、其政情ノ安定スルマデハ此處ニ兵ヲ駐メ置カザルヲ得ヌ、斯ウ云フ趣意デアリマス、故ニ決シテ露國ノ内情ニ立入ッテ安定セザル所ノ政情ヲ安定サセヤウト云フ趣意ト申スノデハ無論ナイノデアリマス、ソレカラ浦鹽方面ニハ居留民モ居ル、之ヲ保護スルコト云フコトハ一應尤モノヤウデアアルケレドモ、併ナガラ此居留民ナルモノガ軍隊ノ爲ニ居ルノデハナイカト云フ嫌ヒモアル

ト云フヤウナ御話モアリマシタ、此處ニ居ル居留民ハ約七千ト申シテ居リマス、浦鹽方面ハ申ス迄モナク長イ歴史ヲ有シテ居ル土地デアリマス、我が居留民ノ此處ニ根據ヲ有スル者ノ中ニ長イ年月ヲ費シテ居ルノデアリマシテ、他ノ地方ノ、他ノ西比利亞地方ノ其處此處ニ散在シテ居ル居留民トマルデ狀態ノ異ッテ居ルノデアリマス、故ニ西比利亞ヨリ撤兵イタスニ當ッテ、其處此處ニ散在イタシテ居ル居留民ガアルト云フ譯ヲ以テ、此處ニ兵ヲ駐メルト云フコトハ出來ナイノデアリマスカラ、ソレ等ノ居留民ニハ引揚ゲルヤウニ取計ラッテ居留民ヲ引揚ゲタノデアリマス、併シ浦鹽ハ左様ニハ參ラヌ、此七千ノ居留民ヲ矢張り西比利亞各地ニ散在スルモノ、如ク退去ヲ致サセルト云フコトハ出來ナイノデアリマス、ノミナラズ此居留民ヲ保護スルコト云フ以外ニ尙ホ浦鹽方面ニハ種々ノ必要ヲ感ズルノデアリマス、即チ過激派ノ宣傳我が領土内ニ侵入スルト云フヤウナコトデ、無論甚ダ氣遣ハザルヲ得ヌノデアリマス、此過激思想ノ宣傳ヲ止ムルコトニ付テ、過激主義過激思想ト申スヤウナコトハ無形デアアル、有形ノ兵隊ガ駐在シテ止メ得ナイノデハナイカト云フ議論モ世間ニアリマスケレドモ、成程思想ガ有形ノ軍隊ニ依テ止ムルコトハ困難デアリマスケレドモ、併ナガラ其防禦ハ致シテ置キマセヌケレバ漸次ニ人モ這入り、印刷物モ這入り、種々ナルコトニ依テ容易ニ我が領土内ニ過激主義ガ侵入シ得ラレルノデアリマス、又現ニ環春ニ於テ起リマシタ最近ノ事件ニ於テモ、露國人ガ多少居ッタト云フヤウナ説モアリマスノミナラズ、現ニ此地方ニ於テ鹵獲イタシタ所ノ兵器ヲ見レバ、露西亞地方ヨリ侵入シタコトヲ證明セラレル物モ多クアルノデアリマスヤウナ次第デアリマスカラ、此過激主義宣傳ヲ防ギマス爲ニハ、彼ノ地方ニ多少ノ兵ヲ駐メ置カザルヲ得ヌノデアリマス、又不逞ノ鮮人、……先刻加藤君ハ不逞鮮人ハ寧ロ間島方面ニ多イデヤナイカト云フ御説ガアリマシタガ、是ハ其通り間島方面ニ不逞鮮人ガ多イノデアリマス、併シソレハドウ云フ次第カト云フコトニ溯ラナケレバナラヌ、從來間島方面ニハ朝鮮人ガ多數住居イタシテ居リマスガ、殊ニ不逞鮮人ノ多キヲ成シテ居ルノハ、浦鹽ノ不逞鮮人ノ巢窟ガ覆ヘサレタ結果デアリマス、若シ浦鹽方面ニ我兵ヲ駐劄イタシマセヌデ、不逞鮮人ノ策源地タル處ヲ其儘ニ致シテ置キマシタナラバ、是ヨリ生ズル處ノモノモ亦甚ダ多イ、不逞鮮人ト過激主義ノ者ト密接ナル關係ハ無論ニ生ズルデアリマセウ、依テ以テ如何ナルコトデ我が領土内ニ及ボスカ測リ知ラレヌノデアリマス、

斯様ナル次第アリマスルカラ、ドウシテモ此處ニ兵ヲ駐メ置カンケレバナ
ラメノデ、又浦鹽ヨリ哈爾濱ニ至ル東支鐵道沿線、是モ交通ノ安全ヲ圖ルガ
爲ニハ多少ノ兵ヲ配置シ置カザルヲ得ヌデアリマス、其ノ交通ノ安全ニス
ルガ爲ニハ已ムヲ得ヌヤウナ次第デ、現ニ駐兵イタシテ居ルモノハ浦鹽方面
ニ過ギヌノデ、「ハバロフスク」ニハ既ニ其後撤兵イタシテ兵ハ居ラスノデア
リマス、浦鹽方面ハ露領デアリマス、其他ノ方面ハ露領デハ無論アリマセヌ、
露西亞ノ領土デハアリマセヌ、併ナガラ露西亞ノ狀態今日ノ有様デ居留民ノ
安全ヲ保ツコトモ出來ズ、甚ダ秩序モ維持セラレテ居ラヌ狀態デアリマスル
ノミナラズ、唯今申シタガ如ク、過激主義ノ宣傳モ段々起ツテ參ルト云フ次第
デアリマスルカラ、此處ニ駐兵スルト云フコトハ誠ニ已ムヲ得ヌ次第アル
ノデアリマス、若モ露國ニ於ケル政情安定イタシマシテ、相當ナル責任アル
政府ガ樹立イタシマシテ、我が居留民ノ生命財産モ安全ニナリ、其他ノコト
モ憂フルナシト云フコトヲ確信セラレバ、何時デモ此兵ハ撤兵イタスノ
デアリマス、決シテ永久ニ此處ニ駐兵イタシテ居ルト云フ趣旨デハ初メヨリ
ナイノデアリマス、現ニ他ノ事デハアリマスルケレドモ、此聲明ノ偽ラザル
コトニ付テ例證ヲ擧ゲテ置キタイノハ、即チ間島方面、間島方面ハ彈春ニ於
ケル領事館ヲ燒カレ、居留民モ殺傷セラレマシタガ故ニ、多少兵ヲ出シテ彼
ノ地ニ於ケル匪徒ノ掃蕩ヲ圖ツタノデアリマス、是ハ支那ノ領土デアリマス、
支那政府ニ於テ十分ニ治安ヲ保持シ我國ニ安心ヲ與ヘルノ保證ヲ爲スノデア
リマスカラ、其責任ニ一任イタシテ我國ハ撤兵イタシテ一小部隊ノ外今日ハ
居リマセヌノデ、西比利亞方面ニ於テモ斯ノ如ク相成ルコトヲ希望イタシテ
居ルノデ、左様相成リサヘ致セバ、此地方ヨリ撤兵イタスコトニ少シモ躊躇
スル所ハナイノデアリマス、成ベク速ニ左様ナル狀態ニ達スルコトヲ希望
スルノデアリマス、斯様ナル次第デアリマスルカラ、今日浦鹽並ニアノ附近
ニ多少ノ兵ヲ駐メ置クト云フコトハ、決シテ無用ナルコトニ非ズ、國家ノ自
衛上已ムヲ得ヌ次第アルノデアリマス、此事ハ中外ノ恐ラク認メテ異論ノ
ナキ所ダラウト思ヒマス、現在駐兵ノ必要スノ如キ次第デアリマスルカラ、
此地方ヨリ速カニ撤兵サセヤウト云フコトニハ參ラスノデ、又御承知ノ如ク
段々西比利亞方面ニ於テモ、憲法會議ヲ開キ齊多政府ニ統一スルト云フ、色
色ナコトヲシテ居リマスカラ、是ガ如何ニ相成ルカ固ヨリ豫測ハ出來ヌノデ
アリマス、幸ニ立派ナル政府ヲ樹立イタシテ、其安寧ガ保證セラレル様ニナ

リマスレバ、之ニ越シタコトハナイノデアリマスカ、若シモ然ラザレバ唯左
様ナル政府ガ樹立イタシテ多少ノ宣明スル所ガアッタト申シテモ、彼ダケニ依
賴シテ直チニ撤兵スルト云フコトハ恐ラク參リマセヌ、十分ニ安心ヲ見ルニ
非ザレバ我國ノ自衛上此處ニ矢張り兵ヲ駐メ置カナケレバナラスト思フノデ
アリマス、デ現在駐兵ノ目的、又將來駐兵ノ必要等ニ付テ御質問アリマシタ
コトニ付テハ、唯今迄ノ趣旨ニ依テ御答ヘ盡シタト考ヘルノデアリマス、
然ニ此處ニ駐兵スルコトハ如何ニモ無用ナルガ如キ感ヲ抱ク人モ大分アルノ
デアリマス、是ハ恐ラク唯今申シタガ如キ趣旨ノ徹底セザルヨリ起ルコトデ
アリマス、從ッテ帝國軍隊ノ義勇奉公ノ精神ヲ濫用イタシテ、此處ニ徒ラニ兵
ヲ駐メ置クガ如キハ毛頭ナイノデ又之ガ爲ニハ多大ノ費用モ費サナケレバナ
ラス、既ニ西比利亞ニ出兵イタシタ如キ巨額ハ無論入用ハナイコトデアリマ
スケレドモ、浦鹽方面其附近ニ多少ノ兵ヲ駐メ置キマシタニ付テハ、多少ノ
費用ハ要リマスケレドモ、其費用モ亦已ムヲ得ヌコトデ、何ノ爲ニ斯様ナル
財ヲ費スカ、何ノ爲ニ我ガ忠勇ナル兵隊ハ此處ニ存在スルカ、其趣意ガ甚ダ
不明ナリト云フコトノ御議論ヲ承ハルハ甚ダ遺憾、極メテ明瞭ナル事實ト政
府ハ認メテ居リマス、其他種々ノ御説モアリマシタケレドモ、其本旨トセラ
レタ所ノ大趣意ガ此處ニ在ルト考ヘマシタ故ニ、前段ノ答辭ヲ致シタノデア
リマス、是デ私ハ盡キタリト考ヘルノデアリマス、又願ハクバ加藤君ニ於テ
ハ其出兵ノ必要已ムヲ得ザルモノト云フコトハ、唯今ノ説明ニ依テ御了解ア
ラムコトヲ希望イタシマス

○子爵加藤高明君 總理大臣ヨリ幾多ノ時間ヲ費シテ、私ノ午前意見ヲ陳述
イタシタコトニ對シテ御述ベ下サレタコトニ對シテハ先ヅ以テ感謝イタシマ
ス、但シ御話シニナリマシタル事柄ハ、是マデ政府若クハ司令官等ヨリ聲明
トシテ發表セラレタ所ノ繰返シニ過ギヌ、ソレヲ再ビ御述ベニナツタト云フコ
トニ過ギナカッタ、其聲明ノコトハ私ハ詳シク承知シテ居リマシテ、而シテ之
ニ對シテ意見ノアル所、不審ノ存スル所ヲ申述ベタノデアリマス、決シテ誤
解モ何モナイノデ、事柄ハ能ク承知ノ上デ申上ゲタ次第デアリマス、ソレニ
對シテ、相當ノ時間ヲ費シテ申述ベタコトニ對シテハ御答辭ヲ得タトハ思ハ
ヌノデアリマス、要スルニ浦鹽方面ニ於ケル所ノ兵ハ、彼ノ地方ノ政情ガ安
定スル迄ハ行カヌ、併ナガラ兵力ヲ以テ政情ノ安定ヲ圖ルモノデハナイ、安
定スル迄、自然ニ安定スルノハイツノコトデアルカ、其時機ガ來タル迄ハ兵

ヲ引カスト云フ御趣意ト察スル、之ニ付テ世上幾多ノ誤解ヲスル……帝國政府ノ趣旨ヲ誤解ヲスル者モアル、加藤モ其一人デハ無イカ、就テハ自分ノ説明ニ依テ了解シタデアラウ、了解スルコトヲ望ムト云フコトデ御結ビニナリマシタガ、私ハ一向了解シマセス、私ノ不審ハ依然トシテ存シテ居リマス、併シコレ以上ハ多クハ意見ノ相違ニ屬スルノデアリマスカラ、此上ニ議論ニ涉リマシタ所ガ貴重ナル時間ヲ費スノミデアリマスカラ、私ハ總理大臣ノ御答辯ハ決シテ満足ヲ私ニ與ヘルモノデハナイ、之ニ依テ政府ノ趣旨ヲ了解シナイト云フ言葉ヲ殘シテ、此上ノ御尋ハ致シマセス

○議長(公爵德川家達君) 阪谷男爵

〔男爵阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○男爵阪谷芳郎君 本員モ二三、政府ニ事實ニ付テ御質問イタシタイ、西比利亞問題ニ付マシテ本員モ質問イタシタイト考ヘテ居リマシタガ、午前午後、加藤子爵、總理大臣ノ問答ガアリマシタノデハ省略イタシマス、但シ本員ノ御尋ニ致シタイト思ヒマシタノハ、西比利亞、滿洲、蒙古、此地方ガ文明世界ニ紹介セラレ、近代ノ發展ヲ致シマシタノハ最近三十年間以内ノコトデアル、其是等ノ大切ナル地方ヲ文明世界ニ紹介シ、人類社會ニ向テ經濟上ノ活動ヲ致スニ付テハ、日露兩國ノ力ガ與カテ多カッタ、最初ハ日露ノ間ニ衝突ガアリマシタナレドモ、日露戰爭以後ハ相互ニ協定ガ成立ッテ、互ニ衝突ナシニ發展シ來ッタノデアリマスルガ、不幸ニ致シマシテ大戰爭以後露國ガ混亂ノ狀態ニ陥タルガ爲ニ、今日ニ於キマシテハ露國ハ寧ろ西比利亞、滿洲、蒙古ニ對シテノ文明的活動ト云フモノハ中止イタシテ居ルノミナラズ、却ッテ妨害ヲ致シテ居ルト云フ譯デアル、而シテ支那ノ狀態ハ甚ダ國內ガ十分ナル統一ヲ見マセス、又政府ノ權力モ十分ナリト申サレマセスノデ、其ノ滿洲蒙古ニ對スル相當ナル秩序ノ維持ガ徹底イタシテ居ルトハ言ヘナイノデアアル、是ガ爲ニ日本ハ少カラザル損害ヲ被ッテ居ルノデアアル、而シテ最モ手短カニ申シマスレバ、日本ハ既ニ人口ノ數ニ於テハ最近ノ國勢調査ニモ依テ見ルガ如クニ五千五百萬、其中農業ニ依テ生計ヲ保ツ者ガ約三千萬、後トノ二千五百萬ハ商工業ニ依テ維持シテ居ルノデアリマスカラ、何レノ地方ニカ年増加シテ行ク所ノ六十萬、七十萬ノ人口ト云フモノノ吐ケ口、若クハ職業ノ途ヲ求メネバナラス、然ニ現今ノ狀態ニ於テ日本ノ民族ノ故障ナク發展シ得ベキ既得ノ權利ヲ有シテ居ルト申スモノハ滿洲、蒙古、西比利亞地方ニ殆ド

限ラレテ居ルノデアアル、殊ニ此度ノ戰亂ノ結果トシテ露國ガソレ等ノ地方ニ對シテ十分ナル文明ノ施設ヲ爲シ能ハヌ場合ニ於テハ、其既得ノ權利ノ擁護ノ爲ニ、日本ハ相當ナル盡力ヲシナケレバナラス立場ニナッテ參タノデアアル近來ニ於テ世界ノ平和ト云フ問題ガアリマスルガ、此日本ノ發展シテ行ク即チ年々ニ増加シテ行ク過剰ノ人口ニ對シ、其行ク先若クハ其生計ノ方法ヲ授ケルト云フコトヲ無理ニ抑ヘ付ケルト言フ考ガ何レニカアッタナラバ、根本ノ病源ト云フモノハ除カレヌノデアアル、例ヘバ日米問題ノ骨子トナッテ居ル加州問題ニ致シマシタ所ガ、結局此問題ニ矢張り觸レテ來ルデアラウト思フ、既ニ米國ノ有力ナル政治家ニシテ「ブライアン」トカ若クハ「ヒッチコック」ト言フ人ノ如キハ、日本國民ハ滿洲、蒙古、西比利亞地方ニ發展スベキガ當然デアルト云フヤウナ議論ヲ爲シテ居ルノデアアリ、其他ニ於テモサウ云フ議論ヲ聞クノデアアル、デ私ノ問ハムト欲スル所ハ斯カル狀態ノ下ニアルノデアリマスルカラ、政府ニ於テハ其日本ノ立場ガ列國ニ明瞭ニ了解セラル、ヤウニ、而シテ滿洲、蒙古、西比利亞ニ對シテノ政府ノ施設ガ誤解ノナイヤウニ、十分ニ各國ノ了解ヲ求メルヤウニ御盡力ニナッテ居ルデアラウカ、又現在唯駐兵シタダケデソレ等ノ既得ノ權利、即チ大連ノ貿易ノミヲ見マシテモ少ナカラザル發達ヲ爲シテ居ルノデアリマスガ、是等ノ貿易ト云フモノガ滿洲、蒙古、西比利亞地方ノ反亂ニ依テハ、非常ニ縮小シテ來ル結果ヲ持ッ、即チ既得ノ權利ヲ侵害セラレル結果ニナル、ソレ等ニ對シテモ十分力ヲ盡サレタノデアアルカ、即チ駐兵以外ニ何等ノコトヲセラレタカト云フコトヲ承リタカッタノデアリマスガ、是ハ段々既ニ午前午後ニ互ッテ問答モアリマシタカラ、此事ハ唯其希望ヲ申述ベテ置クニ止メマス、茲ニ唯伺ヒタイノハ二ツバカリゴザイマスルガ、間島問題ニ付マシテ、昨年ノ秋間島地方ニ不逞ノ鮮人ガ集マッテ、馬賊ト合體シ或ハ不良ナル露國人ト合體イタシマシテ、朝鮮ノ國境ヲ脅スノ虞ガアリ、又帝國ノ滿洲ニ於ケル領事館ヲ襲撃シテ之ヲ燒キ、又警察官及ビ其他ノ人民ヲ殺害シ財産ヲ掠奪シタト云フコトニ付テ、帝國ノ軍隊ヲ派シテ討伐ニ從事セシメタト云フ事柄ニ付マシテ、外國ノ新聞殊ニ支那ノ新聞ノ報道スル所ニ依リマスルト、是等ノ軍隊行動ガ甚ダ無慈悲ナル行動ヲ致シタ、不必要ナル人命ノ殺戮ヲ致シ、又少カラザル家屋ヲ燒毀シ、所謂日本ノ軍隊ノ行動ハ正義人道ニ悖ッタモノデアルト云フコトガ、支那ノ新聞又其他ノ外國ノ新聞ニ段々出テ居リマス、又其言フ所ニ依テ見ルト、日本ノ軍隊ノ行動ハ耶

蘇教ヲ迫害シタモノデアル、其軍隊ノ行動ガ専ラ耶蘇教徒ニ向テ迫害ヲ試ミタ形跡ガアル、耶蘇教徒ノ寺院ヲ燒キ耶蘇教徒ヲ多ク殺シタト云フ事實ガアルト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、若シソレガ事實デアリマスレバ、是ハ容易ナラザルコトデ、帝國ノ政府ハ正義人道ニ基イテ公明ナル政治ヲ施

イカ、何分甚ダ疑フ生ズル問題デアッテ、而カモ其コトハ日本ノ外交上ノ信用ニ關スル大切ノコトト考ヘマスルカラ、明瞭ナル事實ヲ伺ッテ置キタイノデアリマス、此ニツツ伺ヒマス

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 阪谷君ノ御質問ニ御答ヘ致シマスルガ、第一ハ間島方面ニ於ケル事柄デアリマス、阪谷君ノ御説ノ如ク支那新聞等ニハ如何ニモ人道ニ反シタルヤウナ我が軍隊ノ行動ノアッタコトヲ掲ゲテアリマス、殊ニ又耶蘇教徒ヲ攻撃イタシタヤウニモ傳ヘテ居ル、支那新聞ノミナラズ此耶蘇教云云ニ關シテハ、他ノ國ノ新聞紙等ニモ散見イタシテ居ルノデアリマス、併ナガラ是ハ段々サウ云フ批評モアリマシタカラ取調ベタノデアリマス、支那地方ノ方面ハ遺憾ナガラ新聞紙ハ多ク誇大ニ排日ノ意味ヲ持テ傳フルモノモアリマスルカラ別物ト致シマシテモ、他ノ國ノ左様ナ誤解ヲ抱クト云フコトハ甚ダ面白カラスコトデアリマスカラ、十分ニ調査ヲ致シタノデアリマス、其調査イタシタ結果ニ依レバ決シテ傳フルガ如キコトハナイノデ、唯遺憾ナガラ言語モ通ゼズ風俗ガ異リ、從ッテ種々ノ感情ガ之ニ手傳ヒマシテ、意外ニモ我が軍隊ノ行動ヲ非難スルコトガアッタノデアリマス、是等ハ左様ナル誤解ヨリ種々ノ浮説ヲ傳ヘタノデアリマシテ、今日マデノ調査ニ於テ決シテ我が軍隊ハ人道ニ反スルヤウナル行動ヲ爲シタコトハナイノデアリマス、殊ニ又耶蘇教徒ヲ特ニ攻撃スルガ如キ行動ハナイノデアリマス、次ニ北京ニ於ケル昨年ノ事件ニ付テハ徐樹錚始メ數人ノ者ガ公使館ニ救ヒヲ求メ、公使館ニ於テハ公法上ノ例規ニ照シテ北京ニ於ケル先例等ヲ考ヘマシテ、是等ノ者ヲ公使館ニ於テ保護ヲ致シタノデアリマス、然ニ其中ノ徐樹錚ハ逃走ヲ致シタノデアリマス、其ノ逃走ニ付テモ矢張り支那新聞其他ニ種々ナル風説ヲ傳ヘテ居リマススケレドモ、是レ亦以テ政府ノ取調ベマシタ結果ニ依レバ、我が公使ニ於テ竝ニ我が軍事當局ニ於テ、何等之ヲ逃走セシムルニ助ケヲ致シタト云フヤウナルコトハナイノデ、元來公使館ニ救ヒヲ求ムルト云フコトハ彼等ノ任意ノ行動デアリマス、之ヲ保護スルコトハ唯今申シタ如ク公法上ノ例規竝ニ慣例ニ依テ保護イタシマシタノデアリマススケレドモ、此逃走マデヲモ防イデ拘禁シテ置カナケレバナラヌ義務ハ無論ナイノデアリマス、彼等ガ其義務ヲ放棄シテ逃走スレバソレマデノコトデアリマススケレドモ、併シ彼等ノ保護ヲ致シテ居ル以上ニハ成ベク左様ナルコトハ彼等ノ爲ニ利益ナラズト考

蘇教ヲ迫害シタモノデアル、其軍隊ノ行動ガ専ラ耶蘇教徒ニ向テ迫害ヲ試ミタ形跡ガアル、耶蘇教徒ノ寺院ヲ燒キ耶蘇教徒ヲ多ク殺シタト云フ事實ガアルト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、若シソレガ事實デアリマスレバ、是ハ容易ナラザルコトデ、帝國ノ政府ハ正義人道ニ基イテ公明ナル政治ヲ施イテ居ルト云フノヲ以テ内外ノ信用ヲ得ネバナラス筈デアルノニ、若シ出先キノ軍隊ニ於テ、是等外國ノ新聞紙ガ報道スルガ如キ事實ガ假ニアッタ致シマシタナラバ、是ハ容易ナラザル事件デアッテ、相當ナル調査ヲモ進ンデシナケレバナラヌコトデアルト考ヘマスルガ、果シテ如何ナル事實デアッタデアラウカ、是等新聞紙ノ報道ハ全ク誤リデアアル、決シテ我が軍隊ノ行動ニ於テハ正義人道ニ悖ルヤウナコトハナイノデアアルカ、又耶蘇教ヲ特ニ迫害シタト云フヤウナ事實ハナイノデアアルカ、其邊ノコトニ付マシテ明瞭ナ御答ヲ得タイト考ヘマス、今一ツ伺ヒタイノハ昨年ノ八月ニ北京ニ政變ノアリマシタトキニ、徐樹錚外八名ノ舊大臣ガ日本ノ公使館ニ投ジマシテ保護ヲ求メタ、日本ノ公使館デハ國際ノ慣例ニ依テ之ヲ公使館ノ兵營内ニ逗留セシメテ置イタ、然ニ其九人ノ支那大官ノ中デ、徐樹錚ト云フ人ガ昨年ノ十一月半頃ニ逃亡シタ、斯ウ云フ事實デ、ソレニ付マシテ矢張り支那ノ新聞ニ種々ナル記事論説ガ出テ居リマスル、デ日支親善ノ上ニ於テハ極メテ有害ナ事柄デアルト本員ハ心配イタスノデアリマス、尙ホ日本ノ公使ノ行動ノ上ニ疑ガ掛ッテ來ルトスルト、日本ノ公使ガ甚ダ疑フ蒙ルコトニナル、即チ日本ノ外交ノ信用ニモ關スルト云フヤウナ事柄ノヤウニモ見エマスル、本員ノ信ズル所ニ依リマスレバ、日本ノ公使ガ斷ジテ斯ルコトニ關係スル筈ガナイ、即チ密ニ徐樹錚氏ヲ逃スト云フヤウナコトガナイトモ信ズルノデアリマスガ、警備ノ嚴重ナル兵營ノ中ニ居ッタ人ガ居ナクナルト云フヤウナコトニ付テハ、種々ナル疑惑流説ヲ生ズルト云フヤウナコトハ是ハ免レヌコトデアアル、當時ノ事實ハ如何デアリマシタラウカ、此事ハ明瞭ニイタシテ置キタイノデアリマス、若シ果シテ何人カガ之ニ加擔シテ徐樹錚ヲ逃シタ者ガアルトスレバ、果シテアッタカナイカ本員ハ存ジマセスケレドモ如何ニモ一人デ逃ゲ出スト云フヤウナコトハ不思議ニ考ヘラレルノデアリマスガ、若シサウ云フコトデモアッタナラバ、矢張り相當ノ調査ヲ遂ゲテ、假令其人ノ行爲ハ義侠的ノ考ニ出タカモ知レマセスケレドモ、帝國ノ外交ヲ妨害シ、日支親善ヲ妨ゲルト云フヤウナ行動ニ付テハ、十分ニ是等ノモノハ相當ノ處罰ヲシナケレバナラヌ筋ノモノデハナ

ヘテ、十分ノ注意モ致シ保護モ與ヘテ居ッタノデアリマスガ、然ニモ拘ラズ彼ガ逃走致シタト云フ次第デアリマス、此逃走ニ關シマシテハ唯今申シタ如ク我ガ公使館竝ニ軍憲ニ於テ何等之ニ逃走ヲ手傳ツタ、援助シタト云フヤウナコトハナイノデアリマス、尤モ公使館竝ニ軍事當局ニ於テハアリマセヌケレドモ、其部下ノ者ニ多少我ガ意志ニ反スルガ如キ行動ヲ致シタノ嫌ヒモアリ、段々之ヲ取調ベマシタ結果、職務上捨テ置キ難キモノハ陸軍當局ニ於テ相當ノ處分ヲ致シタ管デアリマス、是等事件ニ付テ尙ホ精シキコトハ、陸軍當局ヨリ御答ヘテ致シタ方ガ尙ホ明瞭ニナリマスノデアリマスケレドモ、大體ノ趣意ハ唯今申シタ通りノ次第デアリマス、間島方面ニ付テノ浮説、徐樹錚逃走ニ付テノ浮説、是等ノモノハ唯今世間ニ傳フルガ如キ事實ハナイト云フコトヲ玆ニ申上ゲテ差支ナイト思ヒマス

○男爵阪谷芳郎君 唯今ノ總理大臣ノ御辯明ニ依リマシテ、誠ニ私モサウアラムコトヲ喜ブノデアリマス、併シナカノ此出先ノ出來事ニ付テハ往々誤リガアリマスカラ、事外交ニモ關シ、國際上ニ重大ノ關係ヲ有ッテ居ルノデアリマスカラ、尙ホ今後ノ御注意ヲ十分ニ願ヒタイト思ヒマス、私ハ質問ヲ是デ打切りマス

○議長(公爵德川家達君) 玆ニ諸君ニ御諮リヲ致シタイコトガアリマス、國務大臣ノ演説ニ對スル質疑ノ通告者ハ尙ホ多數ゴザイマスガ、本日ハ都合ニ依リマシテ質疑ヲ中止イタシマシテ、是ハ明日ニ譲リマシテ本日ノ議事日程ノ第一カラ始メタイト考ヘマスガ、如何デアリマスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、議事日程第一、麻生太吉君、中村圓一郎君請暇ノ件、麻生君病氣ニ付十一日間、中村圓一郎君病氣ニ付十一日間ノ請暇デゴザイマス、何レモ許可イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、次ハ諸君ニ御異議ガナケレバ、日程第二ヨリ第八マデ一括シテ問題トシ、説明ヲ煩シタイト考ヘマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 日程第二、陸軍軍法會議法案、第四、朝鮮軍法

會議ニ關スル法律案、第六、臺灣軍法會議ニ關スル法律案、第八、關東軍法會議ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會、本日ハ總テノ通牒文ノ朗讀ハ省略イタシタイト考ヘマス、御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔左ノ通牒文ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタノ玆ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

陸軍軍法會議法案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十年一月十九日

內閣總理大臣 原 敬

陸軍大臣 男爵田中 義一

陸軍軍法會議法案

陸軍軍法會議法案

第一編 軍法會議

第一章 軍法會議ノ裁判權

第一條 軍法會議ハ左ニ記載シタル者ニ對シ其ノ犯罪ニ付裁判權ヲ有ス

一 陸軍刑法第八條第一號乃至第三號、第四號後段、第五號及第九條ニ

記載シタル者

二 陸軍用船ノ船員

三 前二號ニ記載シタル者ヲ除クノ外陸軍ノ部隊ニ屬シ又ハ從フ者

四 俘虜

前項第二號及第三號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 軍法會議ハ前條ニ記載シタル者ニ對シ其ノ身分發生前ノ犯罪ニ付

亦裁判權ヲ有ス

軍法會議ハ前條ニ記載シタル者其ノ身分ヲ喪失シタルトキト雖身分繼續中搜查ノ報告アリ又ハ逮捕、勾引若ハ勾留セラレタルトキハ其ノ者ニ對シ亦裁判權ヲ有ス

第三條 軍法會議ハ陸軍刑法第八條第四號前段ニ記載シタル者ニ對シ其ノ犯シタル陸軍刑法ノ罪ニ付裁判權ヲ有ス

前條第二項ノ規定ハ前項ニ規定スル犯罪ニ付之ヲ準用ス

第四條 軍法會議ハ合圍地境ニ在ル第一條ニ記載シタル以外ノ者ニ對シ左ノ各號ニ規定スル犯罪ニ付裁判權ヲ有ス

一 第十五條第一號又ハ第二號ニ記載シタル者ト共ニ犯シタル同一又ハ別個ノ罪

二 陸軍刑法、海軍刑法、軍機保護法其ノ他軍事ノ必要ニ因リ特ニ設ケタル法令ノ罪

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虚偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ハ之ヲ其ノ本犯ト共ニ犯シタルモノト看做ス

第五條 軍法會議ハ戒嚴令ニ定メタル特別裁判權ヲ行フ

第六條 軍法會議ハ戰時事變ニ際シ軍ノ安寧ヲ保持スル爲必要アルトキハ第一條ニ記載シタル以外ノ者ニ對シ犯罪ニ付裁判權ヲ行フコトヲ得

第七條 第四條及前條ノ規定ハ海軍軍法會議法第一條乃至第三條ノ規定ニ依リ海軍軍法會議ノ裁判權ヲ有スル犯罪ニ付テハ之ヲ適用セス但シ被告人ノ所在地海軍軍法會議ノ所在地ト交通斷絶シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二章 軍法會議ノ管轄權

第八條 軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

一 高等軍法會議

二 師團軍法會議

三 軍軍法會議

四 獨立師團軍法會議

五 獨立混成旅團軍法會議

六 兵站軍法會議

七 合圍地軍法會議

八 臨時軍法會議

第九條 高等軍法會議及師團軍法會議ハ之ヲ常設ス

軍軍法會議、獨立師團軍法會議、獨立混成旅團軍法會議及兵站軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ之ヲ特設ス

合圍地軍法會議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス

臨時軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ特設又ハ分駐シタル陸軍ノ部

隊ニ之ヲ特設ス

第十條 高等軍法會議ハ陸軍大臣ヲ以テ長官トス

師團軍法會議ハ師團長ヲ以テ長官トス

特設軍法會議ハ軍法會議ヲ設置シタル部隊又ハ地域ノ司令官ヲ以テ長官トス

第十一條 高等軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 陸軍ノ將官、將官相當官、勅任文官及勅任文官待遇者並海軍ノ將官、勅任文官及勅任文官待遇者ニ對スル被告事件

二 上告

三 非常上告

第十二條 師團軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 師團長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 師團内ニ在ル陸軍ノ部隊ニ屬スル者及其ノ部隊ノ長ノ監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件但シ其ノ部隊ニ軍法會議ヲ設ケサル場合ニ限ル

三 師管内ニ在リ又ハ師管内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件但シ被告人ノ所屬部隊ノ軍法會議師管内ニ在ラサル場合ニ限ル

第十三條 軍法會議、獨立師團軍法會議又ハ獨立混成旅團軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 軍、獨立師團又ハ獨立混成旅團ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 作戰地域ニ在ル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件但シ被告人ノ所屬部隊ノ軍法會議其ノ地域ニ在ラサル場合ニ限ル

三 作戰地域ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件

第十四條 兵站軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 兵站ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 兵站地域若ハ兵站ノ屬スル軍隊ノ作戰地域ニ在リ又ハ此等ノ地域ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件但シ被告人ノ所屬部隊ノ軍法會議此等ノ地域ニ在ラサルトキニ限ル

三 兵站地域又ハ兵站ノ屬スル軍隊ノ作戰地域ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件

第十五條 合圍地軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

- 一 合圍地司令官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告人事件
- 二 合圍地境ニ在リ又ハ合圍地境ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告人事件

第四條及第五條ニ定メタル裁判權ニ屬スル被告人事件

第十六條 臨時軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

- 一 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告人事件
- 二 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ管轄地域若ハ守備地域ニ在リ又ハ此等ノ地域ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告人事件但シ被告人ノ所屬部隊ノ軍法會議此等ノ地域ニ在ラサルトキニ限ル

三 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ管轄地域又ハ守備地域ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告人事件

第十七條 第一條乃至第三條ニ記載シタル者ニ對スル被告人事件ニ付管轄軍法會議ナキトキハ被告人ノ現在地又ハ犯罪地ノ附近ニ在ル軍法會議之ヲ管轄ス

第十八條 管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル軍法會議併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得但シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件及第四條乃至第六條ニ記載シタル事件ハ牽連ノ事由ニ因リ併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得ス

第十九條 軍法會議牽連事件ニ付公訴ヲ受ケタル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第二十條 數個ノ軍法會議牽連事件ニ付各別ニ公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ軍法會議ニ併合スルコトヲ得

第二十一條 高等軍法會議牽連事件ニ付公訴ヲ受ケタル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第二十二條 高等軍法會議及他ノ軍法會議牽連事件ニ付各別ニ公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ他ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得

第二十三條 數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

- 一 一人數罪ヲ犯シタルトキ
- 二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ
- 三 數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
- 四 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第二十四條 數個ノ軍法會議同一事件ニ付公訴ヲ受ケタルトキハ第二十五條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外最初ニ公訴ヲ受ケタル軍法會議之ヲ審判ス

前項ノ場合ニ於テ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル軍法會議ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第二十五條 高等軍法會議及他ノ軍法會議同一事件ニ付公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議之ヲ審判ス

前項ノ場合ニ於テ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第二十六條 管轄ハ公訴提起後ニ於テハ被告人ノ轉屬、失官其ノ他管轄ヲ定ムル事由ノ變更ニ因リ變更セラルルコトナシ但シ被告人第十一條第一號ニ記載シタル身分ヲ取得シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 第十一條第一號ニ記載シタル者被告人ナル場合ニ於テ其ノ現在地高等軍法會議ノ所在地ト交通斷絶シタルトキ又ハ其ノ所在地ト著シク離隔シ且審判急速ヲ要スルトキハ被告人ノ現在地又ハ其ノ附近ニ在ル軍法會議被告人事件ヲ管轄スルコトヲ得

第二十八條 管轄軍法會議ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ管轄移轉ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十九條 軍法會議ヲ廢シタルトキハ陸軍大臣ハ後繼軍法會議ヲ指定スヘシ

第三十條 訴訟手續ハ管轄違ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第三章 軍法會議ノ職員

第三十一條 軍法會議ニ判士、陸軍法務官、陸軍録事及陸軍警査ヲ置ク

第三十二條 判士ハ陸軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ

第三十三條 將官ヲ以テ判士ト爲ストキハ陸軍大臣ノ奏請ニ因リ之ヲ命ス
特設軍法會議ニ於テハ長官又ハ其ノ直系上官ハ急速ヲ要スル場合ニ限り
部下ノ將官中ヨリ判士ヲ命スルコトヲ得

第三十四條 佐官以下ノ將校ヲ以テ判士ト爲ストキハ長官之ヲ命ス

長官ノ部下ニ非サル將校ヲ以テ判士ト爲スコトヲ要スルトキハ陸軍大臣
之ヲ命ス特設軍法會議ニ於テハ急速ヲ要スル場合ニ限り長官ノ直系上官
ハ部下ノ將校中ヨリ之ヲ命スルコトヲ得

第三十五條 法務官ハ終身官トシテ勅任又ハ奏任トス

第三十六條 法務官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一 公然政事ニ關係スルコト

二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員ト爲ルコト

三 帝國議會ノ議員又ハ道、府、縣、郡、市、區、町、村會ノ議員ト爲
ルコト

四 報酬アル公務ニ就クコト

五 商業ヲ營ムコト

第三十七條 法務官ハ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ因ルニ非サレハ其ノ意ニ反
シテ免官又ハ轉官セラルルコトナシ

第三十八條 法務官身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ
至リタルトキハ陸軍大臣ハ高等軍法會議總會ノ決議ニ因リ之ニ退職ヲ命
スルコトヲ得

第三十九條 陸軍大臣ハ左ノ場合ニ於テハ法務官ニ現俸ノ半額ヲ給シテ休
職ヲ命スルコトヲ得

一 懲戒令ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二 刑事事件ニ關シ起訴セラレタルトキ

三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

四 戰時又ハ事變ニ際シ臨時増員シタル場合ニ於テ其ノ必要止ミ過員ヲ
生シタルトキ

五 病氣ノ爲執務セサルコト六月ニ至リタルトキ

休職ノ期間ハ前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ其ノ事件ノ繫屬中トシ
第三號乃至第五號ノ場合ニ於テハ三年トス

第四十條 法務官前條第一項第三號乃至第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セ
ラレ滿期ト爲リタルトキハ退職トス

第四十一條 法務官ノ任用及懲戒ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 録事ハ判任トス

第四十三條 警査ハ長官之ヲ命ス

第四十四條 特設軍法會議ニ於テハ長官ハ陸軍ノ准士官又ハ下士ヲシテ録
事ノ職務ヲ行ハシメ陸軍ノ下士又ハ兵卒ヲシテ警査ノ職務ヲ行ハシムル
コトヲ得

第四十五條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル判任文官ヲシ
テ録事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四章 審判機關

第四十六條 軍法會議ハ審判ヲ爲スニ付他ノ干涉ヲ受クルコトナシ

第四十七條 審判ハ裁判官五人ヲ以テ構成シタル會議ニ於テ之ヲ爲ス

裁判官ハ判士及法務官ヲ以テ之ニ充テ上席判士ヲ裁判長トス

特設軍法會議ニ於テハ上席判士及法務官ヲ除クノ外裁判官二人ヲ減スル
コトヲ得

第四十八條 裁判官ハ長官之ヲ定ム

第四十九條 師團軍法會議及特設軍法會議ニ於テハ判士四人及法務官一人
ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ

一 被告人下士又ハ兵卒ナルトキハ中佐又ハ少佐一人大尉一人大尉、中
尉又ハ少尉二人

二 被告人中尉、少尉又ハ准士官ナルトキハ中佐又ハ少佐一人大尉二人

大尉又ハ中尉一人

三 被告人大尉ナルトキハ大佐又ハ中佐一人少佐二人大尉一人

四 被告人少佐ナルトキハ大佐一人中佐二人少佐一人

五 被告人中佐ナルトキハ少將一人大佐二人中佐一人

六 被告人大佐ナルトキハ中將一人少將二人大佐一人

七 被告人將官ナルトキハ被告人ト同等以上ノ將官四人

交通斷絶シタル地ニ在ル軍法會議ニ於テハ被告人ト同等以上ノ判士ヲ以テ裁判官ト爲スコトヲ得

第五十條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ陸軍ノ將校又ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシテ法務官ニ代リ裁判官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十一條 高等軍法會議ニ於テハ判士三人及法務官二人ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ

一 被告人下士又ハ兵卒ナルトキハ佐官一人大尉二人

二 被告人中尉、少尉又ハ准士官ナルトキハ大佐又ハ中佐一人少佐一人大尉一人

三 被告人大尉ナルトキハ大佐一人中佐一人少佐一人

四 被告人少佐ナルトキハ大佐一人中佐二人

五 被告人中佐ナルトキハ少將一人大佐二人

六 被告人大佐ナルトキハ中將一人少將二人

七 被告人少將ナルトキハ大將又ハ中將一人中將又ハ少將一人少將一人

八 被告人中將ナルトキハ大將一人大將又ハ中將一人中將一人

九 被告人大將ナルトキハ大將三人

第五十二條 被告人官等又ハ等級ヲ有セサル士官ノ候補者ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者ナルトキハ少尉ニ準シ士官ノ勤務ニ服セサル者ナルトキハ下士ニ準シ判士ヲ區別ス

被告人准士官又ハ下士タル士官ノ候補者ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者ナルトキハ少尉ニ準シ判士ヲ區別ス

第五十三條 被告人將校相當官、軍屬、海軍軍人又ハ海軍軍屬ナルトキハ其ノ官等、等級又ハ階級ニ從ヒ將校、准士官、下士又ハ兵卒ニ準シ判士ヲ區別ス

第五十四條 被告人第四十九條及第五十一條乃至第五十三條ニ記載シタル者ニ非サルトキハ下士又ハ兵卒ニ準シ判士ヲ區別ス

前項ノ場合ニ於テ長官ハ事情ニ因リ判士ノ區別ヲ變更スルコトヲ得

第五十五條 被告人俘虜ナルトキハ第四十九條及第五十一條乃至前條ノ規定ニ準シ判士ヲ區別ス

第五十六條 二個以上ノ異ル官等、等級又ハ階級ヲ有スル被告人ニ付テハ

其ノ最高キ官等、等級又ハ階級ニ從ヒ判士ヲ區別ス

第五十七條 官等、等級又ハ階級ヲ異ニスル共同被告人ニ付テハ其ノ官等、等級又ハ階級ノ最高キ者ニ從ヒ判士ヲ區別ス

第五十八條 判士ノ區別ハ被告人ノ身分ニ異動アルモ官等、等級又ハ階級ノ高キ身分ヲ取得シタル場合ヲ除クノ外變更セラルルコトナシ

第五十九條 上告、非常上告又ハ再審ノ審判ヲ爲ス場合ハ判士ノ區別ハ原軍法會議ノ裁判官ヲ定メタル當時ノ被告人ノ身分ニ從フ但シ被告人官等、等級又ハ階級ノ高キ身分ヲ取得シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第七十三條第三項、第四百十五條、第四百十六條、第四百三十六條又ハ第五百三十條ノ決定ヲ爲ス場合ノ判士ノ區別ニ之ヲ準用ス

第六十條 上告、非常上告又ハ再審ノ審判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判長ノ官等ハ原軍法會議ノ裁判長ヨリ下ルコトヲ得ス

第五章 豫審機關

第六十一條 豫審ハ豫審官之ヲ行フ

第六十二條 豫審官ハ法務官中ヨリ長官之ヲ命ス

第六十三條 特設軍法會議ニ於テハ長官ハ陸軍ノ將校ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六十四條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六章 檢察機關

第六十五條 陸軍大臣ハ公訴及搜查ヲ指揮監督ス

第六十六條 長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公訴ヲ指揮ス

長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件、之ト牽連スル事件及所管部隊内ノ犯罪事件ニ付搜查ヲ指揮ス

第六十七條 檢察官ハ長官ニ隸屬シ搜查ヲ爲シ公訴ヲ行フ

第六十八條 檢察官ハ法務官中ヨリ長官之ヲ命ス

第六十九條 長官ハ法務官試補ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十條 特設軍法會議ニ於テハ長官ハ陸軍ノ將校ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十一條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシ

テ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十二條 檢察官ハ陸軍司法警察官又ハ司法警察官ヲシテ捜査ノ輔佐ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十三條 憲兵ノ將校、准士官又ハ下士ハ陸軍司法警察官トシテ捜査ヲ爲ス

陸軍大臣ハ所管ノ大臣ト協議シテ警察官中ヨリ陸軍司法警察官トシテ勤務スル者ヲ指定スルコトヲ得

第七十四條 左ニ記載シタル部隊ノ長ハ其ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ノ犯罪ニ付陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ

一 中隊以上ノ軍隊及之ニ準スヘキ軍隊

二 官衙、學校、特務機關及戰時ニ於ケル特設機關
臨時集成部隊ノ長ハ其ノ部隊本屬部隊ノ所在地ト遠隔ノ地ニ在ル場合ニ

限リ前項ノ規定ニ準シ陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ

第七十五條 前條ニ記載シタル部隊ノ長ハ部下ノ將校ニ委任シテ特定ノ事件ニ付陸軍司法警察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十六條 陸軍司法警察官又ハ陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ捜査ヲ爲スニ付上官ノ命令ニ從フ

第七十七條 警査又ハ憲兵卒ハ檢察官又ハ陸軍司法警察官ノ命令ヲ受ケ陸軍司法警察吏トシテ捜査ノ補助ヲ爲ス

第七十三條第二項ノ規定ニ依リ指定セラレタル警察官ノ部下ニ屬スル巡查亦前項ニ同シ

第七十八條 檢察官ハ司法警察吏ヲシテ捜査ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得
第七十九條 陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ部下ヲシテ捜査ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第二編 訴訟手續

第一章 總則

第一節 裁判官ノ除斥及回避

第八十條 長官ハ除斥ノ原由其ノ他正當ノ事由アリト認ムルトキハ裁判官ヲ變更スヘシ

第八十一條 裁判官職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ場合左ノ如シ
一 裁判官被害者ナルトキ

二 裁判官被告人又ハ被害者ノ配偶者、四親等内ノ血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナルトキ

三 裁判官被告人又ハ被害者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

四 裁判官事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

五 裁判官事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人又ハ輔佐人ト爲リタルトキ

六 裁判官事件ニ付長官又ハ檢察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ

七 裁判官事件ニ付捜査、豫審又ハ前審ニ干與シタルトキ

第八十二條 檢察官又ハ被告人ハ除斥ノ原由其ノ他裁判官ヲ變更スヘキ正當ノ事由アリト思料スルトキハ其ノ旨ヲ長官ニ具申スルコトヲ得

第八十三條 長官前條ノ具申ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ軍法會議ニ通知スヘシ

軍法會議前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ裁判官ノ變更ニ關シ通知ヲ受クル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十四條 裁判官自ラ除斥ノ原由其ノ他回避スヘキ正當ノ事由アリト思料スルトキハ其ノ旨ヲ長官ニ具申スヘシ

第八十五條 前五條ノ規定ハ豫審官及録事ニ之ヲ準用ス

第八十六條 特設軍法會議ニ於テハ本節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二節 辯護及輔佐

第八十七條 被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第八十八條 辯護人ハ左ニ記載シタル者ヨリ之ヲ選任スヘシ

一 陸軍ノ將校又ハ將校相當官

二 陸軍高等文官又ハ同試補

三 陸軍大臣ノ指定シタル辯護士

第八十九條 辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘシ
辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第九十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ス

第九十一條 辯護人ハ軍法會議ニ於テ被告事件ニ關スル書類及證據物ヲ閱

覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

第九十二條 辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ限り獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第九十三條 前六條ノ規定ハ特設軍法會議ニ付テハ之ヲ適用セス

第九十四條 被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人タラムトスルトキハ審級毎ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

輔佐人ハ獨立シテ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三節 裁判

第九十五條 裁判ハ定數ノ裁判官評議シテ之ヲ爲ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條 裁判官ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ法務官試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

裁判官ノ評議ハ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末及各裁判官ノ意見ハ祕密トス

第九十七條 裁判官意見ヲ述フルノ順序ハ法務官ヲ始トス法務官二人ナルトキハ席次ノ低キ者ヲ始トス其ノ他ノ裁判官ニ在リテハ席次ノ最低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス

第九十八條 裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

裁判官ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ル迄被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第九十九條 裁判官ハ裁判スヘキ事項ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第一百條 判決ハ口頭辯論ニ基キ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

決定ハ公判廷ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽キ之ヲ爲スヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ

得

前項ノ取調ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百一條 裁判ニハ理由ヲ附スヘシ但シ決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及其ノ事實ヲ認メタル理由並法令ノ適用ヲ示スヘシ

第一百二條 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ノ送達ニ依リ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百三條 裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

第一百四條 檢察官ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢察官ニ送付スヘシ

第一百五條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ被告人其ノ他訴訟關係人ノ請求ニ因リ之ヲ交付ス

前項ノ場合ニハ其ノ費用ヲ徵スルコトヲ得

第四節 書類

第一百六條 訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外錄事之ヲ調製スヘシ

第一百七條 裁判官、豫審官又ハ檢察官ハ錄事ノ作リタル書類ニ付意見アルトキハ錄事ニ命シ之ヲ變更セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ錄事ハ自己ノ意見ヲ書類ニ附記スルコトヲ得

第一百八條 被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ取調ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對スル訊問及其ノ供述

二 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由調書ハ錄事ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ
第九條 檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ
押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り之ヲ
調書ニ添附スヘシ

第十條 前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載
シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者録事ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期
日外ニ於テ軍法會議取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判官タル法務官録
事ト共ニ署名捺印スルヲ以テ足ル

第十一條 録事ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ録事ノ
行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

第十二條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ
公判調書ニハ左ノ事項其ノ他重要ナル訴訟手續ヲ記載スヘシ

一 公判ヲ爲シタル軍法會議及年月日
二 裁判官、檢察官及録事ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、輔佐人
及通事ノ氏名

三 被告人出頭セザリシトキハ其ノ旨
四 辯論ノ公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由

五 被告事件ノ陳述其ノ他辯論ノ要旨
六 第八條第二項ニ記載シタル事項

七 朗讀シタル書類及要旨ヲ告ケタル書類
八 被告人ニ示シタル證據物

九 公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收
十 裁判長ヨリ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許
シタル事項

十一 辯論ノ最終ニ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述ヲ爲サシメタルコト
十二 判決其ノ他ノ裁判ヲ爲シタルコト

第十三條 公判調書ニ付テハ第八條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手
續ヲ爲スコトヲ要セス

第十四條 公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ

第十五條 公判調書ニハ裁判官タル法務官録事ト共ニ署名捺印スヘシ

法務官二人ナルトキハ上席者署名捺印シ上席者差支アルトキハ他ノ法務
官署名捺印スヘシ

法務官差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ
録事差支アルトキハ前三項ノ規定ニ依リ署名捺印スル者其ノ事由ヲ附記
シテ署名捺印スヘシ

第十六條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明ス
ルコトヲ得

第十七條 裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告
スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

第十八條 裁判書ハ裁判官之ヲ作ルヘシ
第十九條 裁判書ニハ裁判官署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能
ハサルトキハ上席ノ裁判官其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ裁判官署
名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘ
シ

第二十條 裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ
氏名、年齢、職業及住居ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ記載シタル事項ノ外公判ニ干與シタル檢察官ノ官氏名
ヲ記載スヘシ

第二十一條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又
ハ謄本ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第二十二條 前四條ノ規定ハ豫審官裁判ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除
クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘ
シ

書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

第二十四條 官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、
削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ削
除シタル部分ハ讀ミ得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第二十五條 官吏及公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シ
テ署名捺印スヘシ

第二十六條 官吏及公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名ス

ルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代署セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印スヘシ

他人ヲシテ代署セシメタル場合ニ於テハ代署シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第二百二十七條 特設軍法會議ニ於テ審判スヘキ事件ノ書類ニ付テハ本節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五節 送達

第二百二十八條 送達ハ録事送達吏ヲシテ之ヲ爲サシム但シ陸軍司法警察官ノ發スル書類ノ送達ハ其ノ書類ヲ作リタル者之ヲ爲サシム

送達吏ハ陸軍司法警察吏ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十九條 送達ハ郵便ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郵便配達人ヲ以テ送達吏ト爲ス

第二百三十條 送達ハ之ヲ施行スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記又ハ之ニ相當スル官署ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百三十一條 兵營其ノ他軍用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對スル送達ハ廳舎若ハ艦船ノ長又ハ又ニ代ルヘキ者ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第一條又ハ海軍軍法會議法第一條ニ記載シタル者ニシテ前項ニ記載シタル以外ノ場所ニ在ル者ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長若ハ監督者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル送達ハ書類ヲ本人ニ交付シタル旨ノ證書ヲ以テ之ヲ證ス

第二百三十二條 第一條及海軍軍法會議法第一條ニ記載シタル以外ノ者被告ノ代理人、辯護人又ハ輔佐人ト爲リタルトキハ書類ノ送達ヲ受クル爲書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ軍法會議ニ届出ツヘシ軍法會議所在地ニ住居及事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ旨及送達受取人ノ住居又ハ事務所ヲ其ノ者ト共ニ書面ヲ以テ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ在監者ニ付之ヲ適用セス

送達受取人ハ送達ヲ受クヘキ本人ト看做シ送達受取人ノ住居又ハ事務所ハ本人ノ住居又ハ事務所ト看做ス

第二百三十三條 前條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スヘキ者其ノ届出ヲ爲サ

サルトキハ交付スヘキ書類ヲ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得
前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
第二百三十四條 檢察官ニ對スル送達ハ書類ヲ其ノ所屬官廳ニ送付シテ之ヲ爲ス

第二百三十五條 被告人ノ現在地知レサルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得
被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル爲他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第二百三十六條 公示送達ハ軍法會議ノ指揮アリタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
公示送達ハ交付スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ軍法會議ノ揭示場ニ公示シテ之ヲ爲ス

公示ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ召喚狀ヲ軍法會議ノ揭示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲ス
前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ掲載シタル時ヨリ三十日其ノ他ノ公示送達ハ揭示場ニ公示シタル時ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第二百三十七條 送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス

第六節 期間

第二百三十八條 期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ日、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但シ時効期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス
月及年ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

期間ノ末日日曜日、一月一日二日四日、十二月二十九日三十日三十一日、一般ノ休日トシテ指定セラレタル大祭日若ハ祝日又ハ陸軍一般ノ休日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時効期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第二百三十九條 法定ノ期間ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居地ト軍法會議所在地トノ距離ニ從ヒ海陸路二十里毎ニ一日ヲ加フ二十里ニ滿タサルモ五里以上ナルトキ亦同シ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス
外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

第七節 被告人ノ召喚、勾引及勾留

第四百十條 軍法會議公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ

第四百十一條 被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ
被告人期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出廷シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

兵營其ノ他軍所用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル被告人ノ召喚ハ廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ軍法會議ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ヲ召喚スル場合ニ之ヲ準用ス

第四百十二條 召喚ヲ受ケタル被告人期日ニ出頭セサルトキハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第四百十三條 左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

- 一 軍紀ヲ保持スル爲必要アルトキ
- 二 被告人逃走シタルトキ又ハ逃走スル虞アルトキ
- 三 被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ
- 四 被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

第四百十四條 被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第四百十五條 勾引シタル被告人ハ軍法會議ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間内ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

第四百十六條 第四百十三條ニ記載シタル事由アルトキハ被告人ヲ勾留スルコトヲ得但シ被告人監獄ニ在ルトキハ其ノ事由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得

前項ノ規定ハ五百圓ヲ超過セサル罰金、拘留又ハ科料ニ該ルヘキ事件ニ付テハ第四百十三條第四號ノ場合ヲ除クノ外之ヲ適用セス

被告人ノ勾留ハ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百十三條第一號ノ場合及被告人逃走シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百十七條 被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第四百十八條 裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第四百十條乃至前條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ又ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百十九條 裁判長ハ被告人現在地ノ豫審官、檢察官、陸軍司法警察官、豫審判事、區裁判所判事、檢事、司法警察官又ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ更ニ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ陸軍司法警察官及司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ陸軍司法警察官及司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

第四百二十條 移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ
囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ其ノ管轄區域内ノ檢事又ハ相當官署ヲシテ勾引狀ヲ發シ搜查及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第四百二十一條 前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル軍法會議ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テハ第四百十五條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第四百二十二條 召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件並被告人ノ氏名及住所ヲ記載シ裁判長又ハ受命裁判官之ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住所分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ

召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時及場所並召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

第四百十八條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四百二十三條 前條第一項及第二項ノ規定ハ第四百十九條第四項ノ規定ニ

依リ豫審官、檢察官又ハ陸軍司法警察官ノ發スル勾引狀ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及其ノ囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第一百五十四條 召喚狀ハ之ヲ送達ス

第一百五十五條 勾引狀又ハ勾留狀ハ檢察官ノ指揮ニ依リ陸軍司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命裁判官又ハ豫審官其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ監獄官吏之ヲ執行ス

勾引狀又ハ勾留狀ハ必要アルトキハ司法警察官吏ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

特設軍法會議ニ於テハ陸軍下士卒ヲシテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十六條 勾引狀ハ數通ヲ作り之ヲ陸軍司法警察官吏、陸軍下士卒又ハ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得

第五十七條 陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄地外ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ陸軍司法警察官吏若ハ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第五十八條 勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル軍法會議ニ引致スヘシ

第五十九條 第四項及第五十條第二項ノ場合ニ於テハ勾引狀ヲ發シタル官署ニ引致スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

第五十九條 兵營其ノ他軍專用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍事用ノ廳舎及艦船ノ外ニ在リテ現ニ陸海軍ノ勤務ニ從事スル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

第六十條 軍法會議ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ肯セサ

ルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得

第六十一條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

第六十二條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第六十三條 勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ之ヲ檢察官又ハ執行ヲ指揮シタル官署ニ差出スヘシ

勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢察官其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

第六十四條 檢察官ハ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得

第六十五條 勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍内ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ

第六十六條 軍法會議ハ罪證ヲ湮滅シ、逃走シ又ハ軍事上ノ機密ヲ漏泄スル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類若ハ物ヲ査閲シ又ハ其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

軍法會議書類又ハ物ノ査閲ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢察官之ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 勾留ノ原由消滅シタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

第六十八條 勾留セラレタル被告人第一條第一項第一號、第四號及海軍軍法會議法第一條第一項第一號、第四號ニ記載シタル以外ノ者ナルトキハ被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第六十九條 保釋ノ請求アリタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

第七十條 保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ差出シタル後之ヲ執行スヘシ

檢察官ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ差出サシムルコトヲ得
檢察官ハ有價證券又ハ軍法會議ノ所在地ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分
ナル資産ヲ有スル者ノ保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得
前項ノ保證書ニハ保證金額及何時ニテモ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘ
シ

第七十一條 軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル
被告人ヲ責付スルコトヲ得

責付ハ被告人營内居住者ナルトキハ其ノ所屬部隊ノ長ニ之ヲ爲シ營内居
住者ニ非サルトキハ親族其ノ他ノ者ニ之ヲ爲スヘシ

營内居住者ニ非サル者ヲ責付スルニハ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ召
喚ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ハ書面ヲ差出サシムヘシ

第七十二條 被告人營内居住者ニ非サルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見
ヲ聽キ決定ヲ以テ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第七十三條 軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ決定ヲ以テ保
釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

保釋中被告人召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス、住居ノ制限ニ違
反シ又ハ逃走シタル爲保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ軍法會議ハ檢察官ノ意
見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ
受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃走シタルトキハ軍法會議ハ檢察
官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

第七十四條 勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ
檢察官ハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ

第七十五條 上告提起期間内又ハ上告中ノ事件ニ付勾留ヲ取消シ保釋、
責付若ハ勾留ノ執行停止ヲ爲シ又ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ原軍法
會議其ノ決定ヲ爲スヘシ

第七十六條 豫審官ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ軍法會議又ハ裁
判長ト同一ノ權ヲ有ス

第七十七條 左ノ場合ニ於テ被告事件急速ノ處分ヲ要シ軍法會議又ハ豫

審官ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢察官又ハ陸軍司法警察官ハ
勾引狀ヲ發スルコトヲ得

一 軍紀ヲ保持スル爲必要アルトキ

二 現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在ラサルトキ

三 現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ

四 死體ノ檢證ニ因リ其ノ事件ノ被告人ヲ發見シタルトキ

五 既決ノ囚人又ハ法令ニ依リ拘禁セラレタル被告人逃走シタルトキ

六 被告人強盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ

七 被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

前項ノ規定ニ依リ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ル場合ニ於テハ檢察官ハ之ヲ
他ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ニ囑託シ陸軍司法警察官ハ
之ヲ他ノ陸軍司法警察官又ハ司法警察官ニ命令シ又ハ囑託スルコトヲ得

第七十八條 檢察官、陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行
フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ被告人其ノ場所ニ在リテ
其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第四百十三條各號ニ記載シタル
事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一 檢察官、陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ハ直ニ被告人ヲ逮捕シ又ハ
其ノ逮捕ヲ陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ニ命スヘシ

二 陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ被告人ヲ逮
捕スヘシ

第七十九條 現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕ス
ルコトヲ得

被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ檢察官、陸軍司法警察官吏又ハ司法
警察官吏ニ引渡スヘシ

第八十條 陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受
取リタルトキハ速ニ之ヲ檢察官、陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ニ引致
スヘシ

陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏被告人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者
ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共
ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

第八十一條 司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ

訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ書類及證據物ト共ニ被告人ヲ檢察官又ハ陸軍司法警察官ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第八十二條 陸軍司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ遅クトモ三日内ニ書類及證據物ト共ニ被告人ヲ管轄軍法會議ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第八十三條 檢察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ遅クトモ二十四時間内ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ被告事件急速ヲ要シ軍法會議又ハ豫審官ノ勾留狀ヲ求ムル能ハサル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ勾留狀ヲ發スヘシ但シ五百圓ヲ超過セサル罰金、拘留又ハ科料ニ該ルヘキ事件ニ付テハ第七十七條第一項第七號ノ場合ヲ除クノ外勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス

檢察官勾留狀ヲ發シタルトキハ速ニ長官ニ搜查ノ報告ヲ爲シ又ハ書類及證據物ト共ニ被告人ヲ管轄軍法會議ノ檢察官若ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

檢察官他ノ檢察官ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ前二項ノ規定ニ準シ處分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

第八十四條 現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器賊物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ、犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在リタルモノト看做ス

第八十五條 第七十七條以下ノ場合ニ於ケル勾引又ハ勾留ニ付テハ第一百五十一條乃至第一百五十三條及第一百五十五條乃至第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第八節 被告人訊問

第八十六條 被告人ニ對シテハ先ヅ其ノ人違ナキコトヲ確ムルニ足ルヘキ事項ヲ訊問スヘシ

第八十七條 被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問ヒ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第八十八條 被告人ニ對シテ訊問ヲ爲ストキハ録事ヲシテ立會ハシムヘシ但シ檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十九條 事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

第九十條 被告人諷ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得

第九節 押收及搜索

第九十一條 軍法會議ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證據物又ハ沒收スヘキ物ト思料スルモノハ之ヲ差押フヘシ

軍法會議ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第九十二條 軍法會議ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ電報及其ノ賴信紙ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ニ記載シタル以外ノ郵便物又ハ電報及其ノ賴信紙ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノハ被告事件ニ關係アリト思料スルニ足ルヘキ狀況アルモノニ限り之ヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ發信人又ハ受信人ニ通知スヘシ但シ通知ニ因リテ審理ヲ妨クル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十三條 軍法會議ハ被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ヲ領置スルコトヲ得

第九十四條 軍法會議ハ必要アルトキハ被告人ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アル場合ニ限り搜索ヲ爲スコトヲ得

第九十五條 押收又ハ搜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

第九十六條 軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十七條 公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立ツルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リシ者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前項ノ申立ヲ爲ストキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十八條 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲所持スル物ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付押收ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十九條 軍法會議ハ押收スヘキ物又ハ搜索スヘキ場所、身體若ハ物ヲ指定シタル命令狀ヲ發シ陸軍司法警察官又ハ司法警察官ヲシテ押收又ハ搜索ヲ爲サシムルコトヲ得

命令狀ニハ押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第二百條 陸軍司法警察官又ハ司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ其ノ被告事件ニ關スル他ノ證據物ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スルコトヲ得

第二百一條 陸軍司法警察官又ハ司法警察官前二條ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲シタルトキハ檢察官ヲ經テ之ニ關スル書類及押收物ヲ軍法會議ニ差出スヘシ

第二百二條 軍法會議押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假ニ之ヲ押收シテ檢察官ニ送付スルコトヲ得

檢察官前項ノ規定ニ依リ押收シタル物ヲ留置スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ還付スヘシ

第二百三條 押收又ハ搜索ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ處分ヲ爲スヘキ地ノ豫審官、豫審判事、區裁判所判事又ハ法令ニ依リ特別ニ裁判

權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得
受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命裁判官又ハ受託豫審官ハ押收又ハ搜索ヲ爲スニ付軍法會議ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第百九十二條第三項ノ通知ハ軍法會議之ヲ爲スヘシ

第二百四條 日出前、日沒後ニハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ猶豫スヘカラサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前押收又ハ搜索ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第二百五條 左ノ場所ニ付テハ前條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

一 賭博、當籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場所

二 旅店、飲食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコトヲ得ヘキ場所但シ公開シタル時間内ニ限ル

第二百六條 官署、公署又ハ兵營其ノ他軍用ノ廳舍若ハ艦船ノ内ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ内ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ヲシテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ此等ノ者ヲシテ立會ハシムルコト能ハサルトキハ隣人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百七條 檢察官、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ搜索ノ處分ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限ニ在ラス

押收又ハ搜索ノ處分ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ其ノ處分ニ立會ハシムルコトヲ得

第二百八條 押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ

其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第二百九條 押収又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十條 押収又ハ搜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得シテ其ノ場所ニ出入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

前條ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分ヲ終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得

第二百十一條 押収又ハ搜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

第二百十二條 押収ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者、所持者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ之ニ交付スヘシ

第二百十三條 押収物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

運搬又ハ保管ニ不便ナル押収物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

危害ヲ生スル虞アル押収物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第二百十四條 沒收スルコトヲ得ヘキ押収物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第二百十五條 押収物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タス檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

押収物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第二百十六條 押収シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明瞭ナルトキニ限り被告事件ノ終結ヲ待タス檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第二百十七條 押収又ハ搜索ヲ爲ストキハ録事ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百十八條 豫審官ハ押収及搜索ニ關シ軍法會議ト同一ノ權ヲ有ス

第二百十九條 檢察官ハ第一百七十七條、第一百七十八條又ハ第一百八十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限り押収若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢察官、陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

陸軍司法警察官ハ第一百七十七條、第一百七十八條又ハ第一百八十二條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限り押収若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ第一百七十八條又ハ第一百八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限り押収若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

陸軍司法警察官又ハ司法警察官押収ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押収物ヲ檢察官ニ送付スヘシ但シ第二百十三條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ通知スヘシ

第二百二十條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り押収又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得

第二百二十一條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ被告人ヲ逮捕スルニ付急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り之ヲ搜索スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百六條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

檢察官、陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏現行犯ノ被告人ヲ逮捕スル爲追行シタル場合ニ於テ被告人、人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ逃入リタルトキ亦前項ニ同シ

第二百二十二條 勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ入り搜索ヲ爲スコトヲ得但シ第一百七十七條第一項第一號又ハ第三號乃至第六號ノ規定ニ

依リ發シタル勾引狀ヲ執行スル場合ニ於テハ前條ノ例ニ依ル

第二百二十三條 檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ノ爲ス押收及搜索ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第九十一條乃至第九十八條、第二百二條、第二百四條乃至第二百六條及第二百十條乃至第二百十六條ノ規定ヲ準用ス

陸軍司法警察吏、下士卒又ハ司法警察吏ノ爲ス搜索ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第九十五條、第九十六條、第二百四條乃至第二百六條及第二百十條ノ規定ヲ準用ス

第十節 檢證

第二百二十四條 軍法會議ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ
第二百二十五條 檢證ニ付テハ身體ノ検査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體ノ検査ハ一定ノ證據ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十六條 日出前、日没後ニハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ猶豫スヘカラサル場合又ハ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日没前檢證ニ著手シタルトキハ日没後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得
第二百五條ニ記載シタル場所ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第二百二十七條 檢證ニ付テハ第九十六條、第二百三條、第二百六條乃至第二百一十一條及第二百十七條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十八條 豫審官ハ檢證ニ關シ軍法會議ト同一ノ權ヲ有ス

第二百二十九條 檢察官ハ第九十七條、第九十八條又ハ第九十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢察官、陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

陸軍司法警察官ハ第七十七條、第七十八條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコト

ヲ得

司法警察官ハ第七十八條又ハ第八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百三十條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ

現行犯アル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り檢證ヲ爲スコトヲ得

第二百三十一條 變死人又ハ變死人ト思料スヘキ者第一條ニ記載シタル者

ナルトキハ部隊内ニ於テハ陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ部隊ノ長、其ノ他ノ場所ニ於テハ檢察官又ハ陸軍司法警察官檢視ヲ爲スヘシ

變死人又ハ變死人ト思料スヘキ者第一條ニ記載シタル以外ノ者ナルトキト雖部隊内ニ於テ死體ヲ發見シタル場合ニ於テハ陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ部隊ノ長檢視ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ部隊ノ長ハ檢察官又ハ陸軍司法警察官ニ檢視ヲ囑託スルコトヲ得

檢視ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

第一項乃至第三項ノ規定ハ他ノ法令ニ依ル檢視ヲ妨ケス

第二百三十二條 檢察官又ハ陸軍司法警察官ハ前條ノ處分ヲ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

第二百三十三條 檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ノ爲ス檢證ニ付テハ第九十六條、第二百六條、第二百十條、第二百一十一條、第二百二十五條及第二百二十六條ノ規定ヲ準用ス

第十一節 證人訊問

第二百三十四條 軍法會議ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百三十五條 公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得タル事實ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立ツルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密院顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リシ者前項ノ申立ヲ爲ストキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

第二百三十六條 左ニ記載シタル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一 被告人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者

二 被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人

三 被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者

共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ノミニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

第二百三十七條 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百三十八條 證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第二百三十六條第一項ニ規定スル關係アル者刑事上ノ訴追ヲ受クル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ起訴セラレ未タ確定判決ヲ經サルトキ亦前項ニ同シ

第二百三十九條 證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ説明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ説明ニ代フルコトヲ得證言ヲ拒ム者之ヲ拒ム事由ヲ説明スルコト能ハサルトキ又ハ宣誓ヲ爲サルトキハ決定ヲ以テ其ノ申立ヲ却下スヘシ

第二百四十條 第四百四十一條及第五百十四條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ之ヲ準用ス

第二百四十一條 召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且ニ不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得

第二百四十二條 前條ノ言渡ヲ受ケタル者裁判書ノ送達アリタル日ヨリ三日内ニ正當ノ事由アリテ出頭スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキ

ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ言渡ヲ取消スヘシ
天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲期間内ニ前項ノ證言ヲ爲スコト能ハサリシ者事故ノ止ミタル日ヨリ三日内ニ其ノ證明ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第二百四十三條 召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ召喚狀ヲ發シ又ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第二百四十四條 證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ證人ノ氏名及住居、被告人ノ氏名並被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所並召喚ニ應セサルトキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

召喚狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

證人第一條ニ記載シタル者ナルトキハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
第二百四十五條 證人ノ勾引ニ付テハ第五百十五條乃至第五百十九條及第百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百四十六條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第二百三十六條第一項ニ記載シタル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第二百三十六條第一項ニ記載シタル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告知ヘシ

第二百四十七條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十八條 宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十九條 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ
宣誓書ニハ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

訊問後宣誓ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第二百五十條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽證ノ罰ヲ告クヘシ
第二百五十一條 同一ノ被告事件ニ付數名ノ證人出頭シタル場合ニ於テハ

其ノ宣誓ハ同時ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十二條 左ニ記載シタル者ニハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

一 十五歳未満ノ者

二 宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者

三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者

四 第二百三十六條第一項ニ記載シタル者ニシテ證言ヲ拒マサル者

五 第二百三十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者

六 被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虚偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス

第一項ニ記載シタル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百五十三條 證人ノ供述カ其ノ證人若ハ之ト第二百三十六條第一項ニ規定スル關係アル者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財産上ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スルコトヲ得

第二百五十四條 證人ノ訊問ハ後ニ訊問スヘキ證人ノ在ラサル場所ニ於テ各別ニ之ヲ爲スヘシ

第二百五十五條 事實發見ノ爲必要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

第二百五十六條 證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲サシムヘシ必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第二百五十七條 證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得

前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百五十八條 第百八十八條及第百九十條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

第二百五十九條 證人軍法會議構内ニ在ルトキハ召喚ヲ爲サスシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百六十條 證人ハ必要アル場合ニ於テハ軍法會議外ノ指定ノ場所ニ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百六十一條 親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ現在地ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

帝國議會ノ議員議會ノ開期中開會地ニ滞在スルトキハ其ノ滞在地ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

第二百六十二條 證人正當ノ理由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以下ノ過料ニ處スヘシ第二百三十九條第一項但書ノ場合ニ於テ虚偽ノ宣誓ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二百六十三條 軍法會議ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第二百六十四條 軍法會議外ニ於テ證人ノ訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人現在地ノ豫審官、豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命裁判官又ハ受託豫審官ハ證人訊問ニ付軍法會議又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第二百四十一條及第二百六十二條ノ決定ハ軍法會議亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百六十五條 豫審官ハ證人訊問ニ關シ軍法會議又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第二百六十六條 檢察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限り第二百三十四條乃至第二百六十四條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢察官、陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

陸軍司法警察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十二條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限り第二百三十

四條乃至第二百六十四條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得
司法警察官ハ第一百七十八條又ハ第八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ第二百三十四條乃至第二百六十四條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百六十七條 檢察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得

陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二百六十八條 檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ證人ニ對シ過料又ハ賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第二百六十九條 證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二節 鑑定

第二百七十條 軍法會議ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第二百七十一條 鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ誠實ニ鑑定ヲナスコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

第二百七十二條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ

鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

書面ヲ以テ報告ヲ爲サシメタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十三條 軍法會議ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ軍法會議外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得
被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ軍法會議ハ期間ヲ定メ病院其ノ他相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得

第二百七十四條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ軍法會議ノ許可ヲ得テ身體ヲ検査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得

第二百七十五條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ軍法會議ノ許可

ヲ得テ書類若ハ證據物ヲ閱覽シ若ハ謄寫シ又ハ被告人若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得

鑑定人ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ許可ヲ得テ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得

第二百七十六條 軍法會議ハ受命裁判官ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百七十三條第三項ノ規定ニ依ル處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二百七十七條 軍法會議ハ鑑定ヲ十分ナラスト思料スルトキハ鑑定人ヲ増加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十八條 檢察官及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得

第二百七十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百七十九條 鑑定ニ付テハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外第十一節ノ規定ヲ準用ス

檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ第二百七十三條第三項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二百八十條 鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第二百八十一條 軍法會議ハ官署公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得

前九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第二百七十二條第三項ノ規定ニ依ル説明ハ官署公署ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第二百八十二條 特別ノ智識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本節ノ規定ニ依ラス第十一節ノ規定ヲ適用ス

第十三節 通譯

第二百八十三條 國語ニ通セサル者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

第二百八十四條 聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十五條 國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

第二百八十六條 軍法會議ハ官署公署ニ翻譯ヲ囑託スルコトヲ得

第二百八十七條 通譯及翻譯ニ付テハ第十二節ノ規定ヲ準用ス

第二章 始審

第一節 搜查

第二百八十八條 犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ家督相續人又ハ親族告訴ヲ爲スコトヲ得但

シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第八十三條ノ罪ニ之ヲ適用セス

第二百八十九條 前條第二項ノ場合ニ於テ被害者ノ法定代理人被告人ナル

トキ、被告人ノ配偶者ナルトキ又ハ被告人ノ四親等内ノ血族若ハ三親等

内ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百九十條 刑法第二百三十條第二項ノ罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又

ハ後裔告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百九十一條 前三條ノ規定ニ依リテ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場

合ニ於テハ管轄軍法會議ノ檢察官ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲ス

コトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得但シ刑法第八十三條ノ罪ニ付テハ

此ノ限ニ在ラス

第二百九十二條 親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知リタル時ヨリ六月内ニ之ヲ爲ス

ニ非サレハ其ノ效ナシ

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁

判確定シタル時ヨリ六月内ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效ナシ

第二百九十三條 告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期

間ノ懈怠ハ他ノ者ニ其ノ效ヲ及ボサス

第二百九十四條 告訴ハ始審ノ判決ノ告知アル迄之ヲ取消スコトヲ得

告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求ニ之ヲ準用ス

第二百九十五條 親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又

ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效ヲ生ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求又ハ其ノ取消ニ

之ヲ準用ス

刑法第八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シ告訴又ハ其ノ取消アリタ

ルトキハ他ノ一人ニ對シ亦其ノ效ヲ生ス

第二百九十六條 何人ニ限ラス犯罪アリト思料シタルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得

官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料シタルトキハ告發ヲ爲スヘシ

第二百九十七條 告訴又ハ告發ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九十八條 告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢察官、陸軍司法警

察官、檢察若ハ司法警察官又ハ之ニ相當スル官署ニ之ヲ爲スヘシ

第二百九十九條 檢察官、陸軍司法警察官、檢察若ハ司法警察官又ハ相當官

署口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第三百條 第三項乃至第五項及第百十一條ノ規定ハ檢察官又ハ陸軍司法警

察官ノ作ルヘキ前項ノ調書ニ之ヲ準用ス

第三百一條 檢察若ハ司法警察官又ハ相當官署告訴又ハ告發ヲ受ケタルト

キハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官又ハ陸軍司法警察官ニ送付ス

ヘシ

第三百二條 告訴又ハ告發ノ取消又ハ變更ニ付テハ前四條ノ規定ヲ準用

ス

第三百三條 自首ニ付テハ告發ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百四條 檢察官又ハ陸軍司法警察官搜查ヲ爲スニ付テハ其ノ目的ヲ達

スルニ必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ強制ノ處分ハ別段ノ規定アル場

合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百五條 搜查ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百六條 檢察官搜查ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキハ豫審請

求前又ハ公訴提起前ト雖長官ノ認可ヲ受ケ押收、搜索、檢證、被告人ノ

勾留、被告人若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ豫審官ニ請求スルコトヲ

得

請求ヲ受ケタル豫審官ノ處分ニ付テハ豫審ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百七條 豫審官前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證

據物ヲ檢察官ニ送付スヘシ

第三百八條 陸軍司法警察官搜查ヲ爲シタルトキハ長官ニ搜查ノ報告ヲ爲

シ又ハ檢察官若ハ相當官署ニ事件ヲ送致スヘシ

搜查ノ報告ヲ爲スニハ書類及證據物ト共ニ報告書ヲ檢察官ニ送付スヘシ

檢察官前項ノ規定ニ依リ報告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ書類及證據物ト共ニ之ヲ長官ニ提出スヘシ

第三百七條 檢察官搜查ヲ爲シタルトキハ書類及證據物ニ意見書ヲ添ヘ長官ニ搜查ノ報告ヲ爲シ又ハ管轄軍法會議ノ檢察官若ハ相當官署ニ事件ヲ送致スヘシ

第三百八條 長官搜查ノ報告ヲ受ケタル場合ニ於テハ檢察官ニ對シ左ノ命令ヲ爲スヘシ

一 公訴ヲ提起スヘキモノト思料スルトキハ公訴提起ノ命令

二 豫審ニ付スルノ必要アリト思料スルトキハ豫審請求ノ命令

第三百九條 長官ハ前條ノ命令ヲ爲ササル場合ニ於テ被告事件其ノ軍法會議ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ又ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬セサルモノナルトキハ檢察官ニ對シ其ノ事件ヲ管轄軍法會議ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スヘキ旨ノ命令ヲ爲スヘシ

檢察官被告事件ノ送致ヲ爲ス場合ニ於テ勾留セラレタル被告人ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

第三百十條 長官前二條ノ命令ヲ爲ササルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ告知スヘシ

第三百十一條 檢察官前條ノ規定ニ依ル告知ヲ受ケタルトキハ勾留シタル被告人ハ速ニ之ヲ釋放シ押收シタル物ハ速ニ之ヲ還付スヘシ但シ必要ナル場合ニ於テハ公訴ノ時效完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

第二節 豫審

第三百十二條 豫審ノ請求ハ檢察官ノ屬スル軍法會議ノ豫審官ニ之ヲ爲スヘシ

第三百十三條 同一事件ニ付數個ノ軍法會議ノ豫審官ニ豫審ノ請求アリタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ其ノ豫審官中ヨリ豫審ヲ爲スヘキ者ヲ指定スヘシ

前項ノ決定アリタルトキハ豫審官ハ書類及證據物ヲ指定セラレタル豫審官ニ送付スヘシ

第三百十四條 豫審ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ豫定ノ符號ヲ用キタル電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルト

キハ之ヲ調書ニ記載シ豫審官録事ト共ニ署名捺印スヘシ

第三百十五條 豫審ノ請求ヲ爲スニハ犯罪ノ事實ヲ示スヘシ

被告人ノ分明ナルトキハ之ヲ指定スヘシ
被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

豫審請求ノ後被告人分明ト爲リタルトキハ速ニ之ヲ指定シ豫審官ニ通知スヘシ

第三百十六條 豫審官ハ豫審中檢察官ノ指定セサル被告人ヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢察官ノ指定ヲ待タス之ヲ被告人ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ通知スヘシ

第三百十七條 豫審官ハ豫審中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ認知シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢察官ノ請求ヲ待タス豫審處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ通知スヘシ

檢察官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ速ニ長官ニ報告スヘシ

第三百十八條 長官前條ノ報告ヲ受ケ豫審ノ必要アリト思料スルトキハ豫審ノ請求ヲ命スヘシ

豫審官檢察官ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條ノ通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ナキトキハ其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得若シ被告人ヲ勾留シタルトキハ之ヲ釋放シ押收シタル物アルトキハ之ヲ還付スヘシ

第三百十九條 公訴ヲ受ケタル被告人ニ對シテハ同一事件ニ付豫審ヲ爲スコトヲ得ス

第三百二十條 豫審官ハ豫審請求ノ手續其ノ規定ニ違ヒタル爲無効ナルトキ又ハ第三百三十二條、第三百三十七條若ハ第四百條ノ規定ニ違反シテ豫審ヲ請求シタルトキハ豫審ノ請求ヲ却下スヘシ

第三百二十一條 豫審ハ事件カ公訴ヲ提起スヘキモノナリヤ否ヲ決スルニ必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ限度トス

公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦其ノ取調ヲ爲スヘシ

第三百二十二條 豫審官ハ公務所ニ照會シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百二十三條 豫審官ハ被告人ヲ訊問スヘシ

豫審官ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十四條 豫審官ハ豫審終了前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル原由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十五條 豫審官ハ豫審處分ノ一部ニ付其ノ軍法會議ノ豫審官ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第三百二十六條 檢察官及被告人ハ豫審中何時ニテモ必要ナル豫審處分ヲ豫審官ニ請求スルコトヲ得

檢察官ハ豫審中何時ニテモ書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得

第三百二十七條 豫審官ハ左ニ記載シタル場合ニ於テハ檢察官ノ意見ヲ聽キ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

一 被告人分明ナラサルトキ

二 被告人ノ所在分明ナラサルトキ

三 被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

第三百二十八條 豫審中ノ事件ニ付高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノトシテ高等軍法會議ノ檢察官ヨリ豫審ノ請求アリタルトキハ豫審官ハ豫審手續ヲ止ムヘシ

第三百二十九條 豫審官被告事件ニ付取調ヲ終了シタリト思料シタルトキハ書類及證據物ヲ檢察官ニ送付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ檢察官事項ヲ指示シテ取調ヲ請求シタルトキハ豫審官ハ更ニ其ノ取調ヲ爲シ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官ニ送付スヘシ

第三百三十條 檢察官前條ノ規定ニ依リ書類及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ意見書ヲ添ヘ長官ニ豫審終了ノ報告ヲ爲スヘシ

第三百三十一條 長官前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ檢察官ニ對シ左ノ命令ヲ爲スヘシ

一 公訴ヲ提起スヘキモノト思料スルトキハ公訴提起ノ命令

二 不起訴ノ處分ヲ爲スヘキモノト思料スルトキハ不起訴處分ノ命令

三 被告事件其ノ軍法會議ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキ又ハ軍法會議

ノ裁判權ニ屬セサルモノナルトキハ事件送致ノ命令

檢察官前項第一號又ハ第二號ノ命令ニ依リ公訴提起又ハ不起訴處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ豫審官及被告人ニ通知スヘシ

第三百三十二條 被告人ニ對シ不起訴處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ非サレハ同一事件ニ付之ヲ豫審ノ被告人ト爲シ又ハ之ニ對シ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第三百三十三條 檢察官不起訴處分ヲ爲シタルトキハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ

第三百三十四條 檢察官不起訴處分ヲ爲シタルトキハ直ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時效完成スルニ至ル迄之ヲ還付セサルコトヲ得

押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明瞭ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第三百三十五條 檢察官事件送致ノ命令ヲ受ケタルトキハ事件ヲ管轄軍法會議ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ勾留セラレタル被告人ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

第三百三十六條 檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ豫審ノ請求ヲ取消スコトヲ得豫審ノ請求ヲ取消シタル場合ニ於テ被告人トシテ訊問ヲ受ケタル者アルトキハ其ノ旨ヲ之ニ通知スヘシ

豫審請求取消前ニ爲シタル處分ハ其ノ效力ヲ有ス

豫審請求ノ取消ニ付テハ第三百十四條ノ規定ヲ準用ス

第三百三十七條 第三百二十二條乃至第三百三十四條ノ規定ハ豫審ノ請求ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條 第三百七十九條及第三百八十一條ノ規定ハ豫審ニ之ヲ準用ス但シ同條中裁判長又ハ軍法會議トアルハ豫審官トス

第三節 公訴

第三百三十九條 公訴ハ檢察官ノ指定シタル以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ボサス

第三百四十條 檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ公訴ヲ取消スコトヲ得

公訴ノ取消ハ書面ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三百四十一條 時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三 長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四 長期十年未満ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年

五 長期五年未満ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

六 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ六月

七 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三百四十二條 二以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科ス

ヘキ罪ノ時効ハ其ノ重キ刑ニ該ル罪ニ付定メタル期間ニ從フ

第三百四十三條 刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ時効ハ

加重又ハ減輕セサル刑ニ該ル罪ニ付定メタル期間ニ從フ

第三百四十四條 時効ハ犯罪行為ノ終リタル時ヨリ進行ス

數人共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行為アリタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ

時効ノ期間ヲ起算ス

第三百四十五條 時効ハ公訴ノ提起、豫審ノ請求、公判若ハ豫審ノ處分又ハ

第三百四十六條ニ定メタル豫審官ノ處分ニ因リ中斷ス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時効ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シテ

力ヲ有ス

第三百四十六條 時効ハ中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ進行ス

第三百四十七條 時効ハ第三百二十七條第三號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ中

止シ又ハ第三百九十六條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間内ハ進

行セス

第三百四十八條 公訴提起ノ命令ハ書面ニ依リ之ヲ爲ス

公訴提起ノ命令ヲ爲スニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實ヲ示スヘシ

第三百四十九條 公訴ノ提起ハ公訴狀ニ依リ之ヲ爲ス

第三百五十條 公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪ノ事實及罪名ヲ示

スヘシ

第三百五十一條 告訴ニ係ル事件ニ付公訴ヲ提起シ若ハ之ヲ提起セス又ハ

其ノ事件ヲ他ノ軍法會議ノ檢察官若ハ相當官署ニ送致シタルトキハ檢察

官ハ速ニ其ノ旨ヲ告訴人ニ通知スヘシ

第四節 公判

第三百五十二條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

第三百四十一條及第百五十四條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ之ヲ準用

ス

期日ハ之ヲ檢察官ニ通知スヘシ

第三百五十三條 第一回ノ期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ

少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ但シ特設軍法會議ニ於テハ此ノ限ニ

在ラス

被告人ニ異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セサルコトヲ得

第三百五十四條 裁判長ハ期日ヲ變更スルコトヲ得

期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

第三百五十五條 軍法會議ハ第一回ノ期日ニ於ケル取調準備ノ爲期日前被

告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百五十六條 軍法會議ハ第一回ノ期日ニ於ケル取調ノ爲期日前證據物

若ハ證據書類ノ提出ヲ命シ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ期日

ニ出頭スヘキ旨ノ召喚狀ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ召喚スル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之

ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ

檢察官、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ處分ヲ軍法會議ニ請求スルコトヲ

得

前項ノ請求ヲ却下スルコトキハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前四項ノ規定ハ第二回以後ノ期日ニ於ケル取調ニ關シ之ヲ準用ス

第三百五十七條 檢察官、被告人又ハ辯護人ハ期日前證據物又ハ證據書類

ヲ軍法會議ニ提出スルコトヲ得

第三百五十八條 軍法會議ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ期日ニ出頭スル

コト能ハスト思料スルコトキハ期日前之ヲ訊問シ又ハ受命裁判官ヲシテ訊

問セシムルコトヲ得

檢察官及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得

第二百八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百五十九條 軍法會議ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

第三百六十條 軍法會議ハ期日前公務所ニ照會シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百六十一條 期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲ス

公判廷ハ裁判官、檢察官及錄事列席シテ之ヲ開ク

第三百六十二條 公判數日引續クヘキ見込アル事件ニ付テハ長官ハ判士一人又ハ二人ニ補充裁判官ヲ命シ公判ニ立會ハシムルコトヲ得

補充裁判官ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

裁判長以外ノ判士疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ干與スルコトヲ得サル場合ニ於テハ裁判長ハ第四十九條又ハ第五十一條乃至第五十五條ニ規定スル區別ニ拘ラス補充裁判官ヲシテ之ニ代ラシムヘシ

第三百六十三條 被告人期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス

第三百六十四條 罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得但シ軍法會議ハ本人ノ出廷ヲ命スルコトヲ得

第三百六十五條 被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

第三百六十六條 被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得ス

裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル爲相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百六十七條 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ナクシテ開廷スルコトヲ得但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

辯護人出廷セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

第三百六十八條 左ノ場合ニ於テ辯護人出廷セサルトキ又ハ辯護人ノ選任

ナキトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ辯護人ヲ附スルコトヲ得

一 被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ

二 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ

三 其ノ他必要ト認メタルトキ

第三百六十九條 前二條ノ規定ニ依リ附スヘキ辯護人ハ第八十八條ニ記載シタル者ヨリ裁判長之ヲ選任スヘシ
被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百七十條 前三條ノ規定ハ特設軍法會議ニ付テハ之ヲ適用セス

第三百七十一條 辯論ハ之ヲ公開ス

第三百七十二條 安寧秩序若ハ風俗ヲ害シ又ハ軍事上ノ利益ヲ害スル虞アルトキハ辯論ノ公開ヲ停ムル決定ヲ爲スコトヲ得

第三百七十三條 辯論ノ公開ヲ停ムル決定アリタルトキハ公衆ヲ退廷セシムル前裁判長ハ其ノ決定ヲ理由ト共ニ宣告スヘシ

第三百七十四條 裁判長ハ公開ヲ停メタルトキト雖入廷セシムルヲ至當ト認ムル者ノ入廷ヲ許スコトヲ得

第三百七十五條 裁判長ハ被告人ノ部下ニ屬スル者又ハ被告人ヨリ官等、等級若ハ階級ノ下ナル第一條第一號ニ記載シタル者ノ入廷ヲ禁シ又ハ其ノ退廷ヲ命スルコトヲ得

第三百七十六條 裁判長ハ婦女、兒童又ハ相當ナル衣服ヲ著セサル者ノ入廷ヲ禁シ又ハ其ノ退廷ヲ命スルコトヲ得

第三百七十七條 前二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ處分及理由ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第三百七十八條 開廷中ノ秩序ノ維持ハ裁判長之ヲ行フ

第三百七十九條 裁判長ハ辯論ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得

裁判長ハ前項ニ記載シタル者ノ行狀ニ依リ閉廷ニ至ル迄之ヲ留置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ軍法會議ハ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

第三百八十條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用キル辯護人ニ對シ同一事件ニ付引續キ陳述スルコトヲ禁スルコトヲ得

第三百八十一條 前二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ處分及理由ヲ公判調書ニ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ懲戒處分ニ付スヘキモノト思料スルトキハ裁判長ハ公判調書ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨ヲ相當官署ニ通知スヘシ

第三百八十二條 辯論ノ指揮ハ裁判長之ヲ行フ

第三百八十三條 事實ノ認定ハ證據ニ依ル

第三百八十四條 證據ノ證明力ハ裁判官ノ自由ナル判斷ニ任ス

第三百八十五條 被告人ノ訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

裁判長以外ノ裁判官ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人又ハ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

檢察官、被告人又ハ辯護人ハ必要トスル事項ニ付被告人、證人又ハ鑑定人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

第三百八十六條 裁判長ハ共同被告人、證人其ノ他ノ者被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキハ其ノ供述中被告人ヲ退延セシムルコトヲ得供述終リタルトキハ被告人ヲ入延セシメ供述ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百八十七條 證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ録事ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

第三百八十八條 期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物又ハ證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百五十八條又ハ第三百五十九條ノ規定ニ依リ集取シタルモノ亦同シ但シ訴訟關係人異議ナキモノハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百八十九條 證據調ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三百九十條 裁判長被告人ニ對シ第三百八十六條ノ訊問ヲ爲シタル後檢察官ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

前項ノ陳述終リタルトキハ裁判長ハ被告人ノ訊問及證據調ヲ爲スヘシ

第三百九十一條 裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ差出スコトヲ得ヘキ旨ヲ告クヘシ

第三百九十二條 證據調終リタル後檢察官ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述セシムヘシ

第三百九十三條 軍法會議ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

第三百九十四條 軍法會議ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ受命裁判官ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ取調ヲ爲ス場合ニ於テハ受命裁判官ハ豫審官ト同一ノ權ヲ有ス

受命裁判官ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三百九十五條 裁判長ハ裁判官ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問 證據調又ハ辯論ノ指揮ニ關スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第三百九十六條 被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ

被告人疾病ニ因リテ出廷スルコト能ハサルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出廷スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百六十四條ノ規定ニ依リ代人ヲ出廷セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三百九十七條

開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ辯論ヲ更新スヘシ

第三百九十八條 開廷後裁判官ノ更迭アリタルトキハ辯論ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百九十九條 左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ
一 公訴ノ取消アリタルトキ

二 被告人死亡シタルトキ

三 第二百四十四條又ハ第二百五條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

第四百條 公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタルトキハ再ヒ公訴ヲ提起シ又ハ豫審ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百一條 被告事件軍法會議ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第四百二條 被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ判決ヲ以テ刑ノ言渡

ヲ爲スヘシ

刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四百三條 被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

第四百四條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 確定判決ヲ經タルトキ

二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三 刑ヲ免除スヘキトキ

四 大赦アリタルトキ

五 時效完成シタルトキ

第四百五條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 長官ノ命令ナクシテ公訴ヲ提起シタルトキ

二 公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違ヒタル爲無効ナルトキ

三 第三百三十二條、第三百三十七條又ハ第四百條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

四 告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

五 公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一軍法會議ニ公訴ヲ提起シタルトキ

六 被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

第四百六條 被告人陳述ヲ肯セス若ハ許可ヲ受ケスシテ退廷シ又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百七條 罰金以下ノ刑ニ該ルモノ又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出廷セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百八條 辯論終結ノ後ハ被告人出廷セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス

第四百九條 判決ノ宣告ハ公開シテ之ヲ爲ス但シ辯論ノ公開ヲ停メタル事件ニ付テハ決定ヲ以テ理由ノ告知ニ限リ公開セスシテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十三條ノ規定ハ前項ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百十條 無罪、免訴、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違又ハ罰金若ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其ノ事件ニ付勾留セラレタル被告人ニ對シ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ軍法會議ハ前ニ發シタル勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄軍法會議ノ檢察官ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢察官ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢察官五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第四百十一條 押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ軍法會議ハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄軍法會議ノ檢察官ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢察官ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送達ヲ受ケタル檢察官五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第四百十二條 押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明瞭ナルトキハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ

贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ヲ請求シタルトキハ前項ノ例ニ依ル

假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ナキトキハ還付ノ言渡アリタルモノトス

第四百十三條 犯罪ニ因リ生シタル損害ニ付被害者ヨリ被告人ニ對シ其ノ回復ヲ請求シタル場合ニ於テ被告事件ノ取調ニ因リ其ノ請求ヲ相當ナリト認メタルトキハ被告人異議ナキトキニ限リ其ノ請求ニ應スヘキ旨ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第四百十四條 前二條ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第四百十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地若ハ所屬部隊ノ軍法會議ノ檢察官其ノ軍法會議ニ請求ヲ爲スヘシ但シ高等軍法會議ニ於テ

刑ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付テハ高等軍法會議ノ檢察官高等軍法會議ニ請求ヲ爲スヘシ

第二十七條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲シタル事件ニ付テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ高等軍法會議ニ前項ノ請求ヲ爲スヘシ

前二項ノ請求アリタルトキハ軍法會議ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百十六條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官其ノ軍法會議ニ請求ヲ爲スヘシ

軍法會議前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百十七條 本節中審判ノ公開ニ關スル規定ハ之ヲ特設軍法會議ノ訴訟手續ニ適用セス

第三章 上告及非常上告

第四百十八條 上告ハ師團軍法會議ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十九條 上告ハ判決ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ判決ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

第四百二十條 上告ハ檢察官又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條 被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十二條 原審ノ辯護人又ハ代人ハ被告人ノ爲上告ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第四百二十三條 上告 法令違反ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十四條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一 法律ニ從ヒ軍法會議ヲ構成セサリシトキ

二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ裁判官審判ニ干與シタルトキ

三 審理ニ干與セサリシ裁判官判決ニ干與シタルトキ

四 軍法會議不當ニ管轄又ハ管轄違ヲ認メタルトキ

五 軍法會議不當ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ

六 審判ノ公開ニ關スル規定ニ違ヒタルトキ

七 法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人ノ出廷ナクシテ審判ヲ爲シタルトキ

八 公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ

九 法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付其ノ出廷ナクシテ審理ヲ爲シタルトキ

十 檢察官ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ

十一 法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ

十二 公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササリシトキ

十三 法律ニ依リ公判手續ヲ停止又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止又ハ更新セサリシトキ

十四 辯論ノ最終ニ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述ヲ爲サシメサリシトキ

十五 請求ヲ受ケタル事項ニ付判決ヲ爲サス又ハ請求ヲ受ケサル事項ニ付判決ヲ爲シタルトキ

十六 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

十七 判決書ニ裁判官ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

第四百二十五條 前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ボササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

第四百二十六條 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百二十七條 上告ノ提起期間ハ三日トス

前項ノ期間ハ判決告知ノ時ヲ以テ始ル

第四百二十八條 檢察官又ハ被告人ハ上告ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第四百二十一條ニ記載シタル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

第四百二十九條 第四百二十一條ニ記載シタル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上告ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第四百三十條 上告ハ對手人ノ同意アルニ非サレハ之ヲ取下クルコトヲ得ス

第四百三十一條 上告拋棄ノ申立ハ原軍法會議ニ之ヲ爲スヘシ

上告取下ノ申立ハ高等軍法會議ニ之ヲ爲スヘシ但シ書類ヲ高等軍法會議ノ檢察官ニ送付スル前上告ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原軍法會議ニ差出スコトヲ得

第四百三十二條 上告ノ拋棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第四百三十三條 上告ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ上告權ヲ喪失ス

第四百三十四條 第四百二十條乃至第四百二十二條ニ記載シタル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上告ノ提起期間内ニ上告ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原軍法會議ニ上告權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條 上告權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル時ヨリ三日内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上告權回復ノ原因タル事實ハ之ヲ疏明スヘシ
上告權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原軍法會議ニ上告ノ申立書ヲ差出スヘシ

第四百三十六條 原軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ上告權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ヲ決定スヘシ

第四百三十七條 上告權回復ノ請求アリタルトキハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第四百三十八條 上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原軍法會議ニ差出スヘシ

第四百三十九條 監獄ニ在ル者上告ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ其ノ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ上告ノ提起期間内ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ差出シタルトキハ上告申立ノ效力ヲ生ス

監獄ニ在ル者自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ所屬官吏ヲシテ之ヲ代書セシムヘシ

監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ原軍法會議ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ

第四百四十條 前條ノ規定ハ上告ノ拋棄若ハ取下又ハ上告權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十一條 上告ノ申立、拋棄若ハ取下又ハ上告權回復ノ請求アリタルトキハ録事ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スヘシ

第四百四十二條 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百四十三條 前條ノ場合ヲ除クノ外原軍法會議ハ書類ヲ其ノ軍法會議ノ檢察官ニ送付シ檢察官ハ之ヲ高等軍法會議ノ檢察官ニ送付スヘシ

高等軍法會議ノ檢察官ハ書類ヲ其ノ軍法會議ニ送付スヘシ

第四百四十四條 高等軍法會議ハ遅クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ三十日前ニ其ノ期日ヲ上告人及對手人ニ通知スヘシ

最初ニ公判期日ヲ定ムル前辯護人ノ選任アリタルトキハ被告人ニ對スル前項ノ通知ハ辯護人ニ對シ之ヲ爲スヘシ

第四百四十五條 上告人ハ遅クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ十四日前ニ上告趣意書ヲ高等軍法會議ニ差出スヘシ

第四百四十六條 上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十四日前迄上告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ上告ハ上告趣意書ヲ高等軍法會議ニ差出スニ依リテ之ヲ爲ス

第四百四十七條 上告趣意書ニハ法令違反ノ理由ヲ明示スヘシ

訴訟手續ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ尙違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百四十八條 高等軍法會議上告趣意書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

第四百四十九條 上告人期間内ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百五十條 上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ答辯書ヲ高等軍法會議ニ差出スコトヲ得

檢察官對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ差出スヘシ

ヘシ

第四百五十一條 裁判長ハ受命裁判官ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ閱シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

第四百五十二條 上告ノ審判ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百五十三條 期日ニハ受命裁判官ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ

檢察官及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲スヘシ

第四百五十四條 辯護人出廷セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律

ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢察官ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

第四百五十五條 高等軍法會議ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ

軍法會議ノ管轄、公訴ノ受理及原判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令

ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得原判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ

第四百五十六條 高等軍法會議ハ軍法會議ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續ノ當否ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ他ノ軍法會議ノ豫審官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第四百五十七條 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ高等軍法會議ハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百五十八條 高等軍法會議上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百五十九條 高等軍法會議上告ヲ理由アリトスルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ事件ヲ原軍法會議ニ差戻シ又ハ原軍法會議以外ノ師團軍法會議ニ移送スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百六十條 法令ヲ適用セサルコト、法令ノ適用ヲ誤リタルコト、判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテ原判

決ヲ破毀スル場合ニ於テ被告事件ノ事實原判決ニ依リ定リタルトキハ高等軍法會議ハ其ノ事件ニ付判決ヲ爲スヘシ不當ニ公訴ヲ受理シタルコト

ヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキ亦同シ

第四百六十一條 不當ニ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ其ノ事件ヲ原軍法會議ニ差戻スヘシ

第四百六十二條 不當ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ其ノ事件ヲ管轄軍法會議ニ移送スヘシ

第四百六十三條 上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ハ之ヲ判決書ニ記載スヘシ

第四百六十四條 被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ利益ノ爲上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ高等軍法會議ハ原判決ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百六十五條 師團軍法會議不當ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲サザリシトキハ高等軍法會議ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

第四百六十六條 事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル軍法會議ハ其ノ事件ニ付高等軍法會議ノ表示シタル法律上ノ意見ニ羈束セラル

第四百六十七條 上告ノ審判ニ付テハ本章ニ規定シタルモノヲ除クノ外第二編第二章第四節ノ規定ヲ準用ス

第四百六十八條 軍法會議ノ判決確定後其ノ判決法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ高等軍法會議ノ長官ハ檢察官ヲシテ高等軍法會議ニ非常上告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百六十九條 非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ高等軍法會議ニ差出スヘシ

第四百七十條 期日ニハ檢察官ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ

第四百七十一條 高等軍法會議非常上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百七十二條 高等軍法會議非常上告ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ破毀シ更ニ判決ヲ爲スヘシ但シ原判決ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四章 再審

第四百七十三條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル確定判

決ニ對シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲之ヲ爲スコトヲ得

一 原判決ノ證據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ偽造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ

二 原判決ノ證據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ偽證又ハ虛偽ノ鑑定、通譯若ハ翻譯ナリシコト證明セラレタルトキ

三 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル

四 原判決ノ證據ト爲リタル裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪又ハ免訴ヲ言渡スヘキ明確ナル證據又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

五 六 原判決ニ干與シタル裁判官、原判決ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官若ハ豫審官、豫審ニ干與シタル豫審官、搜查若ハ公訴ノ提起ニ干與シタル檢察官又ハ第三百四條ノ規定ニ依リ檢察官ノ請求ヲ受ケテ處分ヲ爲シタル豫審官被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前裁判官、豫審官又ハ檢察官ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル軍法會議其ノ事實ヲ知ラザリシトキニ限ル

第四百七十四條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ刑ノ言渡又ハ無罪、免訴若ハ公訴棄却ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者ノ不利益ノ爲之ヲ爲スコトヲ得

一 前條第一號、第二號、第四號又ハ第六號ニ記載シタル原由アルトキ

二 無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケタル者軍法會議又ハ軍法會議外ニ於テ自白シタルトキ

三 免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル者軍法會議又ハ軍法會議外ニ於テ其ノ原由ナカリシコトヲ陳述シタルトキ

第四百七十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百五十六條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百七十三條第一號、第二號又ハ第四號ニ記載シタル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官又ハ豫審官

ニ對シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百五十六條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百七十三條第一號、第二號又ハ第四號ニ記載シタル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官又ハ豫審官

ニ 第四百七十三條第六號ニ記載シタル原由アルトキ

始審ノ確定判決ニ對シテ再審ヲ請求シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ上告棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十六條 前三條ノ規定ニ從ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ犯罪ニ付公訴ヲ實行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由及犯罪事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百七十七條 再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外原判決ヲ爲シタル軍法會議之ヲ管轄ス

第四百七十八條 第四百六十條ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對スル再審ノ請求ハ左ノ場合ヲ除クノ外始審ノ判決ヲ爲シタル軍法會議之ヲ管轄ス

一 第四百五十六條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百七十三條第一號、第二號又ハ第四號ニ記載シタル原由アリトスルトキ

二 高等軍法會議ノ判決又ハ其ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官又ハ豫審官ニ第四百七十三條第六號ニ記載シタル原由アリトスルトキ

第四百七十九條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ左ニ記載シタル者之ヲ爲スコトヲ得

一 管轄軍法會議ノ檢察官

二 刑ノ言渡ヲ受ケタル者

三 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人又ハ夫

四 刑ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相續人、直系親族又ハ兄弟姊妹

第四百七十三條第六號又ハ第四百七十五條第一項第二號ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲ニ因リ罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢察官ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者ノ不利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ管轄軍法會議ノ檢察官之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十條 檢察官ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得但シ特設軍法會議ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

第四百八十一條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ終ヘタルトキ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキト雖之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十二條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者ノ不利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ判決確定後公訴ノ時効ニ付定メタル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十三條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ管轄軍法會議ノ檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ再審ノ請求ニ付テノ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百八十四條 再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本及證據ヲ添ヘ之ヲ管轄軍法會議ニ差出スヘシ

第四百八十五條 再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得

第四百八十六條 第四百三十條、第四百三十二條、第四百三十九條及第四百四十一條ノ規定ハ再審ノ請求及其ノ取下ニ之ヲ準用ス

第四百八十七條 第四百六十條ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテ高等軍法會議及師團軍法會議ニ再審ノ請求アリタルトキハ高等軍法會議ハ決定ヲ以テ師團軍法會議ノ訴訟手續終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ始審ノ確定判決ト上告棄却ノ判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキ亦同シ

第四百八十八條 再審ノ請求法律上ノ方式ニ違ヒタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百八十九條 再審ノ請求ヲ理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百九十條 再審ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ再審開始ノ決定ヲ爲スヘシ

再審開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定ヲ以テ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百九十一條 第四百八十七條ノ場合ニ於テ師團軍法會議再審ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキハ高等軍法會議ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第四百九十二條 再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス場合ニ於テハ請求ヲ爲シタル者及其ノ對手人ノ意見ヲ聽クヘシ但シ第四百七十九條第一項第三號ニ記載シタル者再審ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ併セテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ意見ヲ聽クヘシ

第四百九十三條 再審開始ノ決定ヲ爲シタル事件ニ付テハ其ノ審級ニ從ヒ更ニ審判ヲ爲スヘシ

第四百九十四條 死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失ノ狀態ニ在ル者ノ利益ノ爲再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢察官及辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ爲シタル者辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ第三百六十九條ノ規定ニ準シ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前刑ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定中辯護人ニ關スルモノハ特設軍法會議ニ付テハ之ヲ適用セス

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十五條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者ノ不利益ノ爲再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百九十六條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲爲シタル再審ニ於テハ原判決ニ於テ言渡シタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百九十七條 再審ニ於テ無罪ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ官報ヲ以テ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第五章 裁判ノ執行

第四百九十八條 裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス

第四百九十九條 裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官又ハ其ノ裁判ヲ爲シタル豫審官ノ屬スル軍法會議ノ檢察官之ヲ指揮ス但シ其ノ性質上軍法會議、裁判長、受命裁判官又ハ豫審官ノ爲スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

上告ノ裁判又ハ上告ノ取下ニ因リ原軍法會議ノ裁判ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ高等軍法會議ノ檢察官其ノ執行ヲ指揮ス

前二項ノ場合ニ於テ訴訟書類原軍法會議ニ在ルトキハ其ノ軍法會議ノ檢察官裁判ノ執行ヲ指揮ス

第五百條 裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ但シ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除クノ外裁判書ノ原本、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄本ニ認印シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百一條 二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金及科料ヲ除クノ外其ノ重キモノヲ先ニス但シ檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百二條 死刑ノ執行ハ陸軍大臣ノ命令ニ依ル

第五百三條 死刑ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ檢察官ハ速ニ訴訟記録ヲ長官ヲ經由シテ陸軍大臣ニ差出スヘシ

第五百四條 陸軍大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキハ五日內ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ

第五百五條 死刑ノ執行ハ檢察官及録事ノ立會ニテ監獄ノ長之ヲ爲スヘシ長官ハ監獄ノ長ノ申請ニ因リ兵員ノ出場ヲ命スヘシ

檢察官又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス

第五百六條 死刑ノ執行ニ立會ヒタル録事ハ執行始末書ヲ作り檢察官及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第五百七條 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ陸軍大臣ノ命令ニ依リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ陸軍大臣ノ命令ニ依リ分娩ニ至ル迄執行ヲ停止ス

前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル者ニ付テハ痊癒又ハ分娩ノ後陸軍大臣ノ命令アルニ非サレハ其ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百八條 特設軍法會議死刑ヲ言渡シタル場合ニ於テハ其ノ執行又ハ執行ノ停止ニ關スル陸軍大臣ノ職務ハ長官之ヲ行フコトヲ得

第五百九條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ノ軍法會議ノ檢察官ノ指揮ニ依リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第五百十條 前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者第一條ニ記載シタル身分ヲ有セサルトキハ檢察官ハ之ヲ監護義務者又ハ市區町村長ニ交付シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコ

トヲ得
刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス

第五百十一條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ノ軍法會議ノ檢察官ノ指揮ニ依リ事故ノ止ム迄懲役、禁錮又ハ拘留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ

二 受胎後七月以上ナルトキ

三 分娩後一月ヲ經過セサルトキ

四 刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生スル虞アルトキ

五 其ノ他重大ナル事由アルトキ

第五百十二條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁中ニ非サルトキハ檢察官ハ執行ノ爲之ヲ召喚スヘシ召喚ニ應セサルトキハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五百十三條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者逃走シタルトキ又ハ逃走スル虞アルトキハ檢察官ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ請求シ若ハ囑託シテ之ヲ發セシムルコトヲ得

第五百十四條 逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏名、住居、年齡、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢察官又ハ陸軍司法警察官之ニ記名捺印スヘシ

逮捕狀ヲ發スル場合ニ於テ必要アルトキハ人相書ヲ添附スヘシ

第五百十五條 逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百十六條 逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百十七條 檢察官刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢察官又ハ之ニ相當スル官署ニ人相書ヲ送付シ其ノ搜查及逮捕ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル官署ハ其ノ管轄區域內ノ檢事又ハ相當官署ヲシテ逮捕狀ヲ發シ搜查及逮捕ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五百十八條 罰金、科料、過料、沒收、沒取、追徴又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢察官ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス其ノ執行ヲ受クヘキ者ニ付相續開始アリタルトキハ相續財産ニ就キ執行スルコトヲ得

第五百十九條 前條ノ執行ニ付強制執行ヲ要スルトキハ兵營其ノ他軍事用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ於テ之ヲ爲ス場合ヲ除クノ外檢察官ノ囑託ニ因リ區裁判所其ノ他民事裁判ニ付強制執行ヲ爲ス權アル官署ニ於テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢察官ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

囑託ニ因リ爲ス官署ノ執行手續ニ付テハ民事裁判ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五百二十條 前條第二項ノ規定ニ依リ執行ノ費用ハ執行ヲ受クル者ノ負擔トシ民事訴訟法ノ規定ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

第五百二十一條 第四百十三條ノ規定ニ依リ爲シタル賠償ノ言渡ニ付被害者ヨリ強制執行ノ請求アリタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス

第五百二十二條 沒收物ハ檢察官之ヲ處分スヘシ

第五百二十三條 沒收ノ執行後三月内ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタルトキハ檢察官ハ破壊又ハ廢棄スヘキ物ヲ除クノ外之ヲ交付スヘシ

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢察官ハ公賣ニ因リテ得タル代價ヲ交付スヘシ

第五百二十四條 偽造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ偽造又ハ變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示スヘシ

偽造又ハ變造ニ係ル物押收セラレサルトキハ之ヲ提出セシメテ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ物公務所ニ屬スルトキハ偽造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第五百二十五條 押收物ノ返還ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢察官ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月内ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ期間内ト雖價值ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第五百二十六條 檢察官ハ必要ナル場合ニ於テハ他ノ軍法會議ノ檢察官、地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ裁判ノ執行ニ關スル處分

ヲ囑託スルコトヲ得

第五百二十七條 刑ヲ言渡シタル裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ其ノ言渡ヲ受ケタル者ハ言渡ヲ爲シタル軍法會議ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百二十八條 刑ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢察官ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ裁判ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百二十九條 疑義又ハ異議ノ申立ハ其ノ裁判アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

疑義若ハ異議ノ申立又ハ其ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四百三十九條ノ規定ハ疑義若ハ異議ノ申立又ハ其ノ取下ニ之ヲ準用ス

第五百三十條 疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第五百三十一條 罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲シタル勞役場留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

第五百三十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法第二編第二章中親告罪ノ告訴、請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求及時效ニ關スル規定ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ施行期日ヲ定ム

親告罪ノ告訴、請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求及時效ニ關シテハ前項ノ規定ニ依リ定ムル施行期日ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

第五百三十三條 陸軍治罪法、臺灣陸軍軍法會議法、關東都督府及韓國駐節軍陸軍軍法會議法及明治二十八年勅令第九十二號ハ之ヲ廢止ス

第五百三十四條 本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定

アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第五百三十五條 本法施行前裁判權ヲ有スル事件ニ付審問、審判又ハ判決ノ命令アリタルトキハ本法ニ依リ軍法會議裁判權ヲ有セサルコト雖軍法會議之ヲ審判ス

第五百三十六條 本法施行前軍法會議裁判權ヲ有セサル事件ニ付通常裁判所其ノ他ノ官署ニ公訴ノ提起アリタルトキハ本法ニ依リ軍法會議裁判權

ヲ有スルトキト雖公訴ヲ受ケタル官署之ヲ審判ス

第五百三十七條 從來ノ軍法會議ハ本法ニ於テ之ニ相當スル軍法會議トス
第五百三十八條 本法施行前管轄權ヲ有スル事件ニ付審問、審判又ハ判決
ノ命令アリタルトキハ本法ニ依リ管轄權ヲ有セサルトキト雖其ノ命令ヲ
受ケタル軍法會議之ヲ審判ス

第五百三十九條 本法施行ノ際在職ノ判士長及判士ハ本法ニ依ル判士トス
第五百四十條 本法施行ノ際在官ノ理事ハ別ニ辭令ヲ用キス陸軍法務官ニ
任セラレタルモノトス

本法施行ノ際退職又ハ豫備ノ理事ハ本法ニ依リ退職ヲ命セラレタル陸軍
法務官トス
本法施行ノ際非職ノ理事ハ本法ニ依リ休職ヲ命セラレタル陸軍法務官ト
ス

本法施行ノ際ニ限リ第三十九條ノ事由ナキト雖陸軍大臣ハ陸軍法務
官ニ休職ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ休職ト爲リタル陸軍法務官ノ休職ノ期間ハ三年トシ
第三項ノ者ニ在リテハ非職トナリタル時ヨリ之ヲ起算ス
前項ノ休職ノ期間満期ト爲リタルトキハ退職トス

第五百四十一條 本法施行前發シタル收禁狀ハ之ヲ本法ニ依リ發シタル勾
留狀ト看做ス
第五百四十二條 本法施行前關席判決ヲ受ケタル者ニ對シテハ舊法ニ依リ
逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

第五百四十三條 本法施行前關席判決ヲ受ケタル者ニ對シテ發シタル逮捕
狀及前條ノ規定ニ依リ發シタル逮捕狀ハ之ヲ本法ニ依リ發シタル勾留狀
ト看做ス

第五百四十四條 本法施行前ニ爲シタル檢察ノ處分ハ之ヲ本法ニ依リ爲シ
タル搜查ノ處分ト看做ス
第五百四十五條 本法施行前檢察ノ處分ニ著シタル官署本法ニ依リ搜查
權ヲ有セサルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官又ハ陸軍司法
警察官ニ送付スヘシ本法施行前告訴又ハ告發ヲ受ケタル官署亦同シ

第五百四十六條 第二百九十二條ノ期間ハ同條施行前犯人ヲ知り又ハ婚姻
ノ無效若ハ取消ノ裁判定シタル場合ニ於テハ同條施行ノ日ヨリ之ヲ起

算ス

第五百四十七條 本法施行前檢察官申アリタル事件ニシテ陸軍治罪法第四
十六條ノ手續ヲ爲ササルモノハ之ヲ第三百六條又ハ第三百七條ノ規定ニ
依リ報告アリタルモノト看做ス

第五百四十八條 本法施行前ニ爲シタル審問ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル豫
審ト看做ス
本法施行前審問ニ著シタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ豫審ノ請求アリタル
モノト看做ス

第五百四十九條 本法施行前陸軍治罪法第七十三條第二號ノ規定ニ依リ具
申アリタル事件ニシテ陸軍大臣又ハ長官ノ命令又ハ認可ナキモノハ之ヲ
第三百三十條ノ規定ニ依リ報告アリタルモノト看做ス

第五百五十條 本法施行前審問ニ於テ免訴ノ言渡アリタル事件ニ付テハ
新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ限リ更ニ豫審ヲ請求シ又ハ公訴
ヲ提起スルコトヲ得

第五百五十一條 本法施行前判決ニ著シタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ公訴
ノ提起アリタルモノト看做ス
第五百五十二條 本法施行前判決ヲ終ヘ裁判宣告ヲ爲ササル事件ハ舊法ニ
依リ之ヲ終結スヘシ

第五百五十三條 本法施行前言渡シタル關席判決ニ對シテハ舊法ニ依リ再
審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得
前項ノ申訴アリタルトキハ長官ハ公訴ノ提起ヲ命スヘシ

第五百五十四條 本法施行前陸軍治罪法第九十五條ノ規定ニ依リ又ハ同法
第九十六條各號ニ記載シタル事由ニ因リ再審ノ命令アリタル事件ハ舊法
ニ依リ之ヲ終結スヘシ

本法施行前陸軍治罪法第九十八條ノ規定ニ依リ再審ノ申訴ニ因リ再審ノ
命令アリタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ公訴ノ提起アリタルモノト看做ス

第五百五十五條 本法施行前陸軍治罪法第九十六條又ハ同法第九十七條ノ
規定ニ依リ再審ノ申訴又ハ具申アリテ命令ナキ事件ハ之ヲ本法ニ依リ管
轄軍法會議ニ再審ノ請求アリタルモノト看做ス

本法施行前陸軍治罪法第九十八條ノ規定ニ依リ再審ノ申訴アリテ命令ナ
キ事件ニ付テハ長官ハ公訴ノ提起ヲ命スヘシ

第五百五十六條 本法施行前提起シタル私訴ハ之ヲ第四百十三條ノ規定ニ依ル損害回復ノ請求ト看做ス

第五百五十七條 本法施行前言渡シタル私訴裁判ノ強制執行ニ付テハ第五百二十一條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十八條 本法施行前進行ヲ始メタル私訴ノ時效ハ従前ノ規定ニ從フ

第五百五十九條 本法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地竝朝鮮、臺灣、樺太及關東州ニ在リテハ勅令ヲ以テ指定スル官吏吏員之ヲ行フ

第五百六十條 本法ニ記載シタル刑法ノ規定ハ朝鮮、臺灣及關東州ニ在リテハ各之ニ相當スル法令ノ規定トス

第五百六十一條 内地ニ非サル地ニ在ル師團ニハ師團軍法會議ヲ設ケサルコトヲ得

内地ニ非サル地ニ在ル師團ニ軍法會議ヲ設ケル場合ニ於テ其ノ師團ニ師管ノ設ケナキトキハ命令ヲ以テ師管ト看做スヘキ地域ヲ定ムルコトヲ得

第五百六十二條 別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外他ノ法律中陸軍ノ理事トアルハ陸軍法務官トス

參 照

明治二十八年勅令第九十二號

第一條 戰時若クハ事變ニ際シ特設又ハ分駐セル陸軍軍衙若クハ陸軍團隊ニハ必要ニ應ジ臨時陸軍軍法會議ヲ設ケルコトヲ得

事平定ノ後ト雖仍引續キ前項ノ軍衙又ハ團隊ヲ置クトキハ臨時陸軍軍法會議ヲ設ケルコトヲ得

第二條 臨時陸軍軍法會議ノ管轄ハ特設軍衙又ハ分駐團隊ノ管轄若クハ守備地方ヲ以テ管轄トシ其ノ構成權限及治罪ニ關スル諸般ノ規定ハ本令ニ於テ特ニ定メタルモノヲ除ク外陸軍治罪法合圖ノ地ノ軍法會議ノ例ニ依ル

第三條 臨時陸軍軍法會議ハ管轄地内ニ在ル常人ノ犯罪及他ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ノ犯罪ヲ審判スルコトヲ得但高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 臨時陸軍軍法會議ヲ設ケタル軍衙ノ長官若クハ團隊ノ長ノ其ノ軍

法會議ニ關スル職權ハ陸軍治罪法第四條ノ長官ニ同シク其ノ副官及其ノ職務副官ト同シキ者ノ陸軍檢察ニ關スル職權ハ陸軍治罪法第三十一條ノ諸官ニ同シ

第五條 臨時陸軍軍法會議ノ管轄地内ニ於テ陸軍刑法第五十三條第五十四條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖陸軍刑法ニ依テ處斷ス但其ノ豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ陸軍刑法第六十二條第六十三條ニ照シテ處斷ス

第六條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

朝鮮軍軍法會議ニ關スル法律案

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十年一月十九日

內閣總理大臣 原 敬
陸軍大臣 男爵田中義一

朝鮮軍軍法會議ニ關スル法律案

第一條 朝鮮ニ朝鮮軍軍法會議ヲ設ケ

第二條 陸軍軍法會議法ノ適用ニ付テハ朝鮮軍軍法會議ヲ師團軍法會議ト看做シ朝鮮軍司令官ノ守備地域ヲ師管ト看做ス

第三條 朝鮮軍軍法會議ハ朝鮮軍司令官ヲ以テ長官トス

附 則
本法ハ陸軍軍法會議法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣軍軍法會議ニ關スル法律案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十年一月十九日

內閣總理大臣 原 敬
陸軍大臣 男爵田中義一

臺灣軍軍法會議ニ關スル法律案

第一條 臺灣ニ臺灣軍軍法會議ヲ設ケ

第二條 陸軍軍法會議法ノ適用ニ付テハ臺灣軍法會議ヲ師團軍法會議ト看做シ臺灣軍司令官ノ守備地域ヲ師管ト看做ス

第三條 臺灣軍法會議ハ臺灣軍司令官ヲ以テ長官トス

附則

本法ハ陸軍軍法會議法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東軍軍法會議ニ關スル法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十年一月十九日

內閣總理大臣 原 敬

陸軍大臣 男爵田中義一

關東軍軍法會議ニ關スル法律案

第一條 關東軍司令官ノ守備地域ニ關東軍軍法會議ヲ設ク

第二條 陸軍軍法會議法ノ適用ニ付テハ關東軍軍法會議ヲ師團軍法會議ト看做シ關東軍司令官ノ守備地域ヲ師管ト看做ス

第三條 關東軍軍法會議ハ關東軍司令官ヲ以テ長官トス

附則

本法ハ陸軍軍法會議法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員志水小一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(志水小一郎君) 陸軍軍法會議法案ハ第四十二回帝國議會ニ提出シテアリマシテ、本院ニ於テ特別委員付託トナリマシテ、同委員會ニ於テ一應審議セラレタモノデアリマス、ソレト此度ノ案ハ同案デゴザイマス、僅ニ違ッテ居ル所ガアリマスケレドモソレハ誠ニ僅ノ所デアリマシテ、殆ド違ヒガナイト言ッテ宜シイノデアリマス、現行陸軍治罪法ハ明治二十一年ノ制定ニ係リマシテ、其規定ハ概シテ簡單ニ過ギマシテ、時勢ノ要求ニ伴ハナイ所ガ少ナカラヌノデアリマス、夙ニ此改正ノ議ガアリマシタ次第デアリマス、依テ陸軍ニ於キマシテハ十數年前ニ其改正ニ著手ヲ致シマシテ、大正三年中ニ其案ガ脱稿シタ譯デアリマス、依テ陸海軍及ビ部外ノ人々ヲ以テ調査委員ヲ設ケマシテ、其ノ調査委員會ニ於テ審議數年ニ互リマシテ、漸ク一昨大正八年邊リニ此成案ヲ得マシタ次第デアリマス、本案ノ陸軍治罪法ニ變ッテ居リマス

主要ノ點ハ、本案ニハ現行法ニアリマセヌ所ノ審判公開、辯護、上訴等ノ制ヲ設ケマシテ、豫審公判總テ長官ノ命令ニ依テ著手イタシマス所ノ現行制度ヲ改メマシテ、檢察官ノ請求及ビ起訴ヲ待チテ著手スルコトト致シマシテ、其他裁判ノ獨立保障及ビ人權保護ニ關スル規定ヲ設ケマシテ、此現時ノ陸軍ニ相反セザル限リハ裁判手續ヲシテ爲シ得ル限リ普通ノ裁判手續ト選ブナカラシメルト云フコトニ致シマシタノデアリマス、詳細ハ委員會ニ於テ説明ヲ致シマス積リデアリマス、次ハ朝鮮軍軍法會議ニ關スル法律案、臺灣軍軍法會議ニ關スル法律案、關東軍軍法會議ニ關スル法律案デアリマスガ、朝鮮、臺灣及ビ關東州ト云フ如キ地域ニ於ケル特別ノ事情ガアリマスノデ、其事情ニ鑑ミマシテ別ニ法律ヲ設ケルノガ適當デアル、便宜デアルト云フコトカラシテ、此三案ガ出來タ譯デアリマス、要スルニ此ノ軍法會議ノ公訴ノ權限、治罪ノ手續、總テ軍法會議法案ノ規定ヲ適用スル積リデアリマス、ソレカラ飛ビマシテ……私ノ申上ゲマスノハ未ダ後デアリマスサウデスカラ海軍ノ主任ガ……

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第三、右議案ノ審查ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉

○淺田德則君 唯今問題ニ供セラレマシタガ、特別委員ノ選舉ハ、是ハ此會期ヲ通ジマシテ總テ議長ニ一任スルコトニ致シタイ、尤モ特別ノ場合ハ特ニ又同意ヲ得ル……

○子爵西大路吉光君 贊成

○子爵青木信光君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 淺田君ノ唯今ノ動議ニ御異存ゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○淺田德則君 唯今問題ニナッテ居リマスル陸軍軍法會議ニ牽連イタシマスル所ノ各案ノ特別委員ノ數ハ十五名ト致シタイト云フ動議ヲ提出イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 淺田君ニ申上ゲタイノデゴザイマス、陸軍軍法會議法案ノ特別委員ノ數ハ十五名ト云フコトノ動議ハ拜承イタシマシタガ、他ノ法案ヲ同一委員ニ付託スルト云フコトハ、後トデ諸君ニ御諮リヲシタイト思ッテ居リマシタガ、ソレデ宜シウゴザイマスカ

○淺田德則君 宜シウゴザイマス

○子爵青木信光君 賛成

○子爵西大路吉光君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 唯今淺田君ノ述べラレマシタ、陸軍軍法會議法案ノ委員ノ數ヲ十五名トナスニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔瀬古書記官朗讀〕

陸軍軍法會議法案特別委員

侯爵細川 護立君	伯爵柳澤 保惠君	男爵小澤 武雄君
子爵樋口 誠康君	子爵立花 種忠君	松室 致君
大島 健一君	河村 讓三郎君	男爵宇佐川 一正君
男爵坂本 俊篤君	男爵肝付 兼行君	男爵佐竹 義準君
磯部 四郎君	西久保 弘道君	矢口長右衛門君

○議長(公爵德川家達君) 次ニ御諮リ致シマスノハ、議事日程第四、第六、第八、此三案モ前ノ陸軍軍法會議法案ノ委員ニ付託シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 次ニ御異存アリマセヌケレバ日程第十ヨリ第十六マデ一括シテ議題トシ説明ヲ煩ハシマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 日程第十、海軍軍法會議法案、第十二、陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法廢止法律案、第十四、刑事交渉法案、第十六、陸軍法務官及海軍法務官ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律案、第一讀會

海軍軍法會議法案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十年一月十九日

內閣總理大臣 原 敬

海軍大臣 男爵加藤友三郎

海軍軍法會議法案

海軍軍法會議法

第一編 軍法會議

第一章 軍法會議ノ裁判權

第一條 軍法會議ハ左ニ記載シタル者ニ對シ其ノ犯罪ニ付裁判權ヲ有ス

一 海軍刑法第八條第一號、第二號及第九條ニ記載シタル者

二 海軍用船ノ船員

三 前二號ニ記載シタル者ヲ除クノ外海軍ノ部隊ニ屬シ又ハ從フ者

四 俘虜

前項第二號及第三號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 軍法會議ハ前條ニ記載シタル者ニ對シ其ノ身分發生前ノ犯罪ニ付

亦裁判權ヲ有ス

軍法會議ハ前條ニ記載シタル者其ノ身分ヲ喪失シタルトキト雖身分繼續

中搜查ノ報告アリ又ハ逮捕、勾引若ハ勾留セラレタルトキハ其ノ者ニ對

シ亦裁判權ヲ有ス

第三條 軍法會議ハ海軍刑法第八條第三號ニ記載シタル者ニ對シ其ノ犯シ

タル海軍刑法ノ罪ニ付裁判權ヲ有ス

前條第二項ノ規定ハ前項ニ規定スル犯罪ニ付之ヲ準用ス

第四條 軍法會議ハ合圍地境ニ在ル第一條ニ記載シタル以外ノ者ニ對シ左

ノ各號ニ規定スル犯罪ニ付裁判權ヲ有ス

一 第十六條第一號又ハ第二號ニ記載シタル者ト共ニ犯シタル同一又ハ

別個ノ罪

二 海軍刑法、陸軍刑法、軍機保護法其ノ他軍事ノ必要ニ因リ特ニ設ケ

タル法令ノ罪

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、虛偽ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ

關スル罪ハ之ヲ其ノ本犯ト共ニ犯シタルモノト看做ス

第五條 軍法會議ハ戒嚴令ニ定メタル特別裁判權ヲ行フ

第六條 軍法會議ハ戰時事變ニ際シ軍ノ安寧ヲ保持スル爲必要アルトキハ

第一條ニ記載シタル以外ノ者ニ對シ犯罪ニ付裁判權ヲ行フコトヲ得

第七條 第四條及前條ノ規定ハ陸軍軍法會議法第一條乃至第三條ノ規定ニ依リ陸軍軍法會議ノ裁判權ヲ有スル犯罪ニ付テハ之ヲ適用セス但シ被告人ノ所在地陸軍軍法會議ノ所在地ト交通斷絕シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二章 軍法會議ノ管轄權

第八條 軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

一 高等軍法會議

二 東京軍法會議

三 鎮守府軍法會議

四 要港部軍法會議

五 艦隊軍法會議

六 合圍地軍法會議

七 臨時軍法會議

第九條 高等軍法會議、東京軍法會議、鎮守府軍法會議及要港部軍法會議ハ之ヲ常設ス但シ要港部ニハ軍法會議ヲ設ケサルコトヲ得

艦隊軍法會議ハ必要ニ因リ艦隊司令長官、獨立艦隊司令官若ハ分遣艦隊司令官ノ率キル艦隊又ハ外國派遣ノ軍艦ニ之ヲ特設ス

合圍地軍法會議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス

臨時軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ海軍ノ部隊ニ之ヲ特設ス

第十條 高等軍法會議又ハ東京軍法會議ハ海軍大臣ヲ以テ長官トス

鎮守府軍法會議ハ鎮守府司令長官ヲ以テ長官トス

要港部軍法會議ハ要港部司令官ヲ以テ長官トス

特設軍法會議ハ軍法會議ヲ設置シタル部隊又ハ地域ノ指揮官ヲ以テ長官トス

第十一條 高等軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 海軍ノ將官、勅任文官及勅任文官待遇者並陸軍ノ將官、將官相當官、

勅任文官及勅任文官待遇者ニ對スル被告事件

二 上告

三 非常上告

第十二條 東京軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 第十三條第一號、第十四條第一號、第十五條第一號、第十六條第一號及第十七條第一號ノ規定ニ依リ他ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル以外ノ第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

二 第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十三條 鎮守府軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 鎮守府司令長官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 海軍區内ニ在リ又ハ海軍區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

三 第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十四條 要港部軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 要港部司令官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 警備區内ニ在リ又ハ警備區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

三 第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十五條 艦隊軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 艦隊又ハ外國派遣ノ軍艦ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 占領地警備區内ニ在リ又ハ占領地警備區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

第十六條 合圍地軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 合圍地司令官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 合圍地境ニ在リ又ハ合圍地境ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

三 第四條及第五條ニ定メタル裁判權ニ屬スル被告事件

第十七條 臨時軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ守備地域ニ在リ又ハ其ノ地域ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

三 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ守備地域ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件

四 第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十八條 管轄ヲ異ニスル數箇ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル軍法會議併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得但シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件及第四條乃至第六條ニ記載シタル事件ハ牽連ノ事由ニ因リ併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得ス

第十九條 軍法會議牽連事件ニ付公訴ヲ受ケタル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第二十條 數個ノ軍法會議牽連事件ニ付各別ニ公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ軍法會議ニ併合スルコトヲ得

第二十一條 高等軍法會議牽連事件ニ付公訴ヲ受ケタル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第二十二條 高等軍法會議及他ノ軍法會議牽連事件ニ付各別ニ公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ他ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得

第二十三條 數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

一 一人數罪ヲ犯シタルトキ

二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ

三 數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

四 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第二十四條 數個ノ軍法會議同一事件ニ付公訴ヲ受ケタルトキハ第二十五條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外最初ニ公訴ヲ受ケタル軍法會議之ヲ審判ス

前項ノ場合ニ於テ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル軍法會議ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第二十五條 高等軍法會議及他ノ軍法會議同一事件ニ付公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議之ヲ審判ス

前項ノ場合ニ於テ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第二十六條 管轄ハ公訴提起後ニ於テハ被告人ノ轉屬、失官其ノ他管轄ヲ定ムル事由ノ變更ニ因リ變更セラレタルコトナシ但シ被告人第十一條第一號ニ記載シタル身分ヲ取得シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 第十一條第一號ニ記載シタル者被告人ナル場合ニ於テ其ノ現在地高等軍法會議ノ所在地ト交通斷絶シタルトキ又ハ其ノ所在地ト著シク離隔シ且審判急速ヲ要スルトキハ被告人ノ現在地又ハ其ノ附近ニ在ル軍法會議被告事件ヲ管轄スルコトヲ得

第二十八條 管轄軍法會議ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ管轄移轉ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十九條 軍法會議ヲ廢シタルトキハ海軍大臣ハ後繼軍法會議ヲ指定スヘシ

第三十條 訴訟手續ハ管轄違ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第三章 軍法會議ノ職員

第三十一條 軍法會議ニ判士、海軍法務官、海軍録事及海軍警査ヲ置ク

第三十二條 判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ

第三十三條 將官ヲ以テ判士ト爲ストキハ海軍大臣ノ奏請ニ因リ之ヲ命ス
特設軍法會議ニ於テハ長官又ハ其ノ直系上官ハ急速ヲ要スル場合ニ限り部下ノ將官中ヨリ判士ヲ命スルコトヲ得

第三十四條 佐官以下ノ將校ヲ以テ判士ト爲ストキハ長官之ヲ命ス

長官ノ部下ニ非サル將校ヲ以テ判士ト爲スコトヲ要スルトキハ海軍大臣之ヲ命ス
特設軍法會議ニ於テハ急速ヲ要スル場合ニ限り長官ノ直系上官

ハ部下ノ將校中ヨリ之ヲ命スルコトヲ得

第三十五條 法務官ハ終身官トシ勅任又ハ奏任トス

第三十六條 法務官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一 公然政事ニ關係スルコト

二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員ト爲ルコト

三 帝國議會ノ議員又ハ道、府、縣、郡、市、區、町、村會ノ議員ト爲ルコト

四 報酬アル公務ニ就クコト

五 商業ヲ營ムコト

第三十七條 法務官ハ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ因ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ免官又ハ轉官セラルルコトナシ

第三十八條 法務官身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ海軍大臣ハ高等軍法會議總會ノ決議ニ因リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第三十九條 海軍大臣ハ左ノ場合ニ於テハ法務官ニ現俸ノ半額ヲ給シテ休職ヲ命スルコトヲ得

一 懲戒令ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二 刑事事件ニ關シ起訴セラレタルトキ

三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

四 戰時又ハ事變ニ際シ臨時増員シタル場合ニ於テ其ノ必要止ミ過員ヲ生シタルトキ

五 病氣ノ爲執務セサルコト六月ニ至リタルトキ

休職ノ期間ハ前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ其ノ事件ノ繫屬中トシ第三號乃至第五號ノ場合ニ於テハ三年トス

第四十條 法務官前條第一項第三號乃至第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ト爲リタルトキハ退職トス

第四十一條 法務官ノ任用及懲戒ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 錄事ハ判任トス

第四十三條 警查ハ長官之ヲ命ス

第四十四條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ准士官又ハ下士官ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシメ海軍ノ下士官又ハ兵ヲシテ警查

ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十五條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル判任文官ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四章 審判機關

第四十六條 軍法會議ハ審判ヲ爲スニ付他ノ干涉ヲ受クルコトナシ

第四十七條 審判ハ裁判官五人ヲ以テ構成シタル會議ニ於テ之ヲ爲ス裁判官ハ判士及法務官ヲ以テ之ヲ充テ上席判士ヲ裁判長トス

特設軍法會議ニ於テハ上席判士及法務官ヲ除クノ外裁判官二人ヲ減スルコトヲ得

第四十八條 裁判官ハ長官之ヲ定ム

第四十九條 東京軍法會議、鎮守府軍法會議、要港部軍法會議及特設軍法會議ニ於テハ判士四人及法務官一人ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ

一 被告人下士官又ハ兵ナルトキハ佐官一人尉官三人又ハ佐官二人尉官二人

二 被告人尉官、特務士官、候補生又ハ准士官ナルトキハ佐官二人尉官二人

三 被告人佐官ナルトキハ將官一人佐官三人又ハ將官二人佐官二人

四 被告人將官ナルトキハ將官四人

前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

第五十條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相等官ヲシテ法務官ニ代リ裁判官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十一條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシテ法務官ニ代リ裁判官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十二條 高等軍法會議ニ於テハ判士三人及法務官二人ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ

一 被告人下士官又ハ兵ナルトキハ佐官二人尉官一人

二 被告人尉官、特務士官、候補生又ハ准士官ナルトキハ將官一人佐官二人

三 被告人佐官ナルトキハ將官二人佐官一人又ハ將官三人

四 被告人將官ナルトキハ將官三人

前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

第五十三條 被告人軍屬、陸軍軍人又ハ陸軍軍屬ナルトキハ其ノ官等、等級又ハ階級ニ從ヒ第四十九條又ハ前條ノ例ニ依リ判士ヲ區別ス

第五十四條 被告人第四十九條、第五十二條及前條ニ記載シタル者ニ非サルトキハ下士官又ハ兵ニ準シ判士ヲ區別ス

前項ノ場合ニ於テ長官ハ事情ニ因リ判士ノ區別ヲ變更スルコトヲ得

第五十五條 被告人俘虜ナルトキハ第四十九條及第五十二條乃至前條ノ規定ニ準シ判士ヲ區別ス

第五十六條 二個以上ノ異ル官等、等級又ハ階級ヲ有スル被告人ニ付テハ其ノ最高キ官等、等級又ハ階級ニ從ヒ判士ヲ區別ス

第五十七條 官等、等級又ハ階級ヲ異ニスル共同被告人ニ付テハ其ノ官等、等級又ハ階級ノ最高キ者ニ從ヒ判士ヲ區別ス

第五十八條 判士ノ區別ハ被告人ノ身分ニ異動アルモ官等、等級又ハ階級ノ高キ身分ヲ取得シタル場合ヲ除クノ外變更セラルコトナシ

第五十九條 上告、非常上告又ハ再審ノ審判ヲ爲ス場合ノ判士ノ區別ハ原軍法會議ノ裁判官ヲ定メタル當時ノ被告人ノ身分ニ從フ但シ被告人官等、等級又ハ階級ノ高キ身分ヲ取得シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第七十三條第三項、第四百十七條、第四百十八條、第四百三十八條又ハ第五百三十二條ノ決定ヲ爲ス場合ノ判士ノ區別ニ之ヲ準用ス

第六十條 上告、非常上告又ハ再審ノ審判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判長ノ官等ハ原軍法會議ノ裁判長ヨリ下ルコトヲ得ス

第六十一條 豫審ハ豫審官之ヲ行フ

第六十二條 豫審官ハ法務官中ヨリ長官之ヲ命ス

第六十三條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六十四條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六章 檢察機關

第六十五條 海軍大臣ハ公訴及捜査ヲ指揮監督ス

第六十六條 長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公訴ヲ指揮ス

長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件、之ト牽連スル事件及所管部隊内ノ犯罪事件ニ付捜査ヲ指揮ス

第六十七條 檢察官ハ長官ニ隸屬シ捜査ヲ爲シ公訴ヲ行フ

第六十八條 檢察官ハ法務官中ヨリ長官之ヲ命ス

第六十九條 長官ハ法務官試補ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十條 特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十一條 合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十二條 檢察官ハ海軍司法警察官又ハ司法警察官ヲシテ捜査ノ輔佐ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十三條 憲兵ノ將校、准士官又ハ下士ハ海軍司法警察官トシテ捜査ヲ爲ス

海軍大臣ハ所管ノ大臣ト協議シテ警察官中ヨリ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ヲ指定スルコトヲ得

第七十四條 部隊ノ長又ハ分隊長ハ其ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ノ犯罪ニ付海軍司法警察官ノ職務ヲ行フ

第七十五條 部隊ノ長ハ部下ノ將校ニ委任シテ特定ノ事件ニ付海軍司法警察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十六條 海軍司法警察官又ハ海軍司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ捜査ヲ爲スニ付上官ノ命令ニ從フ

第七十七條 警査又ハ憲兵卒ハ檢察官又ハ海軍司法警察官ノ命令ヲ受ケ海軍司法警察吏トシテ捜査ノ補助ヲ爲ス

第七十三條第二項ノ規定ニ依リ指定セラレタル警察官ノ部下ニ屬スル巡查亦前項ニ同シ

第七十八條 檢察官ハ司法警察吏ヲシテ捜査ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十九條 海軍司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ部下ヲシテ捜査ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第二編 訴訟手續

第一章 總則

第一節 裁判官ノ除斥及回避

第八十條 長官ハ除斥ノ原由其ノ他正當ノ事由アリト認ムルトキハ裁判官ヲ變更スヘシ

第八十一條 裁判官職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ場合左ノ如シ

一 裁判官被害者ナルトキ

二 裁判官被告人又ハ被害者ノ配偶者、四親等内ノ血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナルトキ

三 裁判官被告人又ハ被害者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

四 裁判官事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

五 裁判官事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人又ハ輔佐人ト爲リタルトキ

六 裁判官事件ニ付長官又ハ檢察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ

七 裁判官事件ニ付捜査、豫審又ハ前審ニ干與シタルトキ

第八十二條 檢察官又ハ被告人ハ除斥ノ原由其ノ他裁判官ヲ變更スヘキ正當ノ事由アリト思料スルトキハ其ノ旨ヲ長官ニ具申スルコトヲ得

第八十三條 長官前條ノ具申ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ軍法會議ニ通知スヘシ

軍法會議前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ裁判官ノ變更ニ關シ通知ヲ受ケル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十四條 裁判官自ラ除斥ノ原由其ノ他回避スヘキ正當ノ事由アリト思料スルトキハ其ノ旨ヲ長官ニ具申スヘシ

第八十五條 前五條ノ規定ハ豫審官及録事ニ之ヲ準用ス

第八十六條 特設軍法會議ニ於テハ本節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二節 辯護及輔佐

第八十七條 被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第八十八條 辯護人ハ左ニ記載シタル者ヨリ之ヲ選任スヘシ

一 海軍ノ將校又ハ將校相當官

二 海軍高等文官又ハ同候補

三 海軍大臣ノ指定シタル辯護士

第八十九條 辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘシ

辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第九十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ス

第九十一條 辯護人ハ軍法會議ニ於テ被告事件ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

第九十二條 辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ限り獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第九十三條 前六條ノ規定ハ特設軍法會議ニ付テハ之ヲ適用セス

第九十四條 被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人タラムトスルトキハ審級毎ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
輔佐人ハ獨立シテ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三節 裁判

第九十五條 裁判ハ定數ノ裁判官評議シテ之ヲ爲ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條 裁判官ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ法務官試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

裁判官ノ評議ハ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末及各裁判官ノ意見ハ祕密トス

第九十七條 裁判官意見ヲ述フルノ順序ハ法務官ヲ始トス法務官二人ナルトキハ席次ノ低キ者ヲ始メトス其ノ他ノ裁判官ニ在リテハ席次ノ最低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス

第九十八條 裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

裁判官ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ル迄被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第九十九條 裁判官ハ裁判スヘキ事項ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第一百條 判決ハ口頭辯論ニ基キ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ

此ノ限ニ在ラス

決定ハ公判廷ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽キ之ヲ爲スヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百條 裁判ニハ理由ヲ附スヘシ但シ決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及其ノ事實ヲ認メタル理由並法令ノ適用ヲ示スヘシ

第二百條 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ノ送達ニ依リ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二百三條 裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

第二百四條 檢察官ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢察官ニ送附スヘシ

第二百五條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ被告人其ノ他訴訟關係人ノ請求ニ因リ之ヲ交付ス

前項ノ場合ニハ其ノ費用ヲ徵スルコトヲ得

第四節 書類

第二百六條 訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外錄事之ヲ調製スヘシ

第二百七條 裁判官、豫審官又ハ檢察官ハ錄事ノ作リタル書類ニ付意見アルトキハ錄事ニ命シ之ヲ變更セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ錄事ハ自己ノ意見ヲ書類ニ附記スルコトヲ得

第二百八條 被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ取調ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對スル訊問及其ノ供述

二 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ錄事ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第二百九條 檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り之ヲ調書ニ添附スヘシ

第一百十條 前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者錄事ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ軍法會議取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判官タル法務官錄事ト共ニ署名捺印スルヲ以テ足ル

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

第一百十一條 錄事ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ錄事ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

第一百十二條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他重要ナル訴訟手續ヲ記載スヘシ

一 公判ヲ爲シタル軍法會議及年月日

二 裁判官、檢察官及錄事ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名

三 被告人出頭セサリシトキハ其ノ旨

四 辯論ノ公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由

五 被告事件ノ陳述其ノ他辯論ノ要旨

六 第二百八條第二項ニ記載シタル事項

七 朗讀シタル書類及要旨ヲ告ケタル書類

八 被告人ニ示シタル證據物

九 公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收

十 裁判長ヨリ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

十一 辯論ノ最終ニ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述ヲ爲サシメタルコト

十二 判決其ノ他ノ裁判ヲ爲シタルコト

第一百十三條 公判調書ニ付テハ第八條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

第一百十四條 公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ整理スヘシ

第一百十五條 公判調書ニハ裁判官タル法務官録事ト共ニ署名捺印スヘシ

法務官二人ナルトキハ上席者署名捺印シ上席者差支アルトキハ他ノ法務官署名捺印スヘシ

法務官差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

録事差支アルトキハ前三項ノ規定ニ依リ署名捺印スル者其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第一百十六條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第一百十七條 裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

第一百十八條 裁判書ハ裁判官之ヲ作ルヘシ

第一百十九條 裁判書ニハ裁判官署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ裁判官其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ裁判官署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第一百二十條 裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齢、職業及住所ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ記載シタル事項ノ外公判ニ干與シタル檢察官ノ官氏名ヲ記載スヘシ

第一百二十一條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第一百二十二條 前四條ノ規定ハ豫審官裁判ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第一百二十三條 官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ

書類ニハ毎葉ニ契印スヘシ

第一百二十四條 官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ削除シタル部分ハ讀ミ得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第二百五條 官吏及公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第二百二十六條

官吏及公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代署セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印スヘシ

他人ヲシテ代署セシメタル場合ニ於テハ代署シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第二百二十七條 特設軍法會議ニ於テ審判スヘキ事件ノ書類ニ付テハ本節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五節 送達

第二百二十八條 送達ハ録事送達吏ヲシテ之ヲ爲サシム但シ海軍司法警察官ノ發スル書類ノ送達ハ其ノ書類ヲ作リタル者之ヲ爲サシム

送達吏ハ海軍司法警察吏ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二十九條 送達ハ郵便ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郵便配達人ヲ以テ送達吏ト爲ス

第二百三十條 送達ハ之ヲ施行スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記又ハ之ニ相當スル官署ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百三十一條 軍艦、兵營其ノ他軍事用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對スル送達ハ廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第一條又ハ陸軍軍法會議法第一條ニ記載シタル者ニシテ前項ニ記載シタル以外ノ場所ニ在ル者ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長若ハ監督者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ送達ハ書類ヲ本人ニ交付シタル旨ノ證書ヲ以テ之ヲ證ス

第二百三十二條 第一條及陸軍軍法會議法第一條ニ記載シタル以外ノ者被告

人、代理人、辯護人又ハ輔佐人ト爲リタルトキハ書類ノ送達ヲ受クル爲

書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ軍法會議ニ届出ツヘシ軍法會議所在地ニ住居及事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル

者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ旨及送達受取人ノ住居又ハ事務所ヲ其ノ者ト共ニ書面ヲ以テ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ在監者ニ付之ヲ適用セス

送達受取人ハ送達ヲ受クヘキ本人ト看做シ送達受取人ノ住居又ハ事務所ハ本人ノ住居又ハ事務所ト看做ス

第三百三十三條 前條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スヘキ者其ノ届出ヲ爲サルトキハ交付スヘキ書類ヲ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
第三百三十四條 檢察官ニ對スル送達ハ書類ヲ其ノ所屬官廳ニ送付シテ之ヲ爲ス

第三百三十五條 被告人ノ現在地知レサルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得
被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル爲他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第三百三十六條 公示送達ハ軍法會議ノ指揮アリタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

公示送達ハ交付スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ軍法會議ノ揭示場ニ公示シテ之ヲ爲ス

公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ召喚狀ヲ軍法會議ノ揭示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲ス

前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ掲載シタル時ヨリ三十日其ノ他ノ公示送達ハ揭示場ニ公示シタル時ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第三百三十七條 送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス

第六節 期間

第三百三十八條 期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ日、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但シ時効期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス
月及年ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

期間ノ末日日曜日、一月一日二日四日、十二月二十九日三十日三十一日、一般ノ休日トシテ指定セラレタル大祭日若ハ祝日又ハ海軍一般ノ休日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時効期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三百三十九條 法定ノ期間ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居地ト軍法會議所在地トノ距離ニ從ヒ海陸路二十里毎ニ一日ヲ加フ二十里ニ滿タサルモ五

里以上ナルトキ亦同シ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス
外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

第七節 被告人ノ召喚、勾引及勾留

第四百十條 軍法會議公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ
第四百十一條 被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出廷シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

軍艦、兵營其ノ他軍用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル被告人ノ召喚ハ廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ軍法會議ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ヲ召喚スル場合ニ之ヲ準用ス

第四百十二條 召喚ヲ受ケタル被告人期日ニ出頭セサルトキハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第四百十三條 左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得
一 軍紀ヲ保持スル爲必要アルトキ

二 被告人逃走シタルトキ又ハ逃走スル虞アルトキ
三 被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ

四 被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

第四百十四條 被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ
第四百十五條 勾引シタル被告人ハ軍法會議ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間内ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

第四百十六條 第四百十三條ニ記載シタル事由アルトキハ被告人ヲ勾留スルコトヲ得但シ被告人監獄ニ在ルトキハ其ノ事由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得

前項ノ規定ハ五百圓ヲ超過セサル罰金、拘留又ハ科料ニ該ルヘキ事件ニ付テハ第四百十三條第四號ノ場合ヲ除クノ外之ヲ適用セス

被告人ノ勾留ハ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百十三條第一號ノ場合及被告人逃走シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百十七條 被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第四百十八條 裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第四百四十條乃至前條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ又ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百十九條 裁判長ハ被告人現在地ノ豫審官、檢察官、海軍司法警察官、豫審判事、區裁判所判事、檢事、司法警察官又ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ更ニ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ海軍司法警察官及司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ海軍司法警察官及司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ

第五百十條 被告人ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢事長又ハ之ニ相當スル官署ニ被告人ノ人相書ヲ送付シ其ノ搜查及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル官署ハ其ノ管轄區域内ノ檢事又ハ相當官署ヲシテ勾引狀ヲ發シ搜查及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五百十一條 前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル軍法會議ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テハ第四百十五條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第五百十二條 召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件並被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命裁判官之ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ

召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時及場所並召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

第四百十八條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第五百十三條 前條第一項及第二項ノ規定ハ第四百十九條第四項ノ規定ニ依リ豫審官、檢察官又ハ海軍司法警察官ノ發スル勾引狀ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及其ノ囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第五百十四條 召喚狀ハ之ヲ送達ス

第五百十五條 勾引狀又ハ勾留狀ハ檢察官ノ指揮ニ依リ海軍司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命裁判官又ハ豫審官其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ監獄官吏之ヲ執行ス

勾引狀又ハ勾留狀ハ必要アルトキハ海軍ノ下士官若ハ兵又ハ司法警察官吏ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五百十六條 勾引狀ハ數通ヲ作り之ヲ海軍司法警察官吏、海軍ノ下士官若ハ兵又ハ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得

第五百十七條 海軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄地外ニ於テ勾引狀ヲ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第五百十八條 勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル軍法會議ニ引致スヘシ

第五百十九條 勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル官署ニ引致スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

第五百十九條 軍艦、兵營其ノ他軍事用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廳舎若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍事用ノ廳舎及艦船ノ外ニ在リテ現ニ陸海軍ノ勤務ニ從事スル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

第六十條 軍法會議ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ被告人

出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ肯セサル
トキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得

第六十一條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合
ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

第六十二條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必
要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第六十三條 勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年
月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シ記名
捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ之ヲ檢察官又ハ執行ヲ指揮シタ
ル官署ニ差出スヘシ

勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢察官其ノ他ノ官署ハ被告人ノ
引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

第六十四條 檢察官ハ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得
第六十五條 勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍内ニ於テ他人ト接見シ
又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタ
ル被告人亦同シ

第六十六條 軍法會議ハ罪證ヲ湮滅シ、逃走シ又ハ軍事上ノ機密ヲ漏泄
スル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人
ト授受スヘキ書類若ハ物ヲ査閲シ又ハ其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フル
コトヲ得

軍法會議書類又ハ物ノ査閲ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢察官之ヲ爲スコ
トヲ得

第六十七條 勾留ノ理由消滅シタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽
キ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

第六十八條 勾留セラレタル被告人第一條第一項第一號、第四號及陸軍
軍法會議法第一條第一項第一號、第四號ニ記載シタル以外ノ者ナルトキ
ハ被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得
第六十九條 保釋ノ請求アリタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ
決定ヲ爲スヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

第七十條 保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ差出シタル後之ヲ執行スヘシ

檢察官ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ差出サシムルコトヲ得
檢察官ハ有價證券又ハ軍法會議ノ所在地ニ住居シ保證金ヲ納ムル二十分
ナル資産ヲ有スル者ノ保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得

前項ノ保證書ニハ保證金額及何時ニテモ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ
第七十一條 軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル
被告人ヲ責付スルコトヲ得

責付ハ被告人部隊内居住者ナルトキハ其ノ所屬部隊ノ長ニ之ヲ爲シ部隊
内居住者ニ非サルトキハ親族其ノ他ノ者ニ之ヲ爲スヘシ

部隊内居住者ニ非サル者ヲ責付スルニハ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ
召喚ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ

第七十二條 被告人部隊内居住者ニ非サルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意
見ヲ聽キ決定ヲ以テ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得
第七十三條 軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ決定ヲ以テ保
釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

保釋中被告人召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス、住居ノ制限ニ違
反シ又ハ逃走シタル爲保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ軍法會議ハ檢察官ノ意
見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ
受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃走シタルトキハ軍法會議ハ檢察
官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

第七十四條 勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ
檢察官ハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ

第七十五條 上告提起期間内又ハ上告中ノ事件ニ付勾留ヲ取消シ保釋、
責付若ハ勾留ノ執行停止ヲ爲シ又ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ原軍法
會議其ノ決定ヲ爲スヘシ

第七十六條 豫審官ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ軍法會議又ハ裁
判長ト同一ノ權ヲ有ス

第七十七條 左ノ場合ニ於テ被告事件急速ノ處分ヲ要シ軍法會議又ハ豫
審官ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢察官又ハ海軍司法警察官ハ

勾引狀ヲ發スルコトヲ得

一 軍紀ヲ保持スル爲必要アルトキ

二 現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在ラサルトキ

三 現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ

四 死體ノ檢證ニ因リ其ノ事件ノ被告人ヲ發見シタルトキ

五 既決ノ囚人又ハ法令ニ依リ拘禁セラレタル被告人逃走シタルトキ

六 被告人強盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ

七 被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

前項ノ規定ニ依リ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ル場合ニ於テハ檢察官ハ之ヲ

他ノ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ニ囑託シ海軍司法警察官ハ

之ヲ他ノ海軍司法警察官又ハ司法警察官ニ命令シ又ハ囑託スルコトヲ得

第百七十八條 檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官其ノ職務ヲ行

フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ被告人其ノ場所ニ在リテ

其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第百四十三條各號ニ記載シタル

事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一 檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ直ニ被告人ヲ逮捕シ又ハ

其ノ逮捕ヲ海軍司法警察官又ハ司法警察官ニ命スヘシ

二 海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ命令ヲ待タスシテ直ニ被告人ヲ逮

捕スヘシ

第百七十九條 現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕ス

ルコトヲ得

被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法

警察官ニ引渡スヘシ

第百八十條 海軍司法警察官又ハ司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受

取リタルトキハ速ニ之ヲ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ニ引致

スヘシ

海軍司法警察官又ハ司法警察官被告人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者

ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共

ニ官署ニ到ルコトヲ求ムルコトヲ得

第百八十一條 司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ

ト思料スルトキハ速ニ書類及證據物ト共ニ被告人ヲ檢察官又ハ海軍司法

警察官ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第百八十二條 海軍司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ

速ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要

アリト思料スルトキハ遅クトモ三日内ニ書類及證據物ト共ニ被告人ヲ管

轄軍法會議ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第百八十三條 檢察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ遅クトモ

二十四時間内ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ

被告事件急速ヲ要シ軍法會議又ハ豫審官ノ勾留狀ヲ求ムル能ハサル場合

ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ勾留狀ヲ發スヘシ但シ五百圓ヲ

超過セサル罰金、拘留又ハ科料ニ該ルヘキ事件ニ付テハ第百七十七條第

一項第七號ノ場合ヲ除クノ外勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス

檢察官勾留狀ヲ發シタルトキハ速ニ長官ニ搜查ノ報告ヲ爲シ又ハ書類及

證據物ト共ニ被告人ヲ管轄軍法會議ノ檢察官若ハ相當官署ニ送致スル手

續ヲ爲スヘシ

檢察官他ノ檢察官ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ前二項ノ規定ニ準シ處

分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

第百八十四條 現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモ

ノ現行犯トス

兇器賊物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ、犯人トシテ追呼セ

ラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ

現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在リタルモノト看做ス

第百八十五條 第百七十七條以下ノ場合ニ於ケル勾引又ハ勾留ニ付テハ第

百五十一條乃至第百五十三條及第百五十五條乃至第百六十四條 規定ヲ

準用ス

第八節 被告人訊問

第百八十六條 被告人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキコトヲ確ムルニ足ルヘ

キ事項ヲ訊問スヘシ

第百八十七條 被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキ

コトアリヤ否ヲ問ヒ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第百八十八條 被告人ニ對シテ訊問ヲ爲ストキハ録事ヲシテ立會ハシムヘ

シ但シ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百八十九條 事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

第百九十條 被告人讞ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得

第九節 押收及搜索

第百九十一條 軍法會議ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證據物又ハ沒收スヘキ物ト思料スルモノハ之ヲ差押フヘシ

軍法會議ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第百九十二條 軍法會議ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ電報及其ノ賴信紙ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ニ記載シタル以外ノ郵便物又ハ電報及其ノ賴信紙ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノハ被告事件ニ關係アリト思料スルニ足ルヘキ狀況アルモノニ限り之ヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ發信人又ハ受信人ニ通知スヘシ但シ通知ニ因リテ審理ヲ妨クル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十三條 軍法會議ハ被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ヲ領置スルコトヲ得

第百九十四條 軍法會議ハ必要アルトキハ被告人ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アル場合ニ限り搜索ヲ爲スコトヲ得

第百九十五條 押收又ハ搜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

第百九十六條 軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十七條 公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物ニ付本人

又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立ツルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮内大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リシ者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前項ノ申立ヲ爲ストキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十八條 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲所持スル物ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付押收ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十九條 軍法會議ハ押收スヘキ物又ハ搜索スヘキ場所、身體若ハ物ヲ指定シタル命令狀ヲ發シ海軍司法警察官又ハ司法警察官ヲシテ押收又ハ搜索ヲ爲サシムルコトヲ得

命令狀ニハ押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第二百條 海軍司法警察官又ハ司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ其ノ被告事件ニ關スル他ノ證據物ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スルコトヲ得

第二百一條 海軍司法警察官又ハ司法警察官前二條ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲シタルトキハ檢察官ヲ經テ之ニ關スル書類及押收物ヲ軍法會議ニ差出スヘシ

第二百二條 軍法會議押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假ニ之ヲ押收シテ檢察官ニ送付スルコトヲ得

檢察官前項ノ規定ニ依リ押收シタル物ヲ留置スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ還付スヘシ

第二百三條 押收又ハ搜索ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ處分ヲ爲スヘキ地ノ豫審官、豫審判事、區裁判所判事又ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得
受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託
ヲ移送スルコトヲ得

受命裁判官又ハ受託豫審官ハ押收又ハ搜索ヲ爲スニ付軍法會議ニ屬スル
處分ヲ爲スコトヲ得但シ第百九十二條第三項ノ通知ハ軍法會議之ヲ爲ス
ヘシ

第二百四條 日出前、日没後ニハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ
承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、
建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得但シ猶豫スヘカラサル場合ハ此ノ限ニ
在ラス

日没前押收又ハ搜索ニ著手シタルトキハ日没後ト雖其ノ處分ヲ繼續スル
コトヲ得

第二百五條 左ノ場所ニ付テハ前條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要
セス

一 賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場
所

二 旅店、飲食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコトヲ得ヘキ場所但シ
公開シタル時間内ニ限ル

第二百六條 官署、公署又ハ軍艦、兵營其ノ他軍事用ノ廳舍若ハ艦船ノ内
ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ
其ノ處分ニ立會ハシムヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶
ノ内ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘ
キ者ヲシテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ此等ノ者ヲシテ立會ハシムルコト
能ハサルトキハ隣人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百七條 檢察官、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ搜索ノ處分ニ立會フコ
トヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限ニ在ラス

押收又ハ搜索ノ處分ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ其ノ處分ニ
立會ハシムルコトヲ得

第二百八條 押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ
其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ノ處分ヲ要

スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百九條 押收又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ海軍司法警察官吏又
ハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十條 押收又ハ搜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場
所ニ出入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分ヲ終ル迄之ヲ留置ス
ルコトヲ得

第二百十一條 押收又ハ搜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ
其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

第二百十二條 押收ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者、所持者若ハ保管者又ハ
之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ
謄本又ハ抄本ヲ之ニ交付スヘシ

第二百十三條 押收物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘ
シ

運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其他ノ
者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

危害ヲ生スル虞アル押收物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第二百十四條 沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アル
モノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ
得

第二百十五條 押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タ
ス檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢察官ノ意見
ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第二百十六條 押收シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付
スヘキ理由明瞭ナルトキニ限り被告事件ノ終結ヲ待タス檢察官ノ意見ヲ
聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スル
コトヲ妨ケス

第二百十七條 押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ錄事ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百十八條 豫審官ハ押收及搜索ニ關シ軍法會議ト同一ノ權ヲ有ス

第二百十九條 檢察官ハ第一百七十七條、第一百七十八條又ハ第八十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限り押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢察官、海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

海軍司法警察官ハ第一百七十七條、第一百七十八條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限り押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ第一百七十八條又ハ第八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限り押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

海軍司法警察官又ハ司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押收物ヲ檢察官ニ送付スヘシ但シ第二百十三條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ通知スヘシ

第二百二十條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得

第二百二十一條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ被告人ヲ逮捕スルニ付急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り之ヲ搜索スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二百六條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官現行犯ノ被告人ヲ逮捕スル爲追行シタル場合ニ於テ被告人人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ逃入リタルトキ亦前項ニ同シ

第二百二十二條 勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ入り搜索ヲ爲スコトヲ得但シ第一百七十七條第一項第一號又ハ第三號乃至第六號ノ規定ニ依リ發シタル勾引狀ヲ執行スル場合ニ於テハ前條ノ例ニ依ル

第二百二十三條 檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ノ爲ス押收及搜索ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第九十一條乃至第九十八條、第二百二條、第二百四條乃至第二百六條及第二百十條乃至第二百十六條ノ規定ヲ準用ス

海軍司法警察吏、下士官若ハ兵又ハ司法警察吏ノ爲ス搜索ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第九十五條、第九十六條、第二百四條乃至第二百六條及第二百十條ノ規定ヲ準用ス

第十節 檢證

第二百二十四條 軍法會議ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ第二百二十五條 檢證ニ付テハ身體ヲ検査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體ノ検査ハ一定ノ證跡ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十六條 日出前、日没後ニハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得但シ猶豫スヘカラサル場合又ハ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此限ニ在ラス

日没前檢證ニ著手シタルトキハ日没後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得第二百二十五條ニ記載シタル場所ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第二百二十七條 檢證ニ付テハ第九十六條、第二百三條、第二百六條乃至第二百十一條及第二百十七條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十八條 豫審官ハ檢證ニ關シ軍法會議ト同一ノ權ヲ有ス

第二百二十九條 檢察官ハ第一百七十七條、第一百七十八條又ハ第八十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限り檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢察官、海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

海軍司法警察官ハ第一百七十七條、第一百七十八條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限り檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ第七十八條又ハ第八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限り檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百三十條 人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入り檢證ヲ爲スコトヲ得

第二百三十一條 變死人又ハ變死人ト思料スヘキ者第一條ニ記載シタル者ナルトキハ部隊内ニ於テハ部隊ノ長又ハ分隊長其ノ他ノ場所ニ於テハ檢察官又ハ海軍司法警察官檢視ヲ爲スヘシ

變死人又ハ變死人ト思料スヘキ者第一條ニ記載シタル以外ノ者ナルトキト雖部隊内ニ於テ死體ヲ發見シタル場合ニ於テハ部隊ノ長又ハ分隊長檢視ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ部隊ノ長ハ檢察官又ハ海軍司法警察官ニ檢視ヲ囑託スルコトヲ得

檢視ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

第一項乃至第三項ノ規定ハ他ノ法令ニ依ル檢視ヲ妨ケス

第二百三十二條 檢察官又ハ海軍司法警察官ハ前條ノ處分ヲ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

第二百三十三條 檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ノ爲ス檢證ニ付テハ第九十六條、第二百六條、第二百十條、第二百十一條、第二百二十五條及第二百二十六條ノ規定ヲ準用ス

第十一節 證人訊問

第二百三十四條 軍法會議ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百三十五條 公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得タル事實ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立ツルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮内大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、

會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リシ者前項ノ申立ヲ爲ストキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

第二百三十六條 左ニ記載シタル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一 被告人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者

二 被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人

三 被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者

共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ノミニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

第二百三十七條 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百三十八條 證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第二百三十六條第一項ニ規定スル關係アル者刑事上ノ訴追ヲ受クル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ起訴セラレ未タ確定判決ヲ經サルトキ亦前項ニ同シ

第二百三十九條 證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ疏明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得

證言ヲ拒ム者之ヲ拒ム事由ヲ疏明スルコト能ハサルトキ又ハ宣誓ヲ爲サルトキハ決定ヲ以テ其ノ申立ヲ却下スヘシ

第二百四十條 第四百十一條及第四百十四條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ之ヲ準用ス

第二百四十一條 召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得

第二百四十二條 前條ノ言渡ヲ受ケタル者裁判書ノ送達アリタル日ヨリ三日内ニ正當ノ事由アリテ出頭スルコト能ハサルコトヲ證明シタルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ言渡ヲ取消スヘシ

天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲期間内ニ前項ノ證明ヲ爲スコト能ハ
サリシ者事故ノ止ミタル日ヨリ三日内ニ其ノ證明ヲ爲シタルトキ亦前項
ニ同シ

第二百四十三條 召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ召喚狀ヲ發シ又ハ勾
引狀ヲ發スルコトヲ得

第二百四十四條 證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ證人ノ氏名及住居、被告人
ノ氏名並被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所並召喚ニ應セサルトキハ過料ニ處
シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

召喚狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但
シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

證人第一條ニ記載シタル者ナルトキハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二百四十五條 證人ノ勾引ニ付テハ第二百五十五條乃至第五百十九條及第
百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百四十六條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第二百三十六條
第一項ニ記載シタル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第二百三十六條第一項ニ記載シタル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告
クヘシ

第二百四十七條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ
此ノ限ニ在ラス

第二百四十八條 宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ
者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十九條 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ
宣誓書ニハ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓
フ旨ヲ記載スヘシ

訊問後宣誓ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事
ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第二百五十條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽證ノ罰ヲ告クヘシ
第二百五十一條 同一ノ被告事件ニ付數名ノ證人出頭シタル場合ニ於テハ
其ノ宣誓ハ同時ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十二條 左ニ記載シタル者ニハ宣誓ヲ爲サシメシテ之ヲ訊問ス
ヘシ

一 十五歳未満ノ者

二 宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者

三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑
アル者

四 第二百三十六條第一項ニ記載シタル者ニシテ證言ヲ拒マサル者

五 第二百三十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者

六 被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ
罪、虚偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看
做ス

第一項ニ記載シタル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效
力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百五十三條 證人ノ供述カ其ノ證人若ハ之ト第二百三十六條第一項ニ
規定スル關係アル者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財産上ニ重大ナル損害ヲ生ス
ル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシメシテ訊問スルコトヲ得

第二百五十四條 證人ノ訊問ハ後ニ訊問スヘキ證人ノ在ラサル場所ニ於テ
各別ニ之ヲ爲スヘシ

第二百五十五條 事實發見ノ爲必要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人
ト對質セシムルコトヲ得

第二百五十六條 證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲サシムヘシ
必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷ス
ル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第二百五十七條 證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供
述セシムルコトヲ得

前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコト
ナシ

第二百五十八條 第八十八條及第九十條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ
準用ス

第二百五十九條 證人軍法會議構内ニ在ルトキハ召喚ヲ爲サシテ之ヲ訊

問スルコトヲ得

第二百六十條 證人ハ必要アル場合ニ於テハ軍法會議外ノ指定ノ場所ニ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百六十一條 親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ現在地ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

帝國議會ノ議員議會ノ開期中開會地ニ滞在スルトキハ其ノ滞在地ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

第二百六十二條 證人正當ノ理由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以下ノ過料ニ處スヘシ第二百三十九條第一項但書ノ場合ニ於テ虚偽ノ宣誓ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二百六十三條 軍法會議ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第二百六十四條 軍法會議外ニ於テ證人ノ訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人現在地ノ豫審官、豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得
受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命裁判官又ハ受託豫審官ハ證人訊問ニ付軍法會議又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第二百四十一條及第二百六十二條ノ決定ハ軍法會議亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百六十五條 豫審官ハ證人訊問ニ關シ軍法會議又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第二百六十六條 檢察官ハ第一百七十七條、第一百七十八條又ハ第八十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ第二百三十四條乃至第二百六十四條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢察官、海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

海軍司法警察官ハ第一百七十七條、第一百七十八條又ハ第八十二條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ第二百三十四條乃至第二百六十四條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ

海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ第一百七十八條又ハ第八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ第二百三十四條乃至第二百六十四條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百六十七條 檢察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得

海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス
第二百六十八條 檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ證人ニ對シ過料又ハ賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第二百六十九條 證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二節 鑑定

第二百七十條 軍法會議ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第二百七十一條 鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

第二百七十二條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ

鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

書面ヲ以テ報告ヲ爲サシメタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十三條 軍法會議ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ軍法會議外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得

被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ軍法會議ハ期間ヲ定メ病院其ノ他相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得

第二百七十四條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ軍法會議ノ許可ヲ得テ身體ヲ検査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得

第二百七十五條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ軍法會議ノ許可ヲ得テ書類若ハ證據物ヲ閱覽シ若ハ謄寫シ又ハ被告人若ハ證人ノ訊問ニ

立會フコトヲ得

鑑定人ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ許可ヲ得テ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得

第二百七十六條 軍法會議ハ受命裁判官ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百七十三條第三項ノ規定ニ依ル處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二百七十七條 軍法會議ハ鑑定ヲ十分ナラスト思料スルトキハ鑑定人ヲ増加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十八條 検査官及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得

第二百八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百七十九條 鑑定ニ付テハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外第十一節ノ規定ヲ準用ス

検査官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ第二百七十三條第三項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二百八十條 鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第二百八十一條 軍法會議ハ官署公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得

前九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第二百七十二條第三項ノ規定ニ依ル説明ハ官署公署ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第二百八十二條 特別ノ智識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本節ノ規定ニ依ラス第十一節ノ規定ヲ適用ス

第十三節 通譯

第二百八十三條 國語ニ通セサル者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

第二百八十四條 聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十五條 國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

第二百八十六條 軍法會議ハ官署公署ニ翻譯ヲ囑託スルコトヲ得

第二百八十七條 通譯及翻譯ニ付テハ第十二節ノ規定ヲ準用ス

第二章 始審

第一節 搜查

第二百八十八條 犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ家督相續人又ハ親族告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第百八十三條ノ罪ニ之ヲ適用セス

第二百八十九條 前條第二項ノ場合ニ於テ被害者ノ法定代理人被告人ナルトキ、被告人ノ配偶者ナルトキ又ハ被告人ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百九十條 刑法第二百三十條第二項ノ罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百九十一條 前三項ノ規定ニ依リテ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄軍法會議ノ検査官ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得但シ刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二百九十二條 親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知リタル時ヨリ六月内ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效ナシ

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定シタル時ヨリ六月内ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效ナシ

第二百九十三條 告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ其ノ效ヲ及ボサス

第二百九十四條 告訴ハ始審ノ判決ノ告知アル迄之ヲ取消スコトヲ得告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求ニ之ヲ準用ス

第二百九十五條 親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效ヲ生ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用ス

刑法第百八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シ告訴又ハ又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ一人ニ對シ亦其ノ效ヲ生ス

第二百九十六條 何人ニ限ラス犯罪アリト思料シタルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得

官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料シタルトキハ告發ヲ爲スヘシ

第二百九十七條 告訴又ハ告發ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九十八條 告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢察官、海軍司法警察官、檢事若ハ司法警察官又ハ之ニ相當スル官署ニ之ヲ爲スヘシ

第二百九十九條 檢察官、海軍司法警察官、檢事若ハ司法警察官又ハ相當官署口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第三百八條第三項乃至第五項及第一百一十一條ノ規定ハ檢察官又ハ海軍司法警察官ノ作ルヘキ前項ノ調書ニ之ヲ準用ス

第三百條 檢事若ハ司法警察官又ハ相當官署告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官又ハ海軍司法警察官ニ送付スヘシ

第三百一一條 告訴又ハ告發ノ取消又ハ變更ニ付テハ前四條ノ規定ヲ準用ス

第三百二條 自首ニ付テハ告發ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百三條 檢察官又ハ海軍司法警察官搜查ヲ爲スニ付テハ其ノ目的ヲ達スルニ必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ強制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

搜查ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百四條 檢察官搜查ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ト雖長官ノ認可ヲ受ケ押收、搜索、檢證、被告人ノ勾留、被告人若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ豫審官ニ請求スルコトヲ得

第三百五條 豫審官前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官ニ送付スヘシ

第三百六條 海軍司法警察官搜查ヲ爲シタルトキハ長官ニ搜查ノ報告ヲ爲シ又ハ檢察官若ハ相當官署ニ事件ヲ送致スヘシ

搜查ノ報告ヲ爲スニハ書類及證據物ト共ニ報告書ヲ檢察官ニ送付スヘシ

檢察官前項ノ規定ニ依リ報告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ書類

及證據物ト共ニ之ヲ長官ニ提出スヘシ

第三百七條 檢察官搜查ヲ爲シタルトキハ書類及證據物ニ意見書ヲ添ヘ長官ニ搜查ノ報告ヲ爲シ又ハ管轄軍法會議ノ檢察官若ハ相當官署ニ事件ヲ送致スヘシ

第三百八條 長官搜查ノ報告ヲ受ケタル場合ニ於テハ檢察官ニ對シ左ノ命令ヲ爲スヘシ

一 公訴ヲ提起スヘキモノト思料スルトキハ公訴提起ノ命令

二 豫審ニ付スルノ必要アリト思料スルトキハ豫審請求ノ命令

第三百九條 長官ハ前條ノ命令ヲ爲ササル場合ニ於テ被告事件其ノ軍法會議ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキ又ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬セサルモノナルトキハ檢察官ニ對シ其ノ事件ヲ管轄軍法會議ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スヘキ旨ノ命令ヲ爲スヘシ

檢察官被告事件ノ送致ヲ爲ス場合ニ於テ勾留セラレタル被告人ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

第三百十條 長官前二條ノ命令ヲ爲ササルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ告知スヘシ

第三百十一條 檢察官前條ノ規定ニ依ル告知ヲ受ケタルトキハ勾留シタル被告人ハ速ニ之ヲ釋放シ押收シタル物ハ速ニ之ヲ還付スヘシ但シ必要ナル場合ニ於テハ公訴ノ時效完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

第三百十二條 艦隊軍法會議ノ長官搜查ノ報告ヲ受ケタル場合ニ於テ必要アリト思料スルトキハ被告事件ヲ東京軍法會議、鎮守府軍法會議、要港部軍法會議又ハ臨時軍法會議ノ長官ニ移送スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事件ノ移送ヲ受ケタル長官ハ搜查ノ報告アリタルモノト看做シ處分スヘシ

第三百九條第二項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル移送ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二節 豫審

第三百十三條 豫審ノ請求ハ檢察官ノ屬スル軍法會議ノ豫審官ニ之ヲ爲スヘシ

第三百十四條 同一事件ニ付數個ノ軍法會議ノ豫審官ニ豫審ノ請求アリタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ其ノ豫審官中ヨ

リ豫審ヲ爲スヘキ者ヲ指定スヘシ

前項ノ決定アリタルトキハ豫審官ハ書類及證據物ヲ指定セラレタル豫審官ニ送付スヘシ

第三百十五條 豫審ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限り口頭又ハ豫定ノ符號ヲ用キタル電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審官録事ト共ニ署名捺印スヘシ

第三百十六條 豫審ノ請求ヲ爲スニハ犯罪ノ事實ヲ示スヘシ

被告人分明ナルトキハ之ヲ指定スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

豫審請求ノ後被告人分明ト爲リタルトキハ速ニ之ヲ指定シ豫審官ニ通知スヘシ

第三百十七條 豫審官ハ豫審中檢察官ノ指定セサル被告人ヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢察官ノ指定ヲ待タス之ヲ被告人ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ通知スヘシ

第三百十八條 豫審官ハ豫審中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ認知シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢察官ノ請求ヲ待タス豫審處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ通知スヘシ

檢察官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ速ニ長官ニ報告スヘシ

第三百十九條 長官前條ノ報告ヲ受ケ豫審ノ必要アリト思料スルトキハ豫審ノ請求ヲ命スヘシ

豫審官檢察官ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條ノ通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ナキトキハ其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得ス若シ被告人ヲ勾留シタルトキハ之ヲ釋放シ押收シタル物アルトキハ之ヲ還付スヘシ

第三百二十條 公訴ヲ受ケタル被告人ニ對シテハ同一事件ニ付豫審ヲ爲スコトヲ得ス

第三百二十一條 豫審官ハ豫審請求ノ手續其ノ規定ニ違ヒタル爲無効ナルトキ又ハ第三百三十四條、第三百三十九條若ハ第四百二條ノ規定ニ違反

シテ豫審ヲ請求シタルトキハ豫審ノ請求ヲ却下スヘシ

第三百二十二條 豫審ハ事件カ公訴ヲ提起スヘキモノナリヤ否ヲ決スルニ必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ限度トス

公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦其ノ取調ヲ爲スヘシ

第三百二十三條 豫審官ハ公務所ニ照會シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百二十四條 豫審官ハ被告人ヲ訊問スヘシ

豫審官ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十五條 豫審官ハ豫審終了前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル理由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十六條 豫審官ハ豫審處分ノ一部ニ付其ノ軍法會議ノ豫審官ニ補助ヲ求ムル事ヲ得

第三百二十七條 檢察官及被告人ハ豫審中何時ニテモ必要ナル豫審處分ヲ豫審官ニ請求スルコトヲ得

檢察官ハ豫審中何時ニテモ書類及證據物ヲ閱覽スルコトヲ得

第三百二十八條 豫審官ハ左ニ記載シタル場合ニ於テハ檢察官ノ意見ヲ聴キ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

一 被告人分明ナラサルトキ

二 被告人ノ所在分明ナラサルトキ

三 被告人心神喪失ノ状態ニ在ルトキ

第三百二十九條 豫審中ノ事件ニ付高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノトシテ高等軍法會議ノ検査官ヨリ豫審ノ請求アリタルトキハ豫審官ハ豫審手續ヲ止ムヘシ

第三百三十條 豫審官被告事件ニ付取調ヲ終了シタリト思料シタルトキハ書類及證據物ヲ檢察官ニ送付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ檢察官事項ヲ指示シテ取調ヲ請求シタルトキハ豫審官ハ更ニ其ノ取調ヲ爲シ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官ニ送付スヘシ

第三百三十一條 檢察官前條ノ規定ニ依リ書類及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ意見書ヲ添ヘ長官ニ豫審終了ノ報告ヲ爲スヘシ

第三百三十二條 長官前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ檢察官ニ對シ左ノ命令

ヲ爲スヘシ

一 公訴ヲ提起スヘキモノト思料スルトキハ公訴提起ノ命令

二 不起訴ノ處分ヲ爲スヘキモノト思料スルトキハ不起訴處分ノ命令

三 被告事件其ノ軍法會議ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキ又ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬セサルモノナルトキハ事件送致ノ命令

檢察官前項第一號又ハ第二號ノ命令ニ依リ公訴提起又ハ不起訴處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ豫審官及被告人ニ通知スヘシ

第三百三十三條 第三百三十二條ノ規定ハ艦隊軍法會議ノ長官第三百三十一條ノ報告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十四條 被告人ニ對シ不起訴處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ非サレハ同一事件ニ付之ヲ豫審ノ被告人ト爲シ又ハ之ニ對シ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第三百三十五條 檢察官不起訴處分ヲ爲シタルトキハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ

第三百三十六條 檢察官不起訴處分ヲ爲シタルトキハ直ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時効完成スルニ至ル迄之ヲ還付セサルコトヲ得

押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明瞭ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第三百三十七條 檢察官事件送致ノ命令ヲ受ケタルトキハ事件ヲ管轄軍法會議ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ勾留セラレタル被告人ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

第三百三十八條 檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ豫審ノ請求ヲ取消スコトヲ得豫審ノ請求ヲ取消シタル場合ニ於テ被告人トシテ訊問ヲ受ケタル者アルトキハ其ノ旨ヲ之ニ通知スヘシ

豫審請求取消前ニ爲シタル處分ハ其效力ヲ有ス

豫審請求ノ取消ニ付テハ第三百十五條ノ規定ヲ準用ス

第三百三十九條 第三百三十四條乃至第三百三十六條ノ規定ハ豫審ノ請求

ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十條 第三百八十一條及第三百八十三條ノ規定ハ豫審ニ之ヲ準用ス但シ同條中裁判長又ハ軍法會議トアルハ豫審官トス

第三節 公訴

第三百四十一條 公訴ハ檢察官ノ指定シタル以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ボサス

第三百四十二條 檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ公訴ヲ取消スコトヲ得公訴ノ取消ハ書面ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三百四十三條 時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三 長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年

五 長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

六 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ六月

七 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三百四十四條 二以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ノ時効ハ其ノ重キ刑ニ該ル罪ニ付定メタル期間ニ從フ

第三百四十五條 刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ時効ハ加重又ハ減輕セサル刑ニ該ル罪ニ付定メタル期間ニ從フ

第三百四十六條 時効ハ犯罪行為ノ終リタル時ヨリ進行ス

數人共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行為アリタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時効ノ期間ヲ起算ス

第三百四十七條 時効ハ公訴ノ提起、豫審ノ請求、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第三百四十四條ニ定メタル豫審官ノ處分ニ因リ中斷ス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時効ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シテ效力ヲ有ス

第三百四十八條 時効ハ中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ進行ス

第三百四十九條 時効ハ第三百二十八條第三號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第三百九十八條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第三百五十條 公訴提起ノ命令ハ書面ニ依リ之ヲ爲ス

公訴提起ノ命令ヲ爲スニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實ヲ示スヘシ

第三百五十一條 公訴ノ提起ハ公訴狀ニ依リ之ヲ爲ス

第三百五十二條 公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪ノ事實及罪名ヲ示スヘシ

第三百五十三條 告訴ニ係ル事件ニ付公訴ヲ提起シ若ハ之ヲ提起セス又ハ其ノ事件ヲ他ノ軍法會議ノ檢察官若ハ相當官署ニ送致シタルトキハ檢察官ハ速ニ其ノ旨ヲ告訴人ニ通知スヘシ

第四節 公判

第三百五十四條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

第三百四十一條及第三百五十四條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ之ヲ準用ス

期日ハ之ヲ檢察官ニ通知スヘシ

第三百五十五條 第一回ノ期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ但シ特設軍法會議ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セサルコトヲ得

第三百五十六條 裁判長ハ期日ヲ變更スルコトヲ得

期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

第三百五十七條 軍法會議ハ第一回ノ期日ニ於ケル取調準備ノ爲期日前被告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百五十八條 軍法會議ハ第一回ノ期日ニ於ケル取調ノ爲期日前證據物

若ハ證據書類ノ提出ヲ命シ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ期日ニ出頭スヘキ旨ノ召喚狀ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ召喚スル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ

檢察官、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ處分ヲ軍法會議ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前四項ノ規定ハ第二回以後ノ期日ニ於ケル取調ニ關シ之ヲ準用ス

第三百五十九條 檢察官、被告人又ハ辯護人ハ期日前證據物又ハ證據書類ヲ軍法會議ニ提出スルコトヲ得

第三百六十條 軍法會議ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ期日前之ヲ訊問シ又ハ受命裁判官ヲシテ訊問セシムルコトヲ得

檢察官及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得

第二百八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百六十一條 軍法會議ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

第三百六十二條 軍法會議ハ期日前公務所ニ照會シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百六十三條 期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲ス

公判廷ハ裁判官、檢察官及錄事列席シテ之ヲ開ク

第三百六十四條 公判數日引續クヘキ見込アル事件ニ付テハ長官ハ判士一人又ハ二人ニ補充裁判官ヲ命シ公判ニ立會ハシムルコトヲ得

補充裁判官ハ其官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

裁判長以外ノ判士疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ干與スルコトヲ得サル場合ニ於テハ裁判長ハ第四十九條又ハ第五十二條乃至第五十五條ニ規定スル區別ニ拘ラス補充裁判官ヲシテ之ニ代ラシムヘシ

第三百六十五條 被告人期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス

第三百六十六條 罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得但シ軍法會議ハ本人ノ出廷ヲ命スルコトヲ得

第三百六十七條 被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

第三百六十八條 被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得ス

裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル爲相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百六十九條 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ナクシテ開廷スルコトヲ得ス但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

辯護人出廷セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

第三百七十條 左ノ場合ニ於テ辯護人出廷セサルトキ又ハ辯護人選任ナキトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ辯護人ヲ附スルコトヲ得

一 被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ

二 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ

三 其ノ他必要ト認メタルトキ

第三百七十一條 前二條ノ規定ニ依リ附スヘキ辯護人ハ第八十八條ニ記載シタル者ヨリ裁判長之ヲ選任スヘシ

被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護人ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百七十二條 前三條ノ規定ハ特設軍法會議ニ付テハ之ヲ適用セス

第三百七十三條 辯論ハ之ヲ公開ス

第三百七十四條 安寧秩序若ハ風俗ヲ害シ又ハ軍事上ノ利益ヲ害スル虞アルトキハ辯論ノ公開ヲ停ムル決定ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條 辯論ノ公開ヲ停ムル決定アリタルトキハ公衆ヲ退廷セシムル前裁判長ハ其ノ決定ヲ理由ト共ニ宣告スヘシ

第三百七十六條 裁判長ハ公開ヲ停メタルトキト雖入廷セシムルヲ至當ト認ムル者ノ入廷ヲ許スコトヲ得

第三百七十七條 裁判長ハ被告人ノ部下ニ屬スル者又ハ被告人ヨリ官等、等級若ハ階級ノ下ナル第一條第一號ニ記載シタル者ノ入廷ヲ禁シ又ハ其ノ退廷ヲ命スルコトヲ得

第三百七十八條 裁判長ハ婦女、兒童又ハ相當ナル衣服ヲ著セサル者ノ入廷ヲ禁シ又ハ其ノ退廷ヲ命スルコトヲ得

第三百七十九條 前二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ處分及理由ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第三百八十條 開廷中ノ秩序ノ維持ハ裁判長之ヲ行フ

第三百八十一條 裁判長ハ辯論ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得

裁判長ハ前項ニ記載シタル者ノ行狀ニ依リ閉廷ニ至ル迄之ヲ留置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ軍法會議ハ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處ス

ルコトヲ得

第三百八十二條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用キル辯護人ニ對シ同一事件ニ付引續キ陳述スルコトヲ禁スルコトヲ得

第三百八十三條 前二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ處分及理由ヲ公判調書ニ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ懲戒處分ニ付スヘキモノト思料スルトキハ裁判長ハ公判調書ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨ヲ相當官署ニ通知スヘシ

第三百八十四條 辯論ノ指揮ハ裁判長之ヲ行フ

第三百八十五條 事實ノ認定ハ證據ニ依ル

第三百八十六條 證據ノ證明力ハ裁判官ノ自由ナル判斷ニ任ス

第三百八十七條 被告人ノ訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

裁判長以外ノ裁判官ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人又ハ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

檢察官、被告人又ハ辯護人ハ必要トスル事項ニ付被告人、證人又ハ鑑定人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

第三百八十八條 裁判長ハ共同被告人、證人其ノ他ノ者被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキハ其ノ供述中被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得供述終リタルトキハ被告人ヲ入廷セシメ供述ノ要旨ヲ告ケヘシ

第三百八十九條 證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ錄事ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

第三百九十條 期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物又ハ證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百六十條又ハ第三百六十一條ノ規定ニ依リ集取シタルモノ亦同シ但シ訴訟關係人異議ナキモノハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百九十一條 證據調ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三百九十二條 裁判長被告人ニ對シ第八十六條ノ訊問ヲ爲シタル後檢察官ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

前項ノ陳述終リタルトキハ裁判長ハ被告人ノ訊問及證據調ヲ爲スヘシ

第三百九十三條 裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其利益ト爲ルヘキ證據ヲ差出スコトヲ得ヘキ旨ヲ告クヘシ

第三百九十四條 證據調終リタル後檢察官ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述セシムヘシ

第三百九十五條 軍法會議ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

第三百九十六條 軍法會議ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ受命裁判官ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ取調ヲ爲ス場合ニ於テハ受命裁判官ハ豫審官ト同一ノ權ヲ有ス受命裁判官ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三百九十七條 裁判長ハ裁判官ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問、證據調又ハ辯論ノ指揮ニ關スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第三百九十八條 被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ

被告人疾病ニ因リテ出廷スルコト能ハサルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出廷スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百九十六條ノ規定ニ依リ代人ヲ出廷セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三百九十九條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ辯論ヲ更新スヘシ

第四百條 開廷後裁判官ノ更迭アリタルトキハ辯論ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百一條 左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一 公訴ノ取消アリタルトキ

二 被告人死亡シタルトキ

三 第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

第四百二條 公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタルトキハ再ヒ公訴ヲ提起シ又ハ豫審ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百三條 被告事件軍法會議ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第四百四條 被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四百五條 被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

第四百六條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 確定判決ヲ經タルトキ

二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三 刑ヲ免除スヘキトキ

四 大赦アリタルトキ

五 時效完成シタルトキ

第四百七條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 長官ノ命令ナクシテ公訴ヲ提起シタルトキ

二 公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違ヒタル爲無効ナルトキ

三 第三百三十四條、第三百三十九條又ハ第四百二條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

四 告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

五 公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一軍法會議ニ公訴ヲ提起シタルトキ

六 被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

第四百八條 被告人陳述ヲ肯セス若ハ許可ヲ受ケスシテ退廷シ又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百九條 罰金以下ノ刑ニ該ルモノ又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト

認ムル事件ニ付被告人出廷セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百十條 辯論終結ノ後ハ被告人出廷セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス第四百十一條 判決ノ宣告ハ公開シテ之ヲ爲ス但シ辯論ノ公開ヲ停メタル事件ニ付テハ決定ヲ以テ理由ノ告知ニ限リ公開セスシテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條ノ規定ハ前項ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百十二條 無罪、免訴、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違又ハ罰金若ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其ノ事件ニ付勾留セラレタル被告人ニ對シ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ軍法會議ハ前ニ發シタル勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄軍法會議ノ檢察官ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢察官ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢察官五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第四百十三條 押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ軍法會議ハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄軍法會議ノ檢察官ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢察官ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢察官五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第四百十四條 押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明瞭ナルトキハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ

贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ヲ請求シタルトキハ前項ノ例ニ依ル

假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ナキトキハ還付ノ言渡アリタルモノトス

第四百十五條 犯罪ニ因リ生シタル損害ニ付被害者ヨリ被告人ニ對シ其ノ回復ヲ請求シタル場合ニ於テ被告事件ノ取調ニ因リ其ノ請求ヲ相當ナリ

ト認メタルトキハ被告人異議ナキトキニ限リ其ノ請求ニ應スヘキ旨ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第四百十六條 前二條ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第四百十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地若ハ所屬部隊ノ軍法會議ノ檢察官其ノ軍法會議ニ請求ヲ爲スヘシ但シ高等軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付テハ高等軍法會議ノ檢察官高等軍法會議ニ請求ヲ爲スヘシ

第二十七條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲シタル事件ニ付テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ高等軍法會議ニ前項ノ請求ヲ爲スヘシ

前二項ノ請求アリタルトキハ軍法會議ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百十八條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官其ノ軍法會議ニ請求ヲ爲スヘシ

軍法會議前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百十九條 本節中審判ノ公開ニ關スル規定ハ之ヲ特設軍法會議ノ訴訟手續ニ適用セス

第三章 上告及非常上告

第四百二十條 上告ハ東京軍法會議、鎮守府軍法會議又ハ要港部軍法會議ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條 上告ハ判決ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ判決ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

第四百二十二條 上告ハ檢察官又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十三條 被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十四條 原審ノ辯護人又ハ代人ハ被告人ノ爲上告ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第四百二十五條 上告ハ法令違反理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

得

第四百二十六條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一 法律ニ從ヒ軍法會議ヲ構成セサリシトキ

二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ裁判官審判ニ干與シタルトキ

三 審理ニ干與セサリシ裁判官判決ニ干與シタルトキ

四 軍法會議不當ニ管轄又ハ管轄違ヲ認メタルトキ

五 軍法會議不當ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ

六 審判ノ公開ニ關スル規定ニ違ヒタルトキ

七 法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人ノ出廷ナクシテ審判ヲ爲シタルトキ

八 公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ

九 法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付其ノ出廷ナクシテ審理ヲ爲シタルトキ

十 檢察官ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ

十一 法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ

十二 公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササリシトキ

十三 法律ニ依リ公判手續ヲ停止又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止又ハ更新セザリシトキ

十四 辯論ノ最終ニ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述ヲ爲サシメサリシトキ

十五 請求ヲ受ケタル事項ニ付判決ヲ爲サス又ハ請求ヲ受ケサル事項ニ付判決ヲ爲シタルトキ

十六 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

十七 判決書ニ裁判官ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

第四百二十七條 前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百二十八條 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百二十九條 上告ノ提起期間ハ三日トス

前項ノ期間ハ判決告知ノ時ヲ以テ始ル

第四百三十條 檢察官又ハ被告人ハ上告ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第四百二十三條ニ記載シタル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

第四百三十一條 第四百二十三條ニ記載シタル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上告ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第四百三十二條 上告ハ對手人ノ同意アルニ非サレハ之ヲ取下クルコトヲ得ス

第四百三十三條 上告拋棄ノ申立ハ原軍法會議ニ之ヲ爲スヘシ

上告取下ノ申立ハ高等軍法會議ニ之ヲ爲スヘシ但シ書類ヲ高等軍法會議ノ檢察官ニ送付スル前上告ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原軍法會議ニ差出スコトヲ得

第四百三十四條 上告ノ拋棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立

書ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第四百三十五條 上告ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ上告權ヲ喪失ス

第四百三十六條 第四百二十二條乃至第四百二十四條ニ記載シタル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上告ノ提起期間内ニ上告ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原軍法會議ニ上告權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百三十七條 上告權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル時ヨリ三日内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上告權回復ノ原因タル事實ハ之ヲ疏明スヘシ

上告權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原軍法會議ニ上告ノ申立書ヲ差出スヘシ

第四百三十八條 原軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ上告權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ヲ決定スヘシ

第四百三十九條 上告權回復ノ請求アリタルトキハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第四百四十條 上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原軍法會議ニ差出スヘシ

第四百四十一條 監獄ニ在ル者上告ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ其ノ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ上告ノ提起期間内ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ差出シタルトキハ上告申立ノ效力ヲ生ス

監獄ニ在ル者自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ所屬官吏ヲシテ之ヲ代書セシムヘシ

監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ原軍法會議ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ

第四百四十二條 前條ノ規定ハ上告ノ拋棄若ハ取下又ハ上告權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十三條 上告ノ申立、拋棄若ハ取下又ハ上告權回復ノ請求アリタルトキハ錄事ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スヘシ

第四百四十四條 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百四十五條 前條ノ場合ヲ除クノ外原軍法會議ハ書類ヲ其ノ軍法會議ノ檢察官ニ送付シ檢察官ハ之ヲ高等軍法會議ノ檢察官ニ送付スヘシ

高等軍法會議ノ檢察官ハ書類ヲ其ノ軍法會議ニ送付スヘシ

第四百四十六條 高等軍法會議ハ遅クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ三十日前ニ其期日ヲ上告人及對手人ニ通知スヘシ

最初ニ公判期日ヲ定ムル前辯護人ノ選任アリタルトキハ被告人ニ對スル前項ノ通知ハ辯護人ニ對シ之ヲ爲スヘシ

第四百四十七條 上告人ハ遅クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ十四日前ニ上告趣意書ヲ高等軍法會議ニ差出スヘシ

第四百四十八條 上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十四日前迄上告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ上告ハ上告趣意書ヲ高等軍法會議ニ差出スニ依リテ之ヲ爲ス

第四百四十九條 上告趣意書ニハ法令違反ノ理由ヲ明示スヘシ
訴訟手續ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ尙違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百五十條 高等軍法會議上告趣意書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄

本ヲ對手人ニ送達スヘシ

第四百五十一條 上告人期間内ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百五十二條 上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日より十日内ニ答辯書ヲ高等軍法會議ニ差出スコトヲ得

檢察官對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ差出スヘシ

高等軍法會議答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ上告人ニ送達スヘシ

第四百五十三條 裁判長ハ受命裁判官ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ閱シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

第四百五十四條 上告ノ審判ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百五十五條 期日ニハ受命裁判官ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ
檢察官及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲スヘシ

第四百五十六條 辯護人出廷セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢察官ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

第四百五十七條 高等軍法會議ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限り調査ヲ爲スヘシ

軍法會議ノ管轄、公訴ノ受理及原判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得原判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ

第四百五十八條 高等軍法會議ハ軍法會議ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續ノ當否ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ他ノ軍法會議ノ豫審官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第四百五十九條 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ高等軍法會議ハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百六十條 高等軍法會議上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百六十一條 高等軍法會議上告ヲ理由アリトスルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ事件ヲ原軍法會議ニ差戻シ又ハ原軍法會議以外ノ東京軍法會議、鎮守府軍法會議若ハ要港部軍法會議ニ移送スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百六十二條 法令ヲ適用セサルコト、法令ノ適用ヲ誤リタルコト、判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ被告事件ノ事實原判決ニ依リ定リタルトキハ高等軍法會議ハ其ノ事件ニ付判決ヲ爲スヘシ不當ニ公訴ヲ受理シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキ亦同シ

第四百六十三條 不當ニ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ其ノ事件ヲ管轄軍法會議ニ移送スヘシ

第四百六十四條 不當ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ其ノ事件ヲ管轄軍法會議ニ移送スヘシ

第四百六十五條 上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ハ之ヲ判決書ニ記載スヘシ

第四百六十六條 被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ利益ノ爲上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ高等軍法會議ハ原判決ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百六十七條 原軍法會議不當ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲ササリシトキハ高等軍法會議ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

第四百六十八條 事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル軍法會議ハ其ノ事件ニ付高等軍法會議ノ表示シタル法律上ノ意見ニ羈束セラル

第四百六十九條 上告ノ審判ニ付テハ本章ニ規定シタルモノヲ除クノ外第二編第二章第四節ノ規定ヲ準用ス

第四百七十條 軍法會議ノ判決確定後其ノ判決法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ高等軍法會議ノ長官ハ檢察官ヲシテ高等軍法會議ニ非常上告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百七十一條 非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ高等

軍法會議ニ差出スヘシ

第四百七十二條 期日ニハ檢察官ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ

第四百七十三條 高等軍法會議非常上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百七十四條 高等軍法會議非常上告ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ破毀シ更ニ判決ヲ爲スヘシ但シ原判決ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四章 再審

第四百七十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲之ヲ爲スコトヲ得

一 原判決ノ證據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ偽造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ

二 原判決ノ證據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ偽證又ハ虛偽ノ鑑定、通譯若ハ翻譯ナリシコト證明セラレタルトキ

三 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル

四 原判決ノ證據ト爲シタル裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ

五 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪又ハ免訴ヲ言渡スヘキ明確ナル證據又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

六 原判決ニ干與シタル裁判官、原判決ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官若ハ豫審官、豫審ニ干與シタル豫審官、搜查若ハ公訴ノ提起ニ干與シタル檢察官又ハ第三百四條ノ規定ニ依リ檢察官ノ請求ヲ受ケテ處分ヲ爲シタル豫審官被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前裁判官、豫審官又ハ檢察官ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ

原判決ヲ爲シタル軍法會議其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第四百七十六條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ刑ノ言渡又ハ無罪、免訴若ハ公訴棄却ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者ノ不利益ノ爲之ヲ爲スコトヲ得

一 前條第一號、第二號、第四號又ハ第六號ニ記載シタル原由アルトキ

二 無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケタル者軍法會議又ハ軍法會議外ニ於テ自白シタルトキ

三 免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル者軍法會議又ハ軍法會議外ニ於テ其ノ原由ナカリシコトヲ陳述シタルトキ

第四百七十七條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百五十八條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百七十五條第一號、第二號又ハ第四號ニ記載シタル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官又ハ豫審官ニ第四百七十五條第六號ニ記載シタル原由アルトキ

始審ノ確定判決ニ對シテ再審ヲ請求シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ上告棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十八條 前三條ノ規定ニ從ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ犯罪ニ付公訴ヲ實行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由及犯罪事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百七十九條 再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外原判決ヲ爲シタル軍法會議之ヲ管轄ス

第四百八十條 第四百六十二條ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對スル再審ノ請求ハ左ノ場合ヲ除クノ外始審ノ判決ヲ爲シタル軍法會議之ヲ管轄ス

一 第四百五十八條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百七十五條第一號、第二號又ハ第四號ニ記載シタル原由アリトスルトキ

二 高等軍法會議ノ判決又ハ其ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官又ハ豫審官ニ第四百七十五條第六號ニ記載シタル原由アリトスルトキ

第四百八十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ左ニ記載シタル者之ヲ爲スコトヲ得

一 管轄軍法會議ノ檢察官

二 刑ノ言渡ヲ受ケタル者

三 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人又ハ夫

四 刑ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在ル場合ニ於テ

ハ其ノ配偶者、家督相續人、直系親族又ハ兄弟姉妹

第四百七十五條第六號又ハ第四百七十七條第一號第二號ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲ニ因リ罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢察官ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者ノ不利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ管轄軍法會議ノ檢察官之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十二條 檢察官ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得但シ特設軍法會議ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

第四百八十三條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ終ヘタルトキ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキト雖之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十四條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者ノ不利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ判決確定後公訴ノ時効ニ付定メタル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十五條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ管轄軍法會議ノ檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ再審ノ請求ニ付テハ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百八十六條 再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本及證據ヲ添ヘ之ヲ管轄軍法會議ニ差出スヘシ

第四百八十七條 再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得

第四百八十八條 第四百三十二條、第四百三十四條、第四百四十一條及第四百四十三條ノ規定ハ再審ノ請求及其ノ取下ニ之ヲ準用ス

第四百八十九條 第四百六十二條ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテ高等軍法會議及始審ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ニ再審ノ請求アリタルトキハ

高等軍法會議ハ決定ヲ以テ始審ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ノ訴訟手續終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ始審ノ確定判決ト上告棄却ノ判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキ亦同シ

第四百九十條 再審ノ請求法律上ノ方式ニ違ヒタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百九十一條 再審ノ請求ヲ理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却

スヘシ

第四百九十二條 再審ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ再審開始ノ決定ヲ爲

スヘシ

再審開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定ヲ以テ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百九十三條 第四百八十九條ノ場合ニ於テ始審ノ判決ヲ爲シタル軍法會議再審ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキハ高等軍法會議ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第四百九十四條 再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス場合ニ於テハ請求ヲ爲シタル者及其ノ對手人ノ意見ヲ聽クヘシ但シ第四百八十一條第一項第三號ニ記載シタル者再審ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ併セテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ意見ヲ聽クヘシ

第四百九十五條 再審開始ノ決定ヲ爲シタル事件ニ付テハ其ノ審級ニ從ヒ更ニ審判ヲ爲スヘシ

第四百九十六條 死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失ノ狀態ニ在ル者ノ利益ノ爲再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢察官又辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ爲シタル者辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ第三百七十一條ノ規定ニ準シ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前刑ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定中辯護人ニ關スルモノハ特設軍法會議ニ付テハ之ヲ適用セス

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十七條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者ノ不利益ノ爲再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審判決ヲ爲ス前刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百九十八條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲爲シタル再審ニ於テハ

原判決ニ於テ言渡シタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス
第四百九十九條 再審ニ於テ無罪ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ官報ヲ以テ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第五章 裁判ノ執行

第五百條 裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス

第五百一條 裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官又ハ其ノ裁判ヲ爲シタル豫審官ノ屬スル軍法會議ノ檢察官之ヲ指揮ス但シ其ノ性質上軍法會議、裁判長、受命裁判官又ハ豫審官ノ爲スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

上告ノ裁判又ハ上告ノ取下ニ因リ原軍法會議ノ裁判ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ高等軍法會議ノ檢察官其ノ執行ヲ指揮ス

前二項ノ場合ニ於テ訴訟書類原軍法會議ニ在ルトキハ其ノ軍法會議ノ檢察官裁判ノ執行ヲ指揮ス

第五百二條 裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ但シ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除クノ外裁判書ノ原本、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄本ニ認印シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百三條 二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金及科料ヲ除クノ外其ノ重キモノヲ先ニス但シ檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百四條 死刑ノ執行ハ海軍大臣ノ命令ニ依ル

第五百五條 死刑ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ檢察官ハ速ニ訴訟記録ヲ長官ヲ經由シテ海軍大臣ニ差出スヘシ

第五百六條 海軍大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキハ五日內ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ

第五百七條 死刑ノ執行ハ檢察官及録事ノ立會ニテ監獄ノ長之ヲ爲スヘシ長官ハ監獄ノ長ノ申請ニ因リ兵員ノ出場ヲ命スヘシ

檢察官又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス

第五百八條 死刑ノ執行ニ立會タル録事ハ執行始末書ヲ作り檢察官及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第五百九條 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ海軍大

臣ノ命令ニ依リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス
死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ海軍大臣ノ命令ニ依リ分娩ニ
至ル迄執行ヲ停止ス

前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル者ニ付テハ痊癒又ハ分娩ノ
後海軍大臣ノ命令アルニ非サレハ其ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百十條 特設軍法會議死刑ヲ言渡シタル場合ニ於テハ其ノ執行又ハ
執行ノ停止ニ關スル海軍大臣ノ職務ハ長官之ヲ行フコトヲ得

第五百十一條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ
在ルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所
在地ノ軍法會議ノ檢察官ノ指揮ニ依リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第五百十二條 前條ノ規定ニ因リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ刑ノ言渡
ヲ受ケタル者第一條ニ記載シタル身分ヲ有セサルトキハ檢察官ハ之ヲ監
護義務者又ハ市區町村長ニ交付シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコ
トヲ得

刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ
期間ヲ刑期ニ算入ス

第五百十三條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議
又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ノ軍法會議ノ檢察官ノ指揮ニ依リ事
故ノ止ム迄懲役、禁錮又ハ拘留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ
二 受胎後七月以上ナルトキ
三 分娩後一月ヲ經過セサルトキ

四 刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生スル虞アルトキ
五 其ノ他重大ナル事由アルトキ

第五百十四條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁中ニ
非サルトキハ檢察官ハ執行ノ爲之ヲ召喚スヘシ召喚ニ應セサルトキハ逮
捕狀ヲ發スヘシ

第五百十五條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者逃走シタル
トキ又ハ逃走スル虞アルトキハ檢察官ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ海軍司法
警察官若ハ司法警察官ニ請求シ若ハ囑託シテ之ヲ發セシムルコトヲ得

第五百十六條 逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏名、住居、年齡、

刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢察官又ハ海軍司法警察
官之ニ記名捺印スヘシ

逮捕狀ヲ發スル場合ニ於テ必要アルトキハ人相書ヲ添附スヘシ

第五百十七條 逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百十八條 逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百十九條 檢察官刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハ
サルトキハ檢察官又ハ之ニ相當スル官署ニ人相書ヲ送付シ其ノ搜查及逮
捕ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル官署ハ其ノ管轄區域内ノ檢事又ハ相當官署ヲシテ逮捕狀
ヲ發シ搜查及逮捕ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五百二十條 罰金、科料、過料、沒收、沒取、追徴又ハ費用賠償ノ裁判
ハ檢察官ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス其ノ執行ヲ受クヘキ者ニ付相續開始ア
リタルトキハ相續財産ニ就キ執行スルコトヲ得

第五百二十一條 前條ノ執行ニ付強制執行ヲ要スルトキハ軍艦、兵營其ノ
他軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ内ニ於テ之ヲ爲ス場合ヲ除クノ外檢察官ノ囑
託ニ因リ區裁判所其ノ他民事裁判ニ付強制執行ヲ爲ス權アル官署ニ於テ
之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢察官ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ
效力ヲ有ス

囑託ニ因リ爲ス官署ノ執行手續ニ付テハ民事裁判ノ執行ニ關スル規定ヲ
準用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五百二十二條 前條第二項ノ規定ニ依リ執行ノ費用ハ執行ヲ受クル者ノ
負擔トシ民事訴訟法ノ規定ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

第五百二十三條 第四百十五條ノ規定ニ依リ爲シタル賠償ノ言渡ニ付被害
者ヨリ強制執行ノ請求アリタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス

第五百二十四條 沒收物ハ檢察官之ヲ處分スヘシ

第五百二十五條 沒收ノ執行後三月内ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付
ヲ請求シタルトキハ檢察官ハ破壊又ハ廢棄スヘキ物ヲ除クノ外之ヲ交付
スヘシ

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢察官ハ公賣ニ
因リテ得タル代價ヲ交付スヘシ

第五百二十六條 偽造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ偽造又ハ

變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示スヘシ

偽造又ハ變造ニ係ル物押收セラレサルトキハ之ヲ提出セシメテ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ物公務所ニ屬スルトキハ偽造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第五百二十七條 押收物ノ返還ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢察官ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月内ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ期間内ト雖價值ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第五百二十八條 檢察官ハ必要ナル場合ニ於テハ他ノ軍法會議ノ檢察官、地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ裁判ノ執行ニ關スル處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五百二十九條 刑ヲ言渡シタル裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ其ノ言渡ヲ受ケタル者ハ言渡ヲ爲シタル軍法會議ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百三十條 刑ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢察官ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ裁判ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百三十一條 疑義又ハ異議ノ申立ハ其ノ裁判アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

疑義若ハ異議ノ申立又ハ其ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四百四十一條ノ規定ハ疑義若ハ異議ノ申立又ハ其ノ取下ニ之ヲ準用ス

第五百三十二條 疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第五百三十三條 罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲シタル勞役場留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

第五百三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法第二編第二章中親告罪ノ告訴、請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求及時效ニ關スル規定ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ施行期日ヲ定ム

親告罪ノ告訴、請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求及時效ニ關シテハ前項ノ規定ニ依リ定ムル施行期日ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

第五百三十五條 海軍治罪法及臨時海軍軍法會議法ハ之ヲ廢止ス

第五百三十六條 本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨ケス
本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第五百三十七條 本法施行前裁判權ヲ有スル事件ニ付審問、審判又ハ判決ノ命令アリタルトキハ本法ニ依リ軍法會議裁判權ヲ有セサルトキト雖軍法會議之ヲ審判ス

第五百三十八條 本法施行前軍法會議裁判權ヲ有セサル事件ニ付通常裁判所其ノ他ノ官署ニ公訴ノ提起アリタルトキハ本法ニ依リ軍法會議裁判權ヲ有スルトキト雖公訴ヲ受ケタル官署之ヲ審判ス

第五百三十九條 從來ノ軍法會議ハ本法ニ於テ之ニ相當スル軍法會議トス
第五百四十條 本法施行前管轄權ヲ有スル事件ニ付審問、審判又ハ判決ノ命令アリタルトキハ本法ニ依リ管轄權ヲ有セサルトキト雖其ノ命令ヲ受ケタル軍法會議之ヲ審判ス

第五百四十一條 本法施行前審判ヲ委シタル事件ハ第三百十二條又ハ第三百二十三條ノ規定ニ依リ移送アリタルモノト看做ス

第五百四十二條 本法施行ノ際在職ノ判士長及判士ハ本法ニ依ル判士トス
第五百四十三條 本法施行ノ際在官ノ主理ハ別ニ辭令ヲ用キス海軍法務官ニ任セラレタルモノトス

本法施行ノ際休職ノ主理ハ本法ニ依リ休職ヲ命セラレタル海軍法務官トス
本法施行ノ際ニ限リ第三十九條ノ事由ナキト雖海軍大臣ハ海軍法務官ニ休職ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ休職ト爲リタル海軍法務官ノ休職ノ期間ハ三年トシ
第二項ノ者ニ在リテハ本法施行前休職ト爲リタル時ヨリ之ヲ起算ス

前項ノ休職ノ期間滿期ト爲リタルトキハ退職トス
第五百四十四條 本法施行前發シタル收禁狀ハ之ヲ本法ニ依リ發シタル勾留狀ト看做ス

第五百四十五條 本法施行前ニ爲シタル檢察ノ處分ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル捜査ノ處分ト看做ス

第五百四十六條 本法施行前檢察ノ處分ニ著手シタル官署本法ニ依リ捜査權ヲ有セサルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官又ハ海軍司法警察官ニ送付スヘシ本法施行前告訴又ハ告發ヲ受ケタル官署亦同シ

第五百四十七條 第二百九十二條ノ期間ハ同條施行前犯人ヲ知り又ハ婚姻ノ無效若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ同條施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五百四十八條 本法施行前檢察具申アリタル事件ニシテ海軍治罪法第五十二條ノ手續ヲ爲ササルモノハ之ヲ第三百六條又ハ第三百七條ノ規定ニ依リ報告アリタルモノト看做ス

第五百四十九條 本法施行前ニ爲シタル審問ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル豫審ト看做ス

本法施行前審問ニ著手シタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ豫審ノ請求アリタルモノト看做ス

第五百五十條 本法施行前海軍治罪法第七十八條第二號ノ規定ニ依リ具申アリタル事件ニシテ長官ノ命令又ハ認可ナキモノハ之ヲ第三百三十一條ノ規定ニ依リ報告アリタルモノト看做ス

第五百五十一條 本法施行前審問ニ於テ免訴ノ言渡アリタル事件ニ付テハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ限り更ニ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起スルコトヲ得

第五百五十二條 本法施行前判決ニ著手シタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ公訴ノ提起アリタルモノト看做ス

第五百五十三條 本法施行前判決ヲ終ヘ裁判宣告ヲ爲ササル事件ハ舊法ニ依リ之ヲ終結スヘシ

第五百五十四條 本法施行前海軍治罪法第一百一條ノ規定ニ依リ又ハ同法第一百二條各號ニ記載シタル事由ニ因リ再審ノ命令アリタル事件ハ舊法ニ依リ之ヲ終結スヘシ

第五百五十五條 本法施行前海軍治罪法第一百二條又ハ同法第一百三條ノ規定ニ依リ再審ノ申訴又ハ具申アリテ命令ナキ事件ハ之ヲ本法ニ依リ管轄軍法會議ニ再審ノ請求アリタルモノト看做ス

第五百五十六條 本法施行前提起シタル私訴ハ之ヲ第四百十五條ノ規定ニ依リ損害回復ノ請求ト看做ス

第五百五十七條 本法施行前言渡シタル私訴裁判ノ強制施行ニ付テハ第五百二十三條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十八條 本法施行前進行ヲ始メタル私訴ノ時効ハ從前ノ規定ニ從フ

第五百五十九條 本法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地竝朝鮮、臺灣、樺太及關東州ニ在リテハ勅令ヲ以テ指定スル官吏吏員之ヲ行フ

第五百六十條 本法ニ記載シタル刑法ノ規定ハ朝鮮、臺灣及關東州ニ在リテハ各之ニ相當スル法令ノ規定トス

第五百六十一條 別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外他ノ法律中海軍ノ主理トアルハ海軍法務官トス

陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法廢止法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十年一月十九日

內閣總理大臣 原 敬

海軍大臣 男爵加藤友三郎

陸軍大臣 男爵田中義一

司法大臣 伯爵大木遠吉

陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法廢止法律案

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際強制執行中ノ事件ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

刑事交渉法案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十年一月十九日

内閣總理大臣 原 敬

海軍大臣 男爵加藤友三郎

陸軍大臣 男爵田中義一

司法大臣 伯爵大木遠吉

刑事交涉案

刑事交涉案

第一條 通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ト軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ト牽連スルトキハ檢察官及司法警察官ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付、陸海軍ノ檢察官陸軍司法警察官及海軍司法警察官ハ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付捜査ヲ爲スコトヲ得

數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

一 一人數罪ヲ犯シタルトキ

二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ

三 數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

四 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第二條 陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官及海軍司法警察官ハ陸軍又ハ海軍ノ部隊内ノ犯罪事件ニシテ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノニ付捜査ヲ爲スコトヲ得

第三條 檢察官及陸海軍ノ檢察官ハ前二條ノ規定ニ依リ捜査ヲ爲スコトヲ得ヘキ事件ニ付豫審ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ豫審ノ請求ヲ受ケタル豫審判事又ハ豫審官ハ必要ナル處分ヲ爲シタル後豫審判事ハ檢察官ニ、豫審官ハ陸海軍ノ檢察官ニ事件ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テ豫審判事又ハ豫審官ハ前ニ發シタル勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

第四條 陸軍軍法會議法第一條第一號又ハ海軍軍法會議法第一條第一號第一號ニ記載シタル者ニ對シ通常裁判所又ハ豫審判事ノ發シタル勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ現行犯ニ關スルモノヲ除クノ外其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ求ムヘシ所屬ノ長又ハ之ニ

代ルヘキ者ハ軍事上已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

陸軍軍法會議法第一條第一號又ハ海軍軍法會議法第一條第一號第一號ニ記載シタル者ニ對シ現行犯ニ關シ通常裁判所、豫審判事、檢察官又ハ司法警察官ノ發シタル勾引狀又ハ勾留狀ノ執行アリタルトキハ之ヲ發シタル者速ニ其ノ旨ヲ執行ヲ受ケタル者ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知スヘシ

第五條 通常裁判所ノ裁判權及軍法會議ノ裁判權ニ屬スル同一事件ニ付雙方ニ公訴ノ提起アリタルトキハ最初ニ公訴ノ提起アリタル官署之ヲ審判ス

前項ノ場合ニ於テ通常裁判所及軍法會議共ニ便宜ト認ムルトキハ後ニ公訴ノ提起アリタル官署ニ於テ事件ノ審判ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第六條 通常裁判所、豫審判事又ハ檢察官ト軍法會議、豫審官又ハ陸海軍ノ檢察官トハ相互ニ牽連事件ニ關スル調書其ノ他ノ書類又ハ證據物ノ送付又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

檢察官ハ豫審官、陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官ニ對シ第二條ニ掲グル犯罪事件ノ豫審又ハ捜査ニ關スル書類又ハ證據物ノ送付又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第七條 檢察軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付捜査ヲ爲シ又ハ通常裁判所若ハ豫審判事ヨリ事件ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ陸海軍ノ檢察官ニ送致スヘシ

陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付捜査ヲ爲シ又ハ軍法會議若ハ豫審官ヨリ事件ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ檢察官ニ送致スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ送致前ニ發シタル勾留狀ハ送致後ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

前項ノ勾留狀ハ送致ヲ受ケタル官署五日內ニ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起セサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第八條 豫審判事ノ爲シタル免訴ノ決定確定シタルトキハ陸海軍ノ檢察官ハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ非サレハ同一事件ニ付豫審ヲ

請求シ又ハ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

陸海軍ノ檢察官豫審ノ取調終了後不起訴處分ヲ爲シ又ハ豫審ノ請求ヲ取消シタルトキハ檢事ハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ非サレハ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

軍法會議公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定ヲ爲シタルトキハ檢事ハ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第九條 前條ノ規定ニ違反シテ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起シタルトキハ豫審官又ハ軍法會議ハ豫審ノ請求ヲ却下シ又ハ判決ヲ以テ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘシ

第十條 刑事訴訟法ニ依ル時効ノ中斷ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付、陸軍軍法會議法又ハ海軍軍法會議法ニ依ル時効ノ中斷ハ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付其ノ效力ヲ有ス

第十一條 本法ハ陸海軍官憲ト朝鮮、臺灣、關東州ノ司法官憲其ノ他ノ特別司法官憲トノ間ニ於ケル刑事交渉事項及陸軍司法官憲ト海軍司法官憲トノ間ニ於ケル刑事交渉事項ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十八年第十二號布告ハ之ヲ廢止ス

參照

明治十八年第十二號布告

普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分法左ノ通制定ス但從前ノ成規中本則ニ牴觸スルモノハ當分施行セス

第一條 常人ニシテ陸軍刑法若クハ海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ普通裁判所ニ於テ之ヲ審判ス但刑ノ執行ハ普通ノ規則ニ從フ

第二條 軍人常人共ニ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ軍人ハ軍法會議ノ判決ニ付シ常人ハ普通裁判所ノ公判ニ付ス軍衛ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ常人ハ審問ノ上證據書類ト共ニ之ヲ管轄ノ普通裁判所檢事ニ送致シ普通裁判所ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ軍人ハ審問ノ上證據書類ト共ニ之ヲ被告人ノ所屬長若クハ陸海軍檢察官ニ送致スヘシ

第三條 敵前軍中臨戰合圍ノ地若クハ海軍諸用ニ供スル船舶ニ在テ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ常人ト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得但

戒嚴令第十一條第十二條ニ掲クルモノハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スヘシ

第四條 軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ付テハ軍法會議又ハ普通裁判所ノ言渡ニ對シ普通治罪法ニ定メタル手續ニ從ヒ大審院ニ上告スルコトヲ得但軍法會議ノ言渡ニ對シ上告スルハ被告人ニ限ルヘシ

第五條 多衆ノ軍人常人闖毆殺傷其他疑讞ニ係ル罪ヲ犯シタルトキハ軍法會議同審問スルコトヲ得

第六條 軍法會議ト普通裁判所トノ間ハス既ニ確定シタル裁判ノ效力ハ互ニ之ヲ侵スコトヲ得ス

右奉 勅旨布告候事

陸軍法務官及海軍法務官ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十年一月十九日

內閣總理大臣 原 敬

海軍大臣 男爵加藤友三郎

陸軍大臣 男爵田中義一

陸軍法務官及海軍法務官ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律案

陸軍法務官又ハ海軍法務官退職シタルトキハ官吏恩給及官吏遺族扶助ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ退官シタルモノト看做シ退職者現職ニ復シタルトキハ再ヒ任官シタルモノト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
明治二十九年法律第三號ハ之ヲ廢止ス

參照

明治二十九年二月十日法律第三號

理事豫備トナリ若ハ退職トナリタルトキハ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ニ於テ退官者ト同視シ其ノ豫備ニ在ル者戰時若ハ事變ニ際シ現職ニ復シタルトキハ再ヒ任官シタルモノト同視ス

〔國務大臣男爵加藤友三郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵加藤友三郎君) 海軍軍法會議法案ハ、唯今陸軍軍法會議法

案ニ付マシテ政府委員ヨリ説明イタシマシタト、同様ノ意味ニ於キマシテ提案イタシタ次第アリマス、日程第十二ノ陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法廢止法律案、是ハ是マデノ現行法ニ依リマス、私訴ニ關シマスルコトモ軍法會議ニ於テ審判スルコトニナツテ居リマスルケレドモ、今回ノ軍法會議法案ニ依リマスレバ、是ハ普通裁判ニ讓ルコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、從テ現行執行法ハ必要ヲ感ジマセヌノデ、此廢止案ヲ提議イタシタ次第ゴザイマス、日程第十四ノ刑事交渉法案、是ハ軍法會議ニ於テ審判イタシマスル事柄ト、普通裁判ニ於テ審判イタシマスル事柄ニ付マシテ、互ニ交渉ヲ致ス必要ノアル場合ガ多アルノデアリマス、此規定ハ明治十八年太政官達ヲ以テ規定サレテ居ルノデアリマスルガ、不備ノ點ガ多アリマスノデ、今回陸海軍ノ軍法會議法案ヲ提案イタシマスル機會ニ於キマシテ、改正増補イタシマシテ、此法案ヲ提議イタシタ次第ゴザイマス、日程第十六ノ陸軍法務官及海軍法務官ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律案、是ハ今回提案イタシマシタ軍法會議法案ニ依リマス、陸海軍ノ法務官ハ終身官トナリマス、又是ニ退職ヲ爲シ得ル規定モアルノデアリマス、從テ是等法務官ノ恩給並ニ其遺族扶助料ニ關スル規定ヲ設クル必要ガアリマス、茲ニ本案ヲ提議イタシタ次第ゴザイマス、何卒是等ノ諸案ニ付マシテ、御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 唯今海軍大臣ノ説明セラレマシタ、第十ヨリ第十六マデノ法案ノ特別委員ハ、陸軍軍法會議法案ト同一委員デ御異存ゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第十八、巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案、政府提出、第一讀會

巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十年一月十九日

内閣總理大臣

原

敬

陸軍大臣 男爵田中義一
內務大臣 床次竹二郎

巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案

巡查看守退隱料及遺族扶助料法中左ノ通改正ス

第二十六條及第二十八條中「陸軍警守」ヲ「陸軍警査」ニ改ム

第二十六條ノ二 巡査及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ノ勤績年數ハ相互ニ之ヲ通算シ其ノ交互ノ轉職ハ第六條ノ規定ニ拘ラス之ヲ勤績ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第二十六條ノ二ノ改正規定ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ陸軍警守及其ノ遺族ハ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ノ適用ニ付テハ之ヲ陸軍警査及其ノ遺族ト看做ス

〔國務大臣床次竹二郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 此改正案ハ極メテ簡單デゴザイマシテ、一ツハ巡査ト判任待遇ヲ受ケマスル消防手トノ間、相互轉職ノ場合ニ於テ勤績年數ヲ通算シヤウト云フノデゴザイマス、モウ一ツハ軍法會議法ノ改正ニ伴ヒマシテ、陸軍警守トアリマスルノヲ陸軍警査ト改メタイ趣意デアリマス、宜シク……

○議長(公爵德川家達君) 此委員モ前ノ陸軍軍法會議法案ト同一委員ニ付託イタシタイト考ヘマス、御異存ゴザイマセスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 次ハ御異議ガナケレバ日程第二十第二十二ノ法案ヲ、一括シテ説明ヲ煩ハシマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 日程第二十、明治三十五年法律第二十九號中改正法律案、第二十二、明治四十四年法律第六十一號中改正法律案、政府提出、第一讀會

明治三十五年法律第二十九號中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十年一月十九日

內閣總理大臣 原 敬

陸軍大臣 男爵田中義一

明治三十五年法律第二十九號中改正法律案

明治三十五年法律第二十九號中左ノ通改正ス

第一條乃至第三條中「陸軍警守」ヲ「陸軍警査」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從前ノ陸軍警守ハ明治三十五年法律第二十九號ノ適用ニ付テハ之ヲ陸軍警査ト看做ス

參照

臺灣ニ在勤スル巡查看守陸軍監獄看守陸軍警守女監取締退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律明治三十五年三月二十五日法律第二十九號

改正 三十八年第二十九號、三十九年第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣ニ在勤スル巡查看守退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、內務大臣副署)

第一條 臺灣ニ在勤スル巡查看守陸軍監獄看守陸軍警守及女監取締ニシテ

二箇年以上引續キ在職シタル者ニハ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ノ勤

續年數計算ニ於テ其ノ在職一箇月ニ對シ半箇月ヲ加算ス但シ從軍年ノ加

算アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ加算ハ臺灣ニ到着シタル日ニ始マル

第二條 臺灣ニ在勤スル巡查看守陸軍監獄看守陸軍警守及女監取締ニシテ

二箇年以上引續キ在職シタル者臺灣ニ於テ風土病又ハ流行病ニ罹リタル

トキハ退隱料給與上職務ノ爲疾病ニ罹リタルモノト看做ス

第三條 臺灣ニ在勤スル巡查看守陸軍監獄看守陸軍警守及女監取締ニシテ

臺灣ニ於テ風土病又ハ流行病ニ罹リタルトキハ遺族扶助料給與上職務ノ

爲疾病ニ罹リタルモノト看做ス

第四條 前條ノ風土病及流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第五條 本法ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ臺灣ニ在勤スル者ニ關シテハ本法

施行前ヨリ在職年月數ニモ之ヲ適用ス

附則

本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則(三十九年法律第五號附則)

臺灣ニ在勤スル女監取締ニ關シテハ明治三十九年四月一日以後ノ勤續年數

ヲ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ於ケル勤續年數トス

明治四十四年法律第六十一號中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十年一月十九日

內閣總理大臣 原 敬

陸軍大臣 男爵田中義一

明治四十四年法律第六十一號中改正法律案

明治四十四年法律第六十一號中左ノ通改正ス

「陸軍警守」ヲ「陸軍警査」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從前ノ陸軍警守ハ明治四十四年法律第六十一號ノ適用ニ付テハ之ヲ陸軍警査ト看做ス

參照

臺灣又ハ樺太ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律及臺灣

ニ在勤スル巡查看守陸軍監獄看守陸軍警守女監取締退隱料及遺族扶助

料ニ關スル法律準用ニ關スル法律明治四十四年四月一日法律第六十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治三十三年法律第七十五號同三十五年法律第

二十九號準用ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、陸軍、海軍大臣副署)

明治三十三年法律第七十五號第一條ノ規定ハ朝鮮ニ在勤スル内地人タル陸

海軍所屬ノ文官判任以上ノ者ニ之ヲ準用ス

明治三十五年法律第二十九號第一條ノ規定ハ朝鮮ニ在勤スル内地人タル陸

軍監獄看守及陸軍警守ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス

〔政府委員志水小一郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(志水小一郎君) 此兩法律案、明治三十五年法律第二十九號、明治四十四年法律第六十一號ハ、何レモ極メテ簡單ナル法律案デゴザイマス、デ軍法會議法ニ於テ、治罪法ニ於ケル警守ヲ警査ト改稱イタス、其爲ニ臺灣朝鮮ニ於ケル是等ノ在勤年數加算ニ關スル規定ニ修正ヲ加ヘル必要ガアリマス、要スルニソレダケノ趣旨デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第二十及ビ第二十二ノ法案モ、陸軍軍法會議法案ト同一委員ニ付託シテ、御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、本日ハ是ニテ延會スルコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス、明二十五日ハ午前十時ヨリ會議ヲ開キマス、議事日程ハ後ヨリ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會

午後二時四十六分散會